

參考資料集

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(1) グリーンインフラの分析の目的

今、世界では、自然を回復させてより豊かな状態にしていく「ネイチャーポジティブ」という考え方方が広がっています。朝霞市でも、これまで以上にみどりを大切に守り、増やしていく取組をしっかりと進めていくことが求められています。

そこで、こうした取組を確かな根拠（理由）に基づいて進めていくために、みどりが人々の生活をどれほど豊かにし、支えてくれているのか、そのさまざまな効果について詳しい分析を行いました。

みどりには、人間や生き物の暮らしを支えるだけでなく、街の魅力を高めるなど、数多くの大切な「機能（役割）」があります。こうしたみどりが持つさまざまな機能を賢く使って、まちづくりの課題を解決しようとする取組を「グリーンインフラ」と呼びます。

今回の分析では、この「みどりの機能」という視点に立って、市内の現状を詳しく調べています。



図 参-1 グリーンインフラの多面的なはたらき

(2) グリーンインフラの分析の構成

解析に先立ち、朝霞市のみどりや土地被覆などの情報を網羅した「朝霞市グリーンインフラマップ（GI マップ）」を作成しました。本分析では、このマップを活用し、みどりが持つ多角的な機能の視点から評価を行っています。また、一部の評価軸においては、「みどりの市民アンケート調査」から得られた環境に対する市民の主観的な評価を取り入れています。さらに、同調査における「みどりの効用（機能）別のサービスへの支払い意思」の結果に基づき、各機能の重要度を重み付けました。これにより、市民の意向をより直接的に反映した総合評価を算出しています。

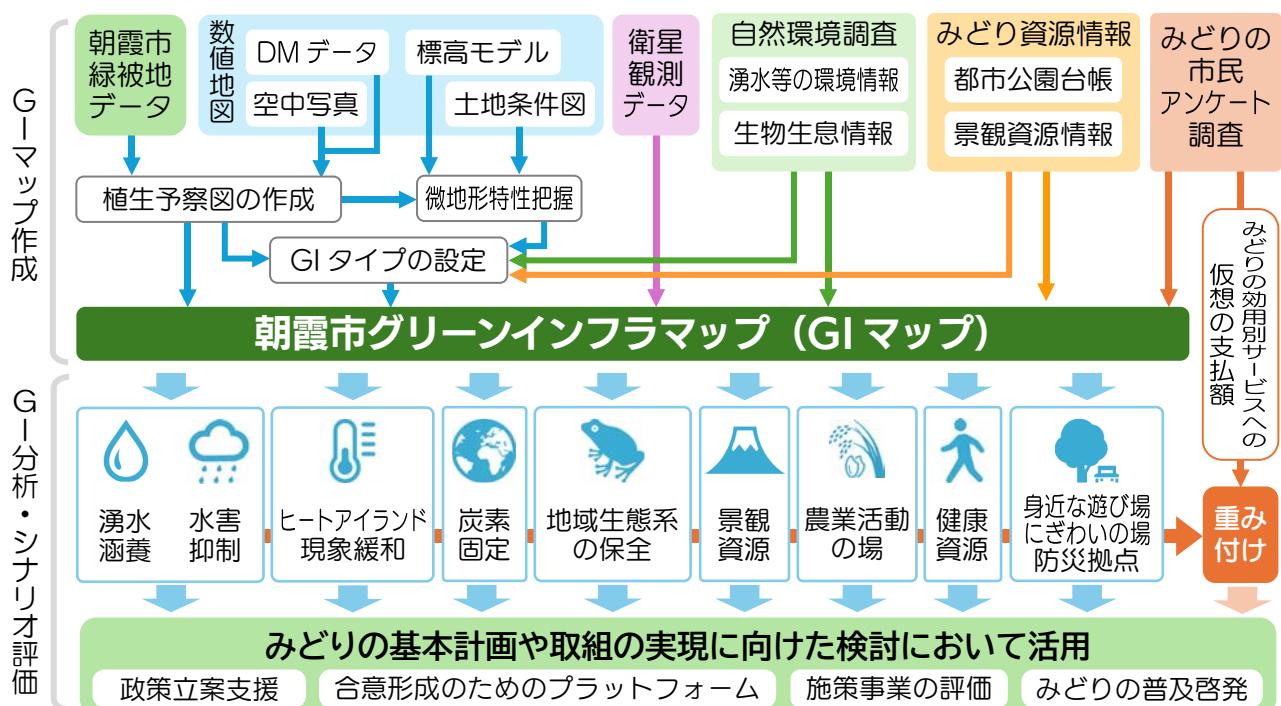


図 参-2 グリーンインフラの解析の構成

(3) 朝霞市グリーンインフラマップ

グリーンインフラ解析を進めるにあたり、その基盤となる「朝霞市グリーンインフラマップ」を作成しました。作成の手順としては、まず令和5年度に実施した緑被地調査の結果をもとに、「植生予察図（みどりの予測図）」を整備しました。この緑被地調査では、衛星データなどを用いたリモートセンシング技術により緑地を抽出していますが、技術の仕組み上、誤判読が避けられない側面があります。そのため、空中写真や DM（デジタルマップ）を用いた目視による修正を念入りに加えることで、抽出精度の向上を図りました。次に、この植生予察図に微地形の分布や自然環境の情報を重ね合わせ、本市独自の「グリーンインフラタイプ（凡例）」を設定しました。この区分に基づいて図面の精緻化を行うとともに、雨水の浸透能力や、植生ごとのバイオマス係数（CO₂吸収量などの指標）といった各種の環境性能に関する数値をデータとして反映させ、マップを完成させています。

本マップの大きな特色は、一般的な「みどりの現況図」とは異なり、樹林地、草地、農地、水辺地といった自然地だけでなく、住宅地などの市街地（基質）も網羅して地図化している点にあります。グリーンインフラの解析には、みどり（図）の情報だけでなく、その背景となる市街地側の環境情報（地）が欠かせないためです。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

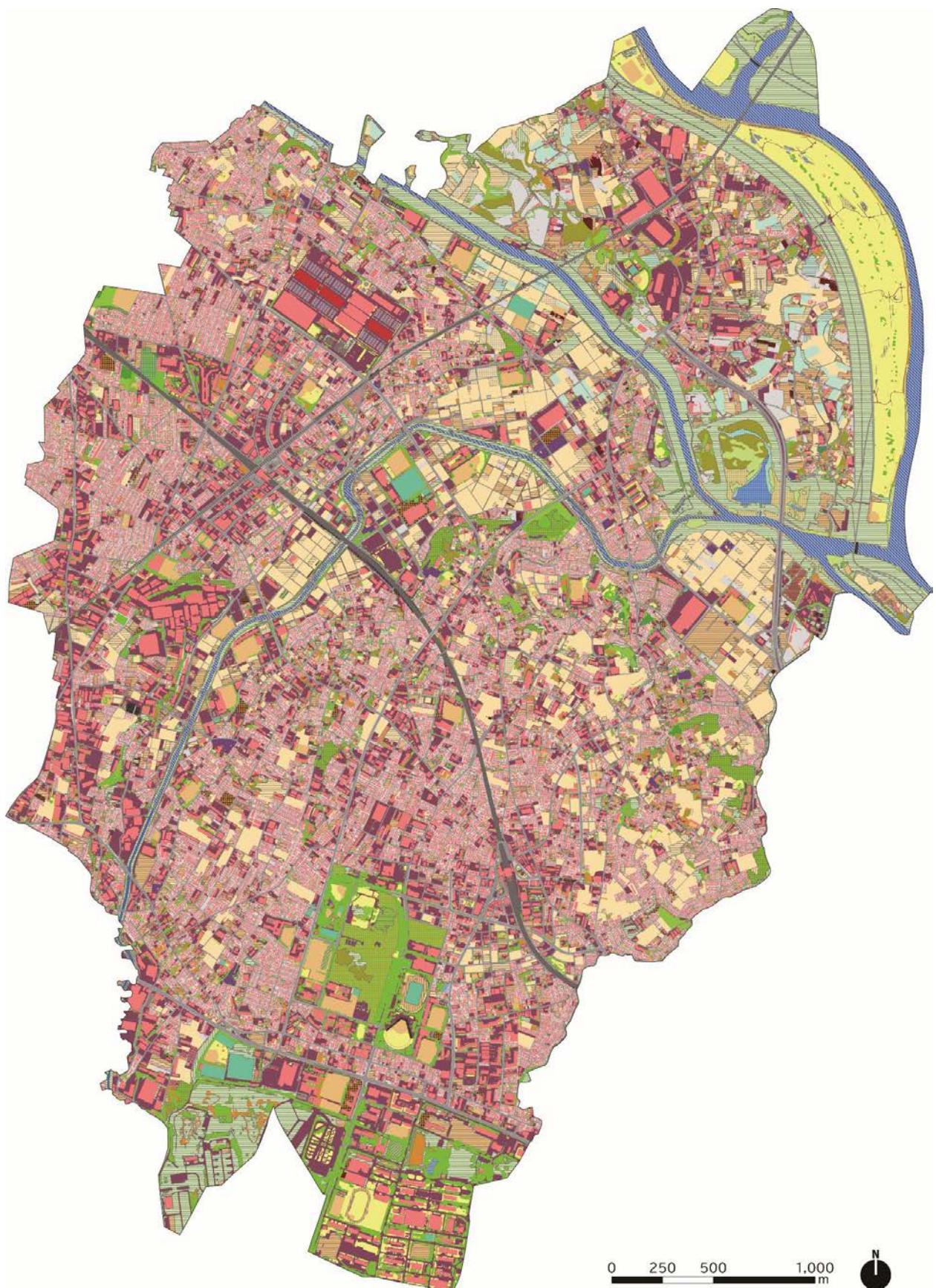


図 参-3 朝霞市グリーンインフラマップ

凡 例

101, 湿田	511, アスファルト舗装
102, 休耕湿田	512, 透水性舗装
103, 湿性立地の管理放棄型の草原	513, 土系砂系舗装
104, 中性立地の冠水型草原	514, 碎石舗装
105, 蓮池	515, 樹脂舗装
201, 蔬菜畠	516, 造成地
202, 果樹園・樹木畠	517, 資材置き場
203, 休耕地	518, 墓地
204, 耕作放棄地	521, 建築物
304, 河辺の落葉樹自然林	522, 特殊緑化(草地)
309, 低山地の常緑樹二次林	523, 特殊緑化(樹木)
310, 段丘崖の常落広葉樹混交林	524, 人工芝
311, 中～乾性立地の落葉樹二次林	526, 防草シート
312, 中～乾性立地の伐採跡地二次林	527, 敷き鉄板
314, 中～乾性立地の針葉樹植林	528, コンクリート構造物
318, その他の落葉樹植林	529, コンクリート擁壁
319, タケ類植林	531, 間地
321, 中～乾性立地の管理放棄型の草原	542, 緑化ブロック
322, 中～乾性立地の粗放管理型の草原	543, 太陽光パネル
323, 湿性立地の冠水型草原	544, 配管施設
324, 中性立地の冠水型草原	550, 植栽地起源の管理放棄型樹林
401, ため池	601, 車道(舗装)
402, 生態復元池	602, 車道(未舗装)
403, 自然的護岸の池	603, 車道(透水性舗装)
406, 遊水池・調整池	604, 車道(高架)
407, プール他	606, 歩道(舗装)
412, 人工護岸の中小河川	607, 歩道(未舗装)
413, 自然的護岸の中小河川	608, 歩道(透水性舗装)
421, 農地の小水路	611, 鉄道の軌道敷き
422, 市街地の小水路	612, 鉄道の高架
424, 公園等のせせらぎ(護岸不透水)	
425, 公園等のせせらぎ(自然護岸)	
441, 磯原	
442, コンクリート護岸	
443, 空隙のある護岸	
501, 高木植栽地	
502, 灌木植栽地	
503, 芝生植栽	
504, 花壇等	
505, 裸地	
506, 強管理草地	
507, 路傍雑草地	

凡例中の番号は凡例の ID 番号です。
この凡例は、「大澤啓志・他 (2004) 鎌倉市を事例とした市域スケールでのビオトープ地図の作成、日本造園学会ランドスケープ研究 67巻5号 p. 581-586」等の既往研究を参考に、朝霞市のみどりの実態を踏まえて設定しています。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(4) 効用別分析

① 健全な水循環を支えるみどり

a. 解析の目的

この水循環のシミュレーションでは、市内の地下水の動きを再現することで、地面が雨水を吸い込む力や湧水の源となって水を蓄えているエリアを明らかにします。

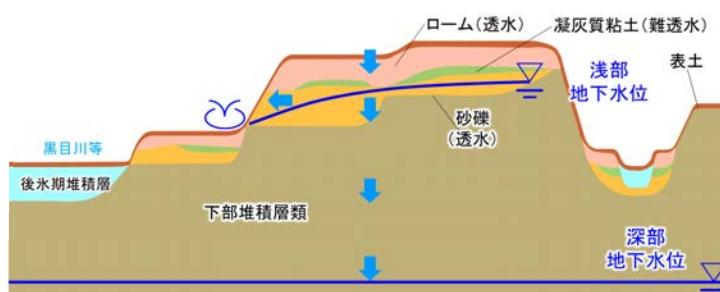
地面が雨水を吸い込む力が大きいと、大雨が降っても水が一度に川や排水路へ流れ出すのを防ぐことができます。つまり、この「地面が水を吸い込む力」を詳しく調べることは、まちを水害から守るために大切な分析になります。

b. 朝霞市水循環のモデル化の考え方

朝霞市に降った雨が、どの程度地下に浸み込み、どこへ流れていくのかを調べるために、コンピュータの中に「もう1つの朝霞市」を再現します。

モデル化の方針

- 段丘面に広がるローム層は比較的透水性が高く、地表から地下に浸透した水は、その下位にある砂礫層中の帯水層に流入します。
- 段丘砂礫層中の地下水は、基底面の傾斜に沿って流れ、台地の末端や段丘崖に湧き出しています。つまり、これらの湧水の起源は、段丘面上で涵養された降雨であるとみなすことができます。
- 一方、関東平野南西部の深層地下水は、長年の揚水により水位が著しく低下しています。そのため、砂礫層中の地下水の一部は、さらに下位の地層に向かって浸透しています。
- したがって、地表から涵養された地下水は、「台地の縁辺に湧出するもの」と「地下深部へ浸透していくもの」に振り分けられます。この配分を適切に評価することが、今回の解析における重要な着目点となります。
- 年間平均降雨（概ね2.5mm/日）の条件において計算しています。



※このモデルは「GETFLOWS」という水の循環を再現するソフトを使用して解析しています。

c. 分析の領域及び条件の設定

分析の範囲と条件は、以下のように設定しました。

朝霞市の北西側および南西側の境界は、柳瀬川および白子川による閉境界としました。台地部においては、ボーリングデータから推定した地下水位の高まりを閉境界としています。これにより、上流側の地下水が解析領域に流入しない設定となります。黒目川の上流（谷地）の境界は、朝霞市から十分に離れた位置に設定し、既存のボーリングデータから推定した固定水位境界を設けました。荒川沿いの低地については、荒川の上流側および下流側に境界を設定し、推定地下水位に基づいた固定水位境界を設けています。なお、解析領域の底面は-100mとして設定しました。

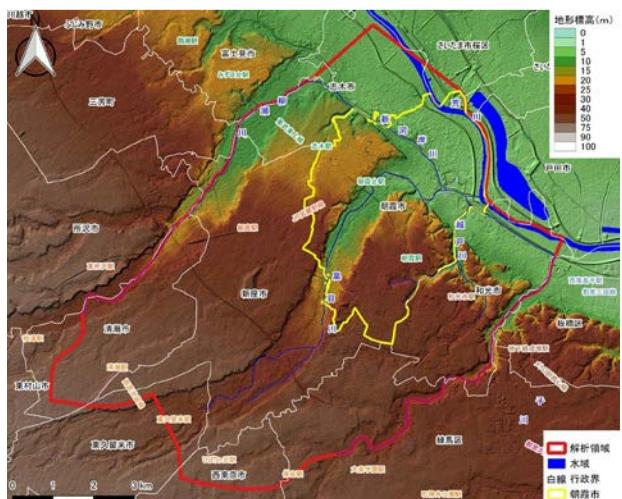


図 参-6 分析の範囲と条件

d. モデルの調整

コンピュータ上のモデルを作る際、浅部砂礫層と下部堆積層類で、それぞれ水の通りやすさの数値を細かく調整しました。これにより、台地のふちから湧き出る水と、地下深くに浸み込んでいく水のバランスを整え、実際の地下水の高さ（地下水位）や川の水の量（流量）に近づけています。また、市民団体「朝霞水の会」が1997年に行った調査データも活用し、地下水の高さの変化が正しく再現できているかどうかの確認も行いました。

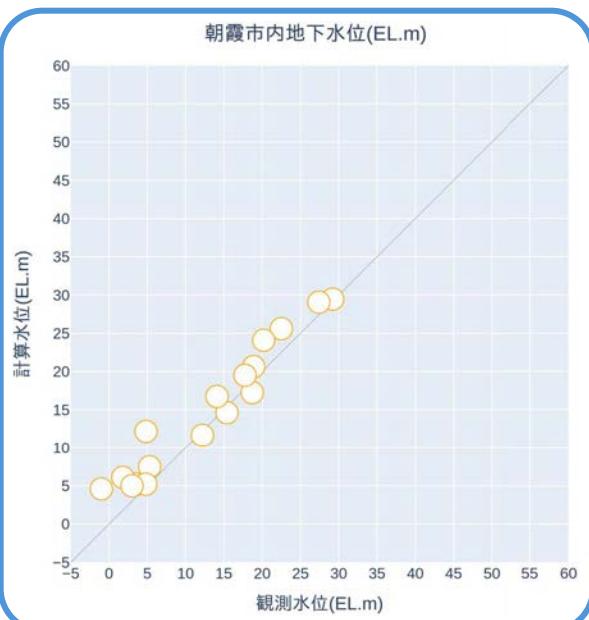


図 参-7 観測水位と計算水位の比較

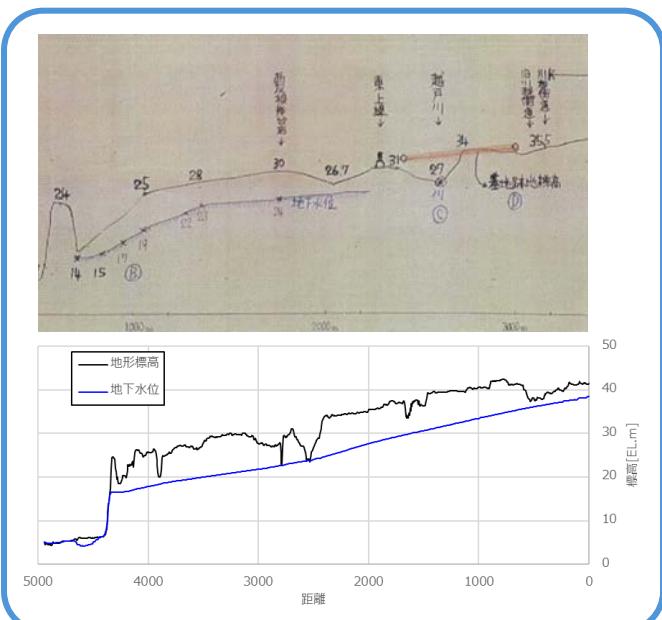


図 参-8 「朝霞水の会」による調査結果との比較

1 みどりの多面的効用に着目した分析

e. 解析の結果

ア. 雨水の浸み込み方と水害のリスク

- 台地上のみどりが分布するエリアでは、雨水が地面に浸み込む量が多く、湧水の維持や水害の防止に貢献しています。
- まちなかは、建物やアスファルトが多く、雨水が浸み込まずに表面を流れるため、水害のリスクを高めています。
- 川沿いの低い土地では、地下水位が地表近くまであり浅いため、雨水が地面に浸み込みにくいことが分かりました。

イ. 漫水が出る仕組みの再現

- 地下の水の流れを再現したところ、地面から浸み込んだ雨水は、浅い層を通って崖から湧き出すものと、さらに地下深くへと流れていくものに分かれることがわかりました。
- シミュレーションにより、実際の漫水地点の状態をコンピュータ上で再現できました。

ウ. 漫水にたどり着く水が浸み込んだ範囲

- 地下水の流れを追跡した結果、地下水はおおむね南から北（または南西から北東）へ流れますが、漫水の近くでは出口（崖）に向かって流れを変えています。
- 漫水に届く多くの水は漫水に近い台地上で浸み込んだのですが、数キロメートル離れた遠くの台地から、長い時間かけて届く水も含まれていることがわかりました。

〔地表面における雨水の浸透量、表面排水量、地下水の流れ（流動経路）、漫水への涵養起源に係る図面は、本編の18-19頁に掲載しています。〕

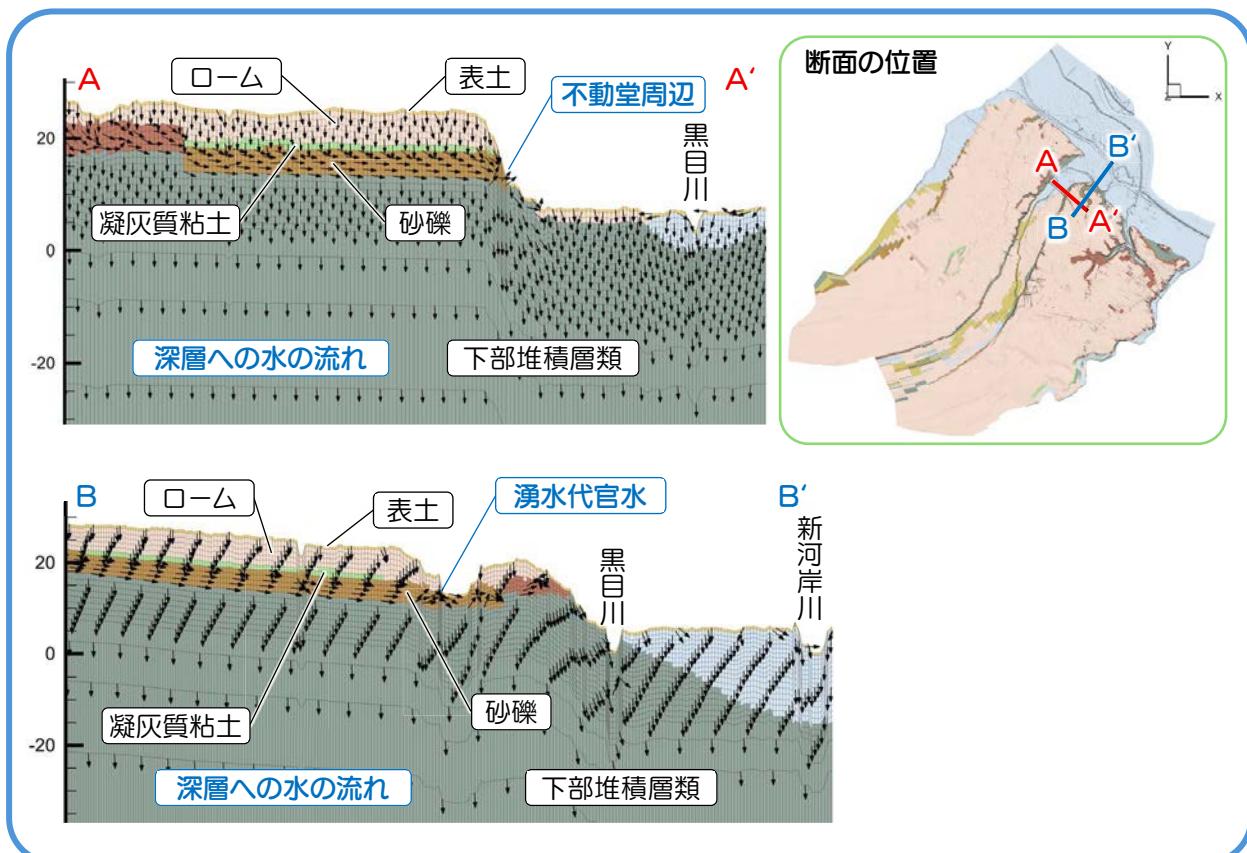


図 参-9 断面図で見る地下水の流れ

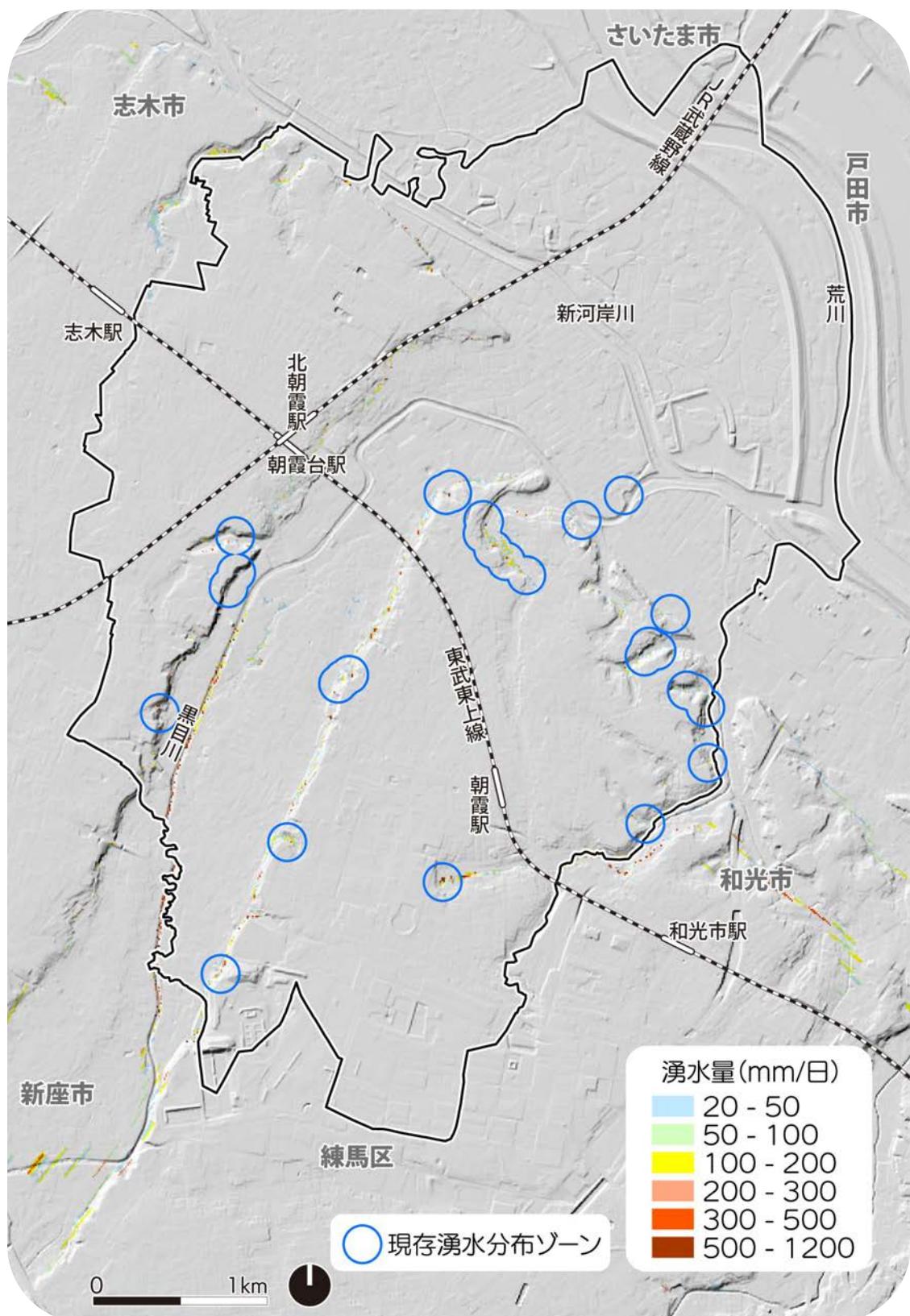


図 参-10 湧出量
 (地表面を上向きに通過する水の流動量)

1 みどりの多面的効用に着目した分析

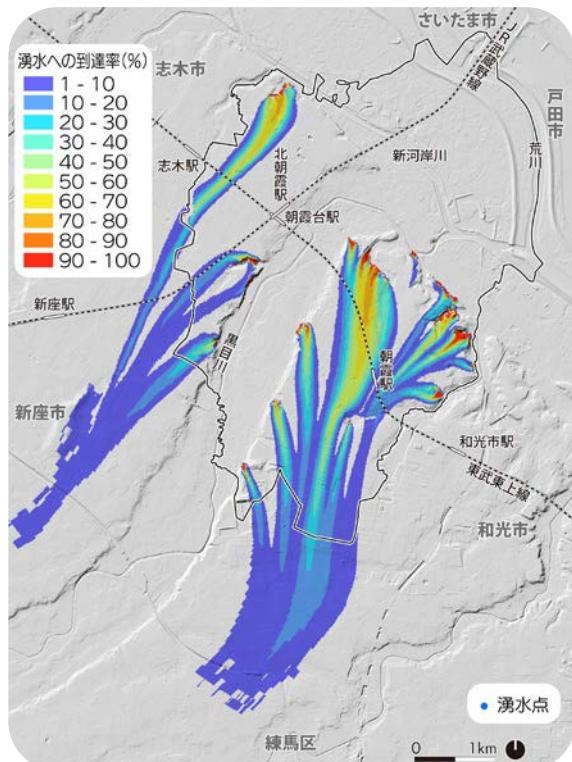


図 参-12 湧水の涵養起源（広域）

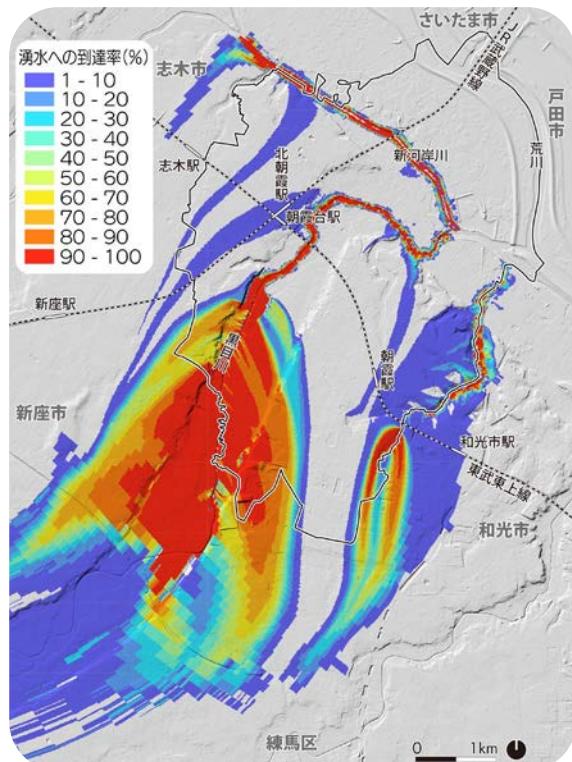


図 参-11 河川への湧水の涵養起源（広域）

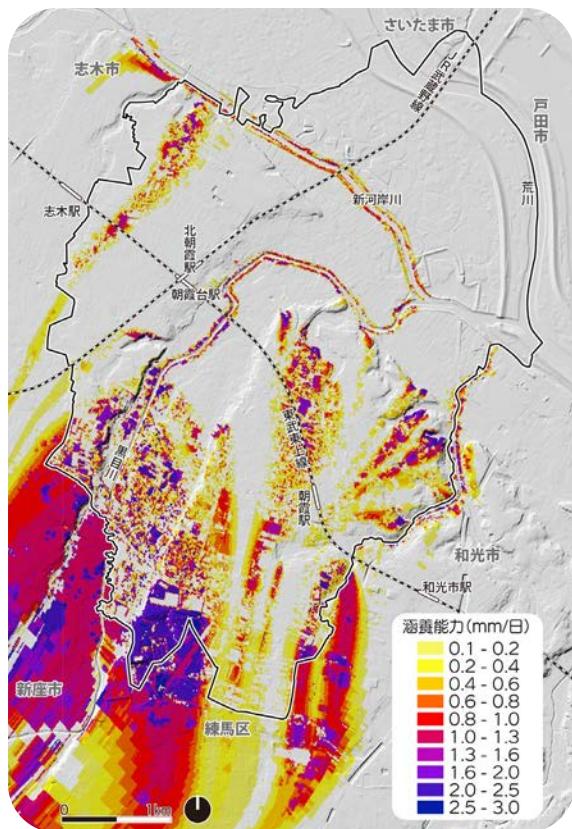


図 参-13 湧水と河川への涵養量

〔湧水の涵養量は、各地点で浸み込んだ雨水の湧水への到達量を計算したものです。各地点の「浸透量」×「湧水への到達率」によって求めています。〕

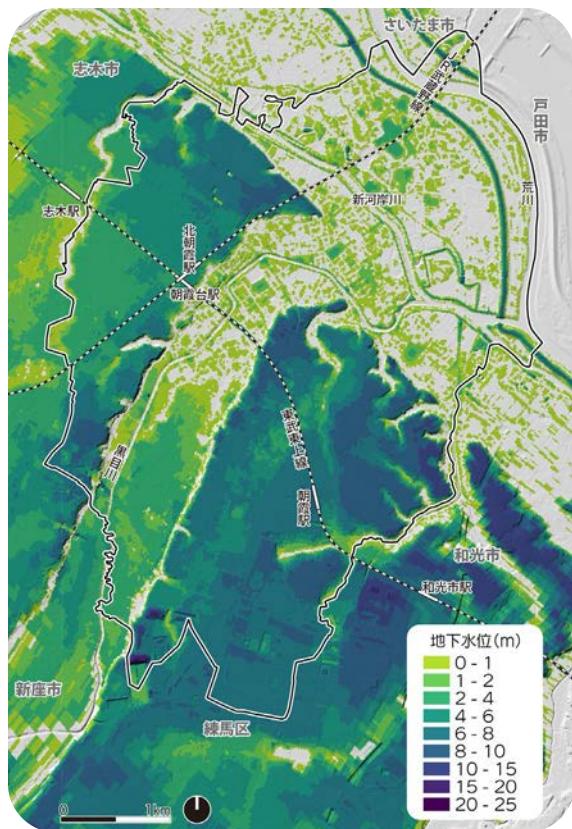


図 参-14 地下水位
〔地表から地下水までの距〕

② 都市の気温上昇を緩和するみどり

a. 解析のねらいと方法

都市の温度が上がるヒートアイランド現象に対して、みどりがどれくらい役立っているかを調べるため、人工衛星のデータとみどりの分布図（GI マップ）を使って分析しました。

まず、人工衛星「ランドサット 9 号」が観測した熱赤外線のデータをもとに、市内の夏の地面の温度を色で示した地表面温度図（2章 20 頁に掲載）を作成しました。この図は、2023 年と 2024 年の夏のうち、天気が良く、雲の影響をほとんど受けていない 3 時期の画像を選んで作成しています。3 つの時期の温度を平均したのは、その日だけ特別に温度が高かったり、特定の場所だけで極端な数値が出たりする「外れ値」の影響を抑えるためです。これにより、一時的・局所的な数値の偏りをならして、市全体の正確な傾向を把握できるように平準化しました。

表 参-1 使用した画像

データソース名: U.S. Geological Survey (USGS)
衛星・センサ名: Landsat 9, TIRS-2 (熱赤外センサ)
データプロダクト名: Collection 2 Level 2
入手先: USGS EarthExplorer

取得年月日
2023 年 7 月 27 日 am10:15 頃
2023 年 8 月 4 日 am10:15 頃
2024 年 7 月 5 日 am10:15 頃

b. 解析から予測した温度の広がり

地表面温度図によると、市内の最高温度は 36.5 度、最低温度は 25.7 度でした。

c. 朝霞市独自の計算式で温度の変化を予測する

朝霞市内のみどりの広がりと、人工衛星の画像から分かった地面の温度の関係を詳しく分析しました。その結果、朝霞市の実際の特徴をしっかり反映させた、市独自の計算式を導き出しました。

この式を使うと、例えば今あるみどりがなくなってしまった場合や、新しくみどりを増やした場合に、地面の温度がどのように変化するかを予測することができます。

$$\text{推測地表面温度 } (\text{°C}) = 31.6$$

$$+ (-4.28 \times \text{水系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ + (-1.93 \times \text{樹林地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ + (-0.40 \times \text{草地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ + (1.87 \times \text{都市系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ + (0.98 \times \text{建物面積 (ha)})$$

(補正 R²=0.773)

図 参-15 朝霞市のみどりの分布に基づいた地表面温度の推測式

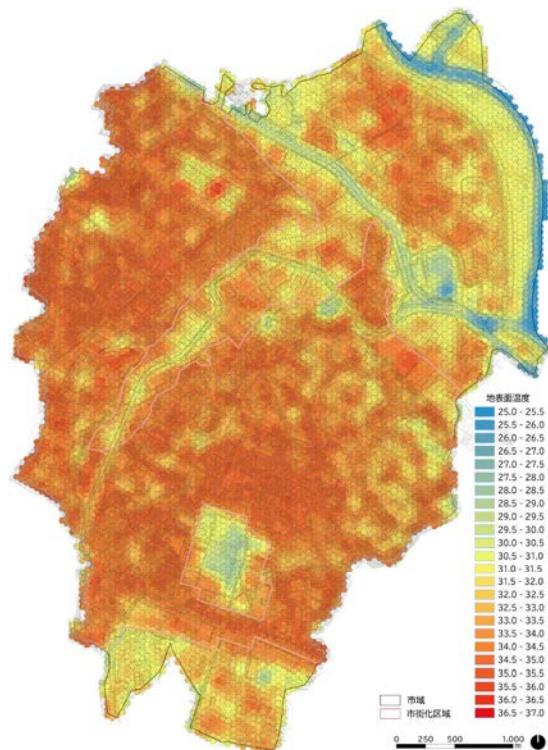


図 参-16 みどりの分布状況から推測した地表面温度分布図

1 みどりの多面的効用に着目した分析

③ 地球温暖化の緩和に貢献するみどり

a. 市内のみどりが蓄える炭素の量の調べ方

植物が光合成によって作り出した栄養（有機物）の合計を総生産量と呼びます。植物は自分で作った栄養の一部を、自分自身が呼吸するために使いながら成長しています。そのため、全体の量から呼吸で使った分を差し引いた残りが、植物の体として蓄えられます。これを純生産量と言います。

二酸化炭素がどれくらい取り込まれたか（炭素固定量）を推定する際は、これまでの研究で積み重ねられた森林や草地などのデータを使います。まず、市内にあるみどりの種類とその面積を調べ、エリアごとに純生産量を計算します。さらにそれを炭素の重さに置き換えることで、市全体でどれくらいの炭素が蓄えられているかを算出します。

表 参-2 GI タイプ区分の純生産量・炭素固定量

GI タイプ区分	純生産量 (t/ha・年)	炭素固定量 (t/ha・年)
常緑広葉樹林	18	8.0
落葉広葉樹林	12	5.3
常落混交広葉樹林※2	15	6.7
常緑針葉樹林	18	8.0
草地（竹林含む）	12	5.3
農耕地（果樹園等含む）	10	4.4
その他緑地（公園等を含む）	6	2.7

この表は、「大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版（2015），独立行政法人環境再生保全機構」を参考にしています。

GI タイプ区分は、GI タイプにおいて、樹林系 GI、草原系 GI などを統合したものです。

植物体の乾物重の大部分を占める多糖類 ($C_6H_{10}O_5$ で代表される) と、この中の炭素量の重量比から炭素固定量を設定しています。多糖類と含有炭素の重量比は、 $[6C]/[C_6H_{10}O_5] = 6 * [12g/mol] / [162g/mol] \approx 44.4\%$ です。

常落混交広葉樹林の純生産量、炭素固定量は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の値の平均としました。
グリーンインフラマップにおける高中木植栽地、灌木植栽地は、「その他緑地」として計算しました。

b. 市全体のみどりが炭素を蓄える力

朝霞市全体のみどりが二酸化炭素を取り込み、蓄える力を計算しました。その結果、1 年間に市全体で約 3,018 トンの炭素を蓄える能力があることが分かりました。1 平方メートルあたりでは、最大で約 0.73 キログラムの炭素を蓄えています。

特に炭素を蓄える力が高いのは、荒川の河川敷や墓地跡地、自衛隊の駐屯地など、大きなみどりがある場所です。また、黒目川沿いや内間木、根岸台、岡、宮戸付近に点在する農地や屋敷林も、大切な役割を果たしています。今回は面積をもとにした簡易的な計算でしたが、今後は木の高さや密度なども取り入れた、より精度の高い調査方法を確立していくことが課題です。

④ 生き物の生息空間となるみどり

a. 生き物の視点で環境の豊かさを測る

みどりには、樹林や草原、水辺などさまざまな環境があります。今回の生物多様性評価では、まず、植物の種類や地面の湿り気などを考えて、63種類の環境に「湧き水」や「林のふち（林縁）」を加えた、合計65種類の環境タイプ（GIタイプ）を設定しました。次に、過去の調査で確認された生き物たちが、それぞれの暮らしの中でどのGIタイプを利用しているかを整理しました。これを「想定生息環境の設定」と呼びます。これとあわせて、確認された生き物たちを、絶滅の心配があるレッドリスト種や注目すべき種、あるいは似たような暮らし方をする仲間のグループなど、34の指標に分類しました。最後に、これら2つの作業を組み合わせて、GIタイプごとにいくつの指標が集まっているか（指標の多様度）を計算しました。その結果を、市内のエリア（評価メッシュ）ごとのみどりの面積に当てはめることで、地図上の場所ごとの多様度を求めていきます。

指標の多様度が高いということは、いろいろな暮らし方をする生き物たちが一緒に過ごせる懐（ふところ）の深い場所であることを意味しており、生き物にとって特に大切な場所だといえます。

表 参-3 生き物のグループ分け（指標）の構成

ID	指標名	指標設定の理由
01	動物-貴-鳥類	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護対策の必要性。
02	動物-貴-昆虫類	同上
03	動物-貴-その他	同上
04	動物-哺-モグラ類	土壤の通気・肥沃化に寄与。地下生態系と土壤環境の指標。
05	動物-哺-外来種	在来種の生息空間を圧迫する要因としての評価。
06	動物-哺-モグラ類以外	外来種圧下でも生息する重要環境の指標。
07	動物-鳥-渡鳥（夏）	夏鳥の繁殖地としての環境価値の評価。
08	動物-鳥-渡鳥（冬）	冬鳥の越冬地としての環境価値の評価。
09	動物-鳥-留鳥	通年生息し、鳥類群集の骨格・典型性を示す指標。
10	動物-鳥-キツツキ	巣穴供給や樹木健全化を担う、森林生態系の特殊な構成種。
11	動物-鳥-昆虫食	二次消費者（シジュウカラ等）の利用環境の指標。
12	動物-鳥-種子食	一次消費者（カワラヒワ等）の利用環境の指標。
13	動物-鳥-水鳥	水辺環境に特異的に依存する種の抽出。
14	動物-爬-在来種	確認例の少なさから、生息環境の重要性を評価。
15	動物-両-在来種（卵・幼）	水域（幼生）と陸域（成体）で異なる生存環境を分離評価。
16	動物-両-在来種（成体）	同上
17	動物-昆-チョウ（樹林性）	環境（樹林・林縁・草地）ごとの典型的な分布状況の評価。
18	動物-昆-チョウ（林縁性）	同上
19	動物-昆-チョウ（草原性）	同上
20	動物-昆-その他（樹林性）	各環境（樹林・林縁・草地）に典型的な種の分布状況の評価。
21	動物-昆-その他（林縁性）	同上
22	動物-昆-その他（草原性）	同上
23	動物-昆-トンボ（流水性）	止水・流水で異なる環境要求性を分離評価。
24	動物-昆-トンボ（止水性）	同上
25	動物-水-魚（流水性）	河川等の流水環境を利用する魚類の指標。
26	動物-水-魚（止水性）	水田・池等を利用する、伝統的な流域生態系の象徴。
27	動物-水-魚（回遊性）	生活環で川を利用する回遊魚。流域の連続性の象徴。
28	動物-水-魚（草食性）	藻類を食すアユ等。近代化以前の河川環境の象徴。
29	動物-水-魚（肉食性）	肉食・底生食。餌となる貝・エビ類が豊富な河床環境の指標。
30	動物-水-エビカニ類	十脚類が生息する河床環境の健全性の象徴。
31	動物-水-貝類	貝類が生息する河床環境の健全性の象徴。
32	動物-水-昆虫	水生昆虫の分布環境を示す指標。
33	植物-レッドリスト	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護の必要性。
34	植物-注目種	採取や管理放棄により減少が懸念されるラン科等の指標。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

b. みどりの種類 (GI タイプ) による指標の多様さの計算

それぞれの GI タイプに、全 34 の指標のうちいくつの指標が集まっているかを計算し、GI タイプにおける指標の多様度を整理しました。

表 参-4 GI タイプにおける指標の多様度

GI ID	GI タイプ	指標の多様度																																		
		01 動物 - レッドリスト - 鳥類	02 動物 - レッドリスト - 昆虫類	03 動物 - モグラ類	04 動物 - 外来種	05 哺乳類	06 哺乳 - 鳥類	07 哺乳 - 渡鳥 (夏)	08 哺乳 - 渡鳥 (冬)	09 動物 - 鳥 - 留鳥	10 動物 - 鳥 - 昆虫食	11 動物 - 鳥 - 水鳥	12 動物 - 鳥 - 在来種 (卵・幼)	13 動物 - 鳥 - 在来種 (成体)	14 動物 - 鳥 - 樹木縁性	15 動物 - 鳥 - 草原性	16 動物 - 昆虫 - 昆虫食	17 動物 - 昆虫 - 指標 (林縁性)	18 動物 - 昆虫 - 指標 (草原性)	19 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	20 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	21 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	22 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	23 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	24 動物 - 昆虫 - 指標 (止水性)	25 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	26 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	27 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	28 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	29 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	30 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	31 動物 - 水 - 水魚 (止水性)	32 動物 - 水 - 昆虫	33 植物 - レッドリスト	34 植物 - 注目種	指標の数
101	混生地	10	2	7	0	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	1	4	0	0	11	1	6	1	4	0	4	5	2	1	1	3	0
102	休耕混生地	10	5	7	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	2	4	1	5	21	1	6	1	4	0	4	5	2	0	1	8	0	
103	混生地の管理放棄型の草原	12	6	3	0	0	0	4	9	13	0	20	14	10	5	2	2	1	7	24	1	5	0	0	0	0	0	1	0	0	8	0				
104	中性立地の冠水型草原	12	6	3	0	0	0	5	9	13	0	21	14	10	6	2	2	1	7	12	1	7	24	1	5	0	0	0	0	1	0	0	8	0		
105	蓮池	9	0	0	0	0	0	3	13	11	0	22	16	19	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
201	蔬菜畑	5	4	1	1	0	1	3	5	9	0	13	9	1	2	0	0	1	7	14	2	6	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
202	果樹園・樹木畑	5	2	2	1	0	2	3	5	12	0	16	12	1	4	0	0	2	7	11	9	7	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
203	休耕地	8	6	2	1	0	2	4	5	16	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
204	耕作放棄地	9	6	2	1	0	2	4	4	17	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
304	河辺の落葉樹自然林	6	3	1	0	0	2	3	2	14	1	15	12	1	2	0	0	3	8	4	12	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
309	低山地の常緑樹二次林	13	2	2	1	0	2	6	3	23	3	27	19	1	3	0	0	4	8	3	17	11	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
310	段丘崖の常落広葉樹混交林	18	3	2	1	0	2	7	5	31	3	36	28	1	3	2	2	5	11	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
311	中-乾性立地の落葉樹二次林	17	3	2	1	0	2	7	5	28	3	34	26	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
312	中-乾性立地の落葉樹二次林	16	3	2	1	0	2	7	6	25	1	31	24	1	4	0	0	5	13	6	23	13	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
314	中-乾性立地の創葉樹林	12	0	2	0	0	2	5	3	26	2	28	21	1	3	0	0	1	3	2	7	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
318	その他の落葉樹植林	16	3	2	1	0	2	7	5	26	1	32	24	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
319	タケ類植林	14	0	2	0	0	2	5	5	20	0	25	19	2	3	0	0	1	4	2	5	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
321	中-乾性立地の管理放棄型の草原	11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
322	中-乾性立地の粗放管理型の草原	11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
323	混生地の冠水型草原	18	7	4	0	0	3	5	16	21	0	32	23	20	6	2	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
324	中性立地の冠水型草原	18	7	4	0	0	3	5	16	20	0	32	23	19	5	2	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
401	ため池	9	1	11	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	4	11	6	5	0	9	11	6	1	5	2	0		
402	生態復元池	9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0		
403	自然の護岸の池	9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0		
406	遊水池・調整池	9	1	12	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	3	2	2	0	0	0	0	0	4	11	12	9	1	17	20	6	1	5	1	0		
407	ブルー他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
412	人工護岸の中小河川	10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0		
413	自然的護岸の中小河川	10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0		
421	農地の小水路	4	0	9	0	0	1	2	3	9	0	11	8	9	3	2	2	0	0	0	0	0	0	2	10	9	1	15	18	2	1	3	0	0		
422	市街地の小水路	3	0	2	0	0	0	1	2	8	0	9	8	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
424	公園等のせせらぎ(護岸不透水)	3	0	1	0	0	0	1	2	7	0	8	7	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
425	公園等のせせらぎ(自然護岸)	3	0	2	0	0	0	1	2	7	0	8	7	6	4	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
441	礫原	4	0	0	0	0	0	0	3	9	0	10	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
442	コンクリート護岸	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
443	空隙のある護岸	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
501	高木植栽地	7	1	2	1	0	0	1	5	20	1	24	24	0	4	0	0	5	11	5	21	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
502	灌木植栽	5	1	2	1	0	0	1	5	16	0	20	21	0	4	0	0	3	9	4	11	8	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
503	芝生砂系植装	5	5	2	1	0	0	3	6	13	0	18	15	1	4	0	0	1	7	19	2	4	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
504	花壇等	4	5	2	1	0	0	3	5	13	0	18	14	1	4	0	0	1	7	20	2	8	38	0	0	0										

c. 市域における生物指標の多様度評価

みどりの種類（GI タイプ）ごとの分析をもとに、市内のどこに豊かな自然があるかを示した「生物指標の多様度評価図（2章 22 頁）」を作成しました。

エリアごとの評価を見ると、木々が集まる場所や水辺で点数が高くなりました。特に、朝霞調節池や墓地跡地、そして根岸台、岡、宮戸などの崖（がけ）沿いに広がる林（斜面林）は、多くの生き物が豊かに暮らせる場所として、非常に高い評価となりました。

なお、この評価は今そこにいる生き物をすべて数えたものではなく、みどりの分布状況からその場所に生き物が住める可能性（ポテンシャル）を予測して数値にしたものです。

d. 市民との協力とこれからの課題

この分析で行った「想定生息環境の設定」や「生物種の指標分け」は、朝霞市生物多様性市民懇談会の皆様にチェックしていただき整理しました。作成した評価図の内容についても、日々市内で活動されている委員の皆様の実感と重なる、妥当な結果であるとの評価をいただいています。

また、今回の「想定生息環境の設定」という手法は、生き物が「いつ・どこにいたか」という正確な位置データが不足している状況において、市全体の環境を評価するために検討したものです。特別な生き物調査を新たに行わなくても分析できるため、コストや労力を抑えつつ、現状を把握できるという利点があります。

一方で、同じ種類のみどり（GI タイプ）であっても、場所が変われば実際の環境は少しずつ異なります。そのため、すべてが同じような生き物のすみかになるとは限りません。今後は、より現実に即した分析を行うために、位置情報を含めた生き物調査を行い、データを積み重ねていくことが課題であると考えられます。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑤ 健康づくりの場となるみどり

a. 健康を支える「歩く」環境の役割

まちづくりにおいて、市民の健康を支える要素を「健康資源」と呼びます。その中でも「歩くこと」は、健康づくりの土台となる、最も身近で大切な活動です。

歩く習慣を続けることが、多くの病気を防ぎ、健康を守ることに役立つことは、さまざまな研究で証明されています。例えば、日本で行われた大規模な調査（中之条研究）では、1日に8,000歩、そのうち20分間の早歩きをすることが、健康を維持するために非常に効果的であると示されています。

中之条研究

健康を維持するために、1日にどのくらい歩くのが良いのでしょうか。群馬県中之条町では、5,000人の住民を対象に20年以上にわたる調査が行われました。これは中之条研究と呼ばれ、日常の歩数や運動の強さと、病気の予防との関係を解き明かした調査として知られています。

この研究では、歩数や運動の強さに応じて、さまざまな病気を防ぐ目安が示されています。例えば、1日4,000歩（そのうち5分の早歩き）は「うつ病」の予防に、1日5,000歩（そのうち7.5分の早歩き）は「認知症」や「心疾患」の予防に役立つといわれています。そして、1日8,000歩（そのうち20分の早歩き）を続けることは、高血圧や糖尿病といった「生活習慣病」の予防に非常に効果的であることが分かってきました。

東京都健康長寿医療センター研究所の青柳幸利博士らが、2000年より群馬県中之条町で継続している「中之条研究」の成果を参考にしています。

こうした歩く習慣を支えるのが、私たちの身近にある公園や川沿いのみどりです。木々や草花に囲まれた環境で歩くことは、単なる運動だけでなく、ストレスを解消し心のリフレッシュにもつながります。朝霞市に広がる豊かなみどりは、私たちが自然に、そして楽しく健康づくりを続けていくための大切な役割を担っています。

公園やみどりは、こうした歩くための環境を提供する代表的な場所です。この分析では、朝霞市のグリーンインフラが持つ健康資源として、特に「歩きやすい環境」がどこに、どれくらいあるのかを詳しく調べてみました。

b. 歩ける場所の広がりを調べる

朝霞市内には、さまざまな「歩ける場所」があります。例えば、公園の中にある遊歩道のほか、黒目川などの河川沿いの道、根岸水路の遊歩道、お寺や神社の参道などが挙げられます。

一方で、道路に沿った歩道については、駅の周りや大きな通り（幹線道路）を中心に整備が進んでいますが、住宅地の中にある道路では、歩道が途中で途切れている区間も見られます。

こうした場所が市内のどこに、どれくらいあるのかを図示しました。

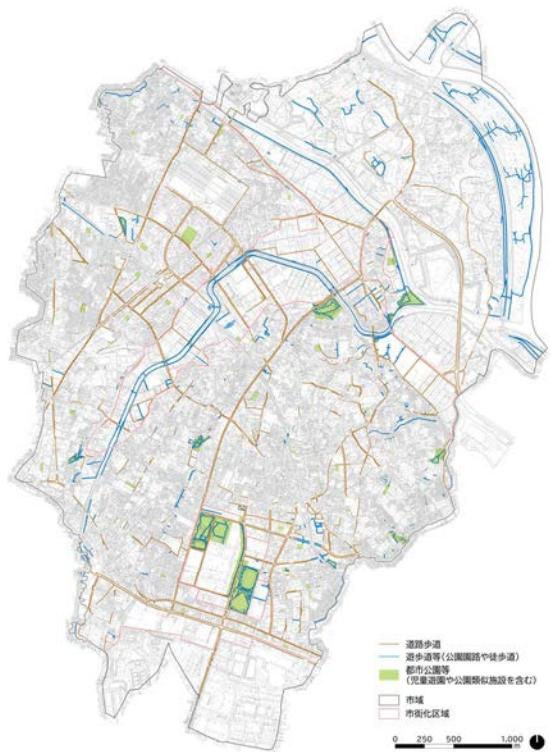


図 参-17 歩行空間の分布

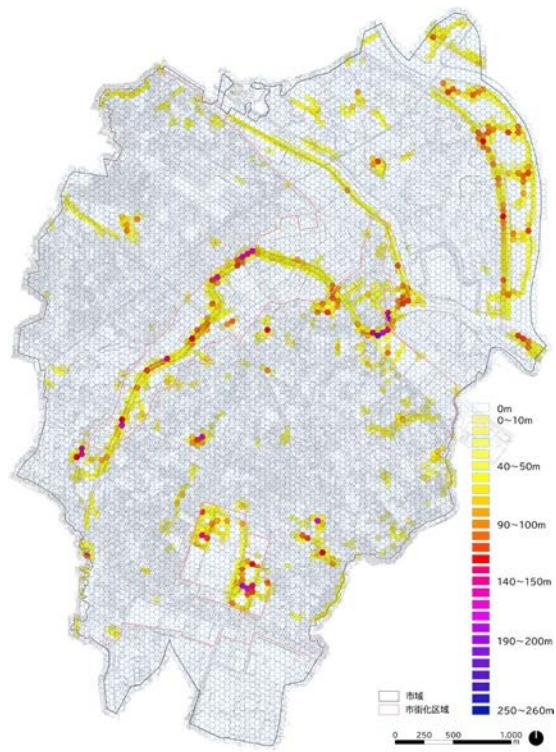


図 参-18 エリアごとの遊歩道の長さ

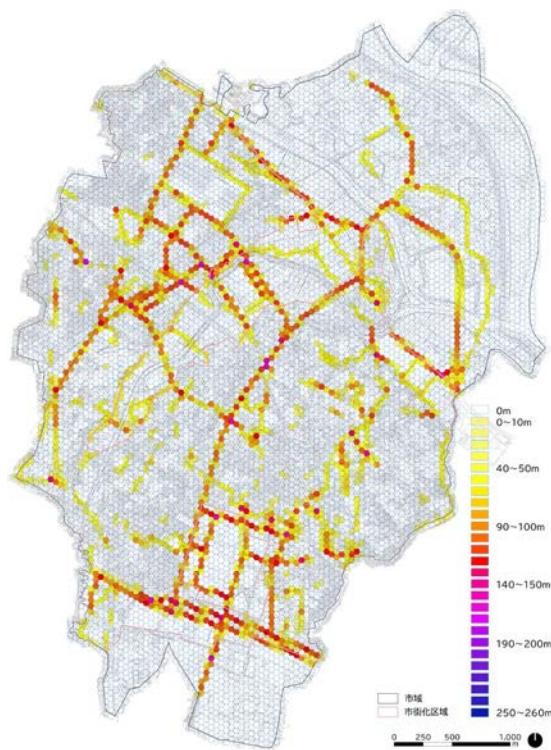
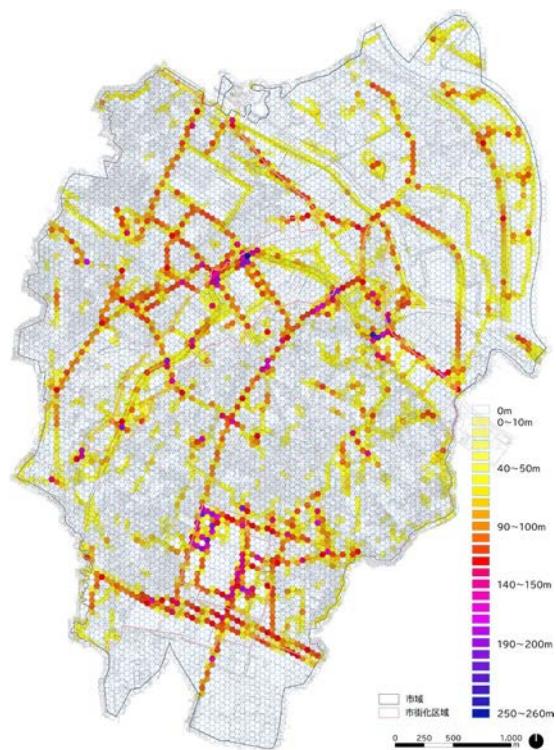


図 参-19 エリアごとの道路歩道の長さ



1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑥ 身近な遊び場となるみどり

第2章では、身近な遊び場がどれくらい足りているかという視点から、朝霞市の現状と課題をまとめています。ここでは補足資料として、公園などにある「遊具」がどこに配置されているかを整理しました。

この分析は、令和5(2023)年度に行われた公園や児童遊園の点検結果をもとに、幼児向け、小学生向け、そしてすべての遊具の分布を地図に示したもので、地図を作成するにあたっては、点検で「使用不可」と判定されたものは除き、現在安全に使うことができる遊具のみを対象としています。

幼児向けや小学生向けの遊具は、一部の例外を除き、多くの公園や児童遊園にバランスよく配置されています。一方で、大人がストレッチなどに使う「健康遊具」は、比較的大きな公園や黒目川沿いのウォーキングコースにある広場などに置かれています。それぞれの利用目的に合わせた場所に配置されているといえます。

また、遊具の設置が少ない地域も見られます。

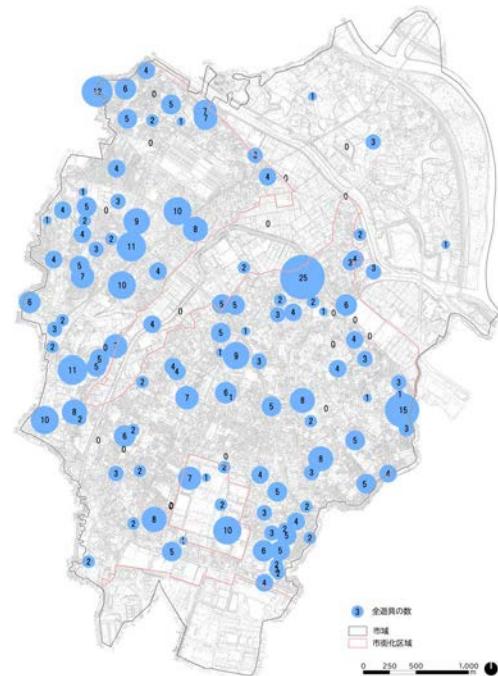


図 参-21 全遊具設置状況

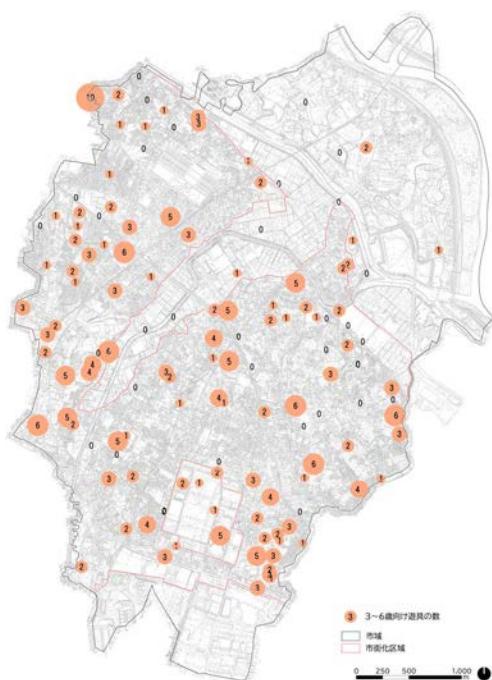


図 参-22 3~6歳向け遊具設置状況

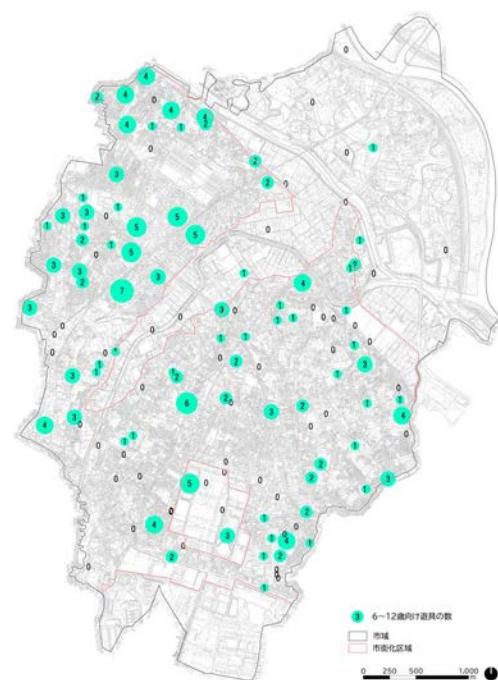


図 参-23 6~12歳向け遊具設置状況

⑦ にぎわいや交流の場となるみどり

朝霞市の中で人が集まり、にぎわいが生まれる場所には、公園などのほか、イベントの時に歩行者天国として利用される道路などがあります。市役所の駐車場やシンボルロードも、彩夏祭やアサカストリートテラス等の会場として活用されています。また、黒目川は桜の時期の花まつりや川まつりの舞台にもなり、多くの人が交流する大切な場所になっています。

お寺や神社の境内でも、地域に根ざしたお祭りや行事が行われており、昔から続くにぎわいの場として親しまれています。

表 参-5 にぎわいを生み出すみどりやオープンスペースの例

場所・空間	内容や具体例
公園や広場	都市公園、児童遊園など (分析では、面積が 1,000 m ² 以上の大きなものを対象にしています。)
道路や駅前広場	市役所通り、駅西口富士見通線、朝霞駅・北朝霞駅の駅前広場など（「アサカストリートテラス」などのイベント会場となる場所）
神社・寺	地域のお祭りや行事が行われる境内など
河川の周辺	黒目川、越戸川（赤池親水公園の周辺など） (イベントが開かれたり、散歩や休憩で人が集まったりする水辺)

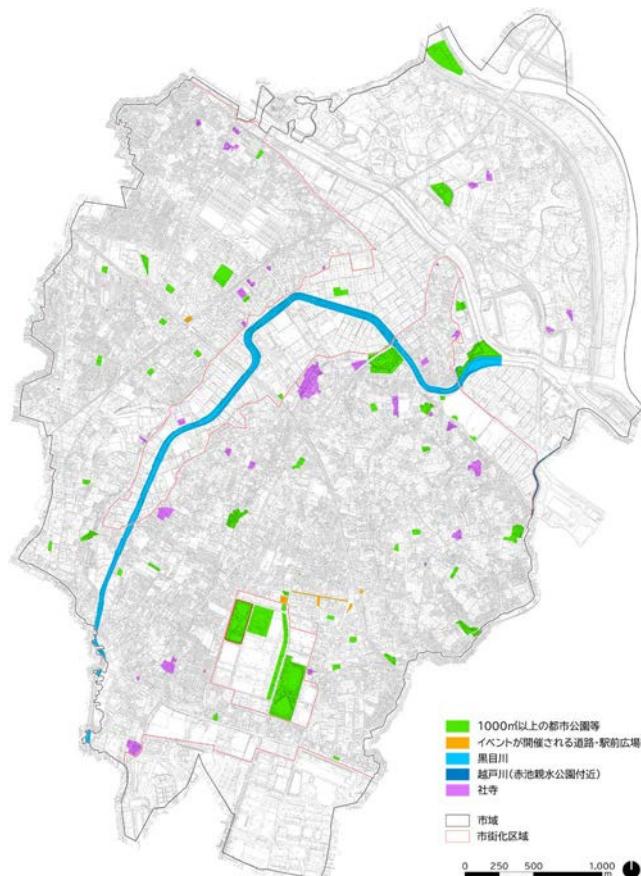


図 参-24 にぎわいを生むみどりやオープンスペース

1 みどりの多面的効用に着目した分析

⑧ 防災拠点となるみどり

みどりが持つ防災の力は、そこにあるだけで効果を発揮する「存在効果」と、避難時などに役立つ「利用効果」の2つに大きく分けられます。

表 参-6 防災に関わるみどりの効果

区分	期待される効果
存在効果 (そこにあるだけで役立つ力)	火が広がるのを防ぐ(延焼防止)、爆発などの衝撃を和らげる、水害やかけ崩れの被害を抑える、危険な場所への立ち入りを制限するなど
利用効果 (いざという時に使う力)	災害時の避難場所、壊れた街を元に戻すための活動拠点など

a. 火災や水害を防ぐ役割

延焼(火が広まること)を抑える役割を持つみどりやオープンスペースとして、都市公園や道路のほかに、農地や樹林地などが挙げられます。

水害の緩和・防止に役立つみどりとしては、浸水想定区域内にある調節池や農地などが挙げられます。これらは、大雨の際に水を一時的にためる遊水機能によって、防災性の向上に寄与しています。また、台地面の樹林地や農地、草地などは、雨水を地面の下へしみこませる保水能力を持っており、下水道があふれる「内水氾濫」の緩和にもつながっています。

b. かけ崩れを防ぐ役割

朝霞市では、台地のふちにあたる斜面地を中心に、土砂災害の危険がある場所(土砂災害警戒区域など)が33か所指定されています。こうした場所の一部では、みどりを守るために「特別緑地保全地区」などを指定することで、かけ崩れの防止と自然環境の保護を行っています。

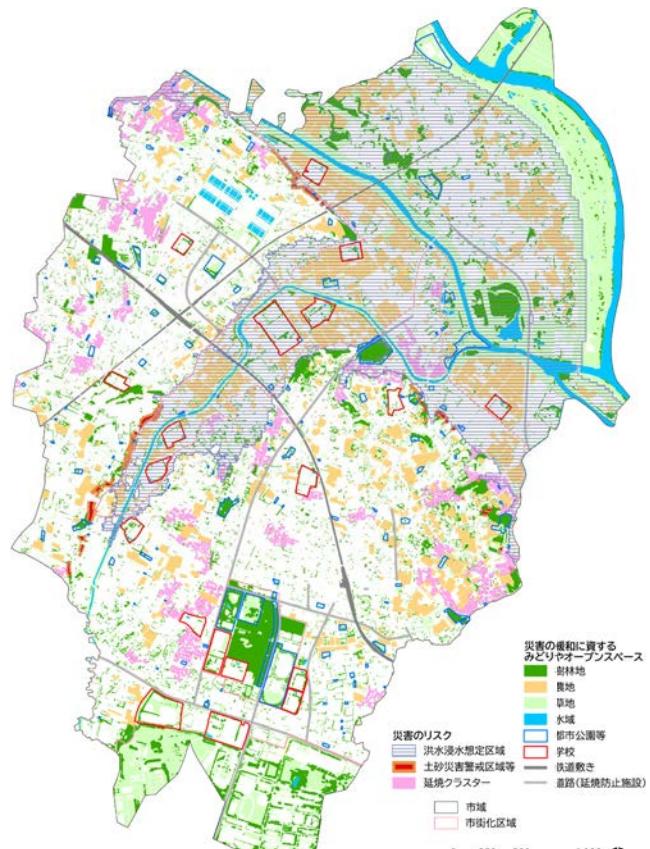


図 参-25 災害の緩和に役立つみどりやオープンスペース

c. 避難場所としてのオープンスペース

みどりが持つ「利用効果」には、災害時の避難場所や、壊れた街を元に戻すための復旧・復興活動の拠点としての役割があります。朝霞市では、具体的に「避難所」や「防災活動拠点」として、市立小学校や都市公園などがその機能を担っています。

表 参-7 朝霞市の防災活動拠点と避難場所

区分	役割と主な施設
地域防災拠点	避難場所に指定されているほか、災害直後に必要な食料や資機材が備蓄されており、地域の自主防災活動の拠点となる施設です。市内の小学校 10 校が指定されています。
防災活動拠点	災害対応の指揮をとる場所や、物資を運び込む場所などです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 市役所・出張所（対策本部など） ● 各小学校・市民センター（地域防災拠点・物資備蓄場所） ● 朝霞駐屯地・中央公園・東洋大学（ヘリコプターの臨時離着陸場） ● 中央公園野球場・総合体育館（物資を集める拠点）
避難場所	災害時に市民の安全を確保するための緊急避難場所です。学校、公民館、保育園、公園などが指定されています。

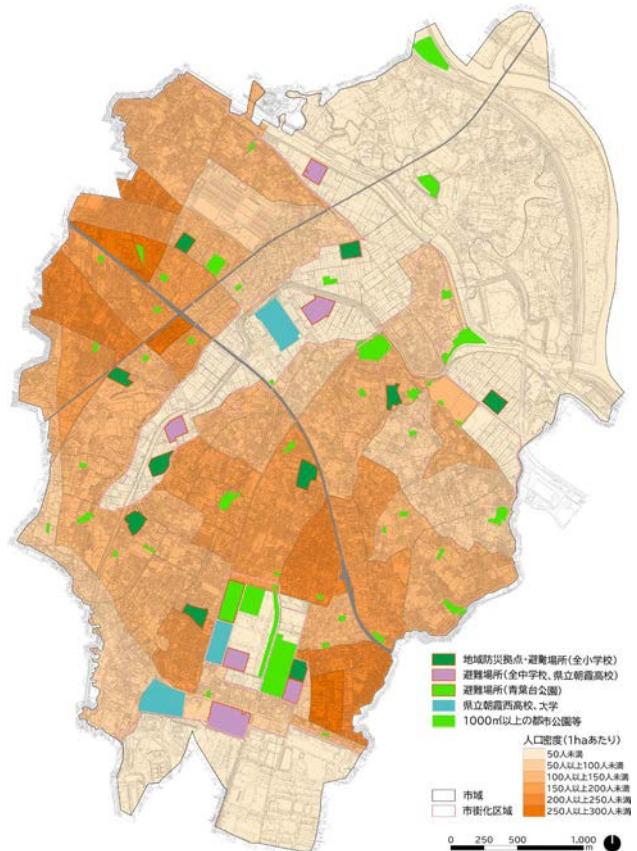


図 参-26 避難場所等のオープンスペースと人口密度

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(5) みどりの総合評価

みどりの保全や施設整備をどの場所から優先的に進めるかを検討するためには、みどりが持つさまざまな価値を総合的に把握する必要があります。そこで、これまで個別に分析してきた「みどりの各機能（はたらき）」を一つにまとめる「総合評価」を行いました。

a. 総合評価の方法

評価を統合するにあたっては、市民アンケート調査の結果を活用しています。具体的には、市民の皆様に「みどりの各機能に対して、仮に合計1,000円を支払うとしたら、それにはいくらずつ配分するか」という質問を行い、その回答結果（金額の割合）をそれぞれの機能の「重み」として用いています。

総合評価では、評価の視点を次の2つの「軸」に分けて整理しました。

- みどりの保全性評価軸：今ある豊かな自然を「守る」ことを検討するための評価
- みどりの必要性評価軸：みどりを新しく作ったりする「必要性」を検討するための評価

それぞれの統合にあたっては、まず、計算単位や数値が異なる各評価の結果を、統計的な手法（標準化）を用いて比較できる形に変換しました。そのうえで、前述の市民アンケートによる「重み付け（割合）」をし、合算しています。

〔標準化：単位が異なる複数のデータ（例：温度と面積など）を、平均が0、分散（データのばらつき）が1になるように変換し、同じ基準で比較できるようにすることです。〕

表 参-8 みどりの機能別評価軸と重み付け

区分	みどりの機能	家庭の支払額	重みの割合
みどりの保全性評価軸	水害抑制（湧水涵養）	135円	13.5%
	ヒートアイランド現象の緩和	125円	12.5%
	炭素固定（CO ₂ 吸収）	158円	15.8%
	地域生態系の保全	91円	9.1%
	郷土の景観の保全	64円	6.4%
	農業活動の場の保全	47円	4.7%
みどりの必要性評価軸	健康増進の場の充足	90円	9.0%
	身近な遊び場の充足	121円	12.1%
	にぎわい創出空間の充足	36円	3.6%
	避難有効空間の充足	106円	10.6%

b. 今ある豊かな自然を「守る」ことを検討するための評価

「水害の抑制（湧水涵養）」、「ヒートアイランド現象の緩和」、「炭素固定」、「地域生態系の保全」、「郷土の景観の保全」、「農業活動の場の保全」。これらのみどりが持つさまざまな「守る力」を統合して評価した結果、以下のことが分かりました。

ア. みどりのはたらきが大きい場所

朝霞市の中で、特にみどりの保全性が高いと評価されたのは、墓地跡地、朝霞調節池、城山公園、黒目川のほか、根岸台など斜面林です。また、荒川河川敷や陸上自衛隊朝霞駐屯地内の草原、浜崎・田島・根岸台・内間木などの農地も、大きな役割を担っていることが確認されました。

イ. みどりの力を守り、育むための現状とポイント

これらの場所には、すでに緑地として守られている場所もありますが、斜面林の一部にはまだ保全の仕組みがない場所が見られます。また、市街地にある農地は、住宅地などへの転用が進みやすい環境（開発圧）にあります。すでに緑地として守られている場所であっても、適切な管理が十分に行き届かず、みどりが持つ本来の機能が十分に発揮できていないケースもあると考えられます。

一方、みどりの少ない市街地では、評価が低い傾向にあります。こうした場所では、木陰を作る樹林の配置や、雨水を地面にしみ込ませる舗装の導入など、それぞれの場所の条件に合わせた「みどりの力を高める工夫」が必要です。

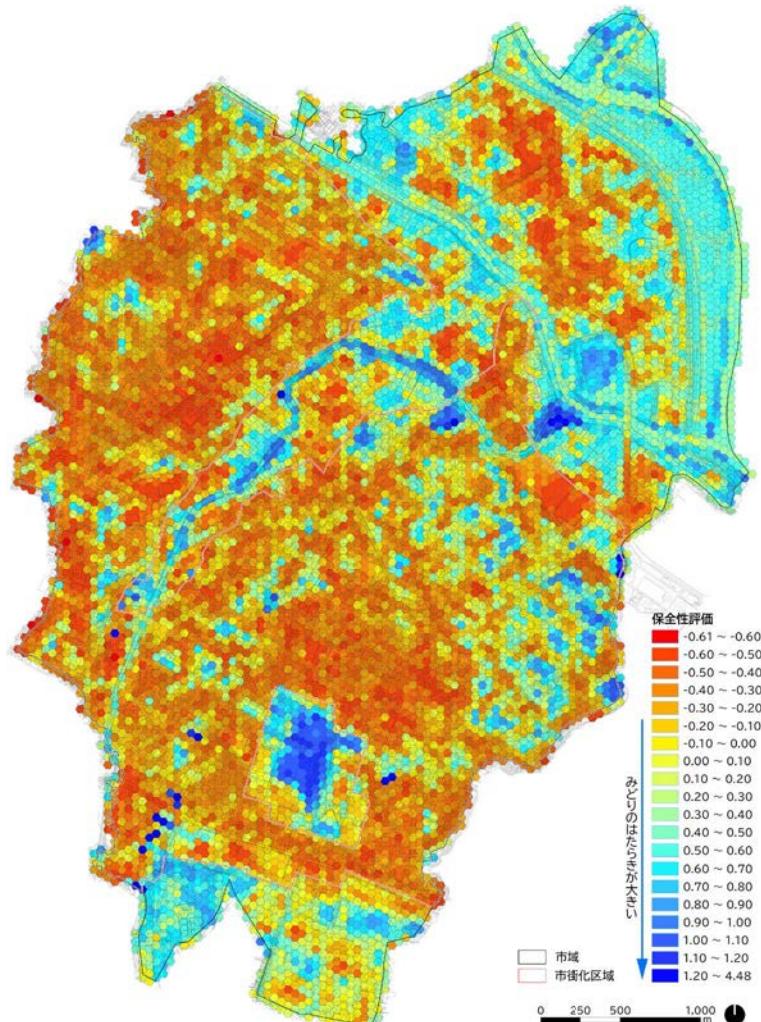


図 参-27 今ある豊かな自然を「守る」ことを検討するための評価図

1 みどりの多面的効用に着目した分析

c. みどりを新しく作ったりする「必要性」を検討するための評価

みどりを新しく作ったり改善したりする「必要性」の評価

「健康増進」、「身近な遊び場」、「にぎわい交流」、「避難場所」。これらのみどりを「利用する」視点から、新しく作ったり改善したりする必要性を評価した結果、以下のことが分かりました。

ア. みどりのサービスが充実している場所

周辺の住民にみどりのサービス（レクリエーションや防災機能など）を十分に提供できている場所としては、青葉台公園、朝霞の森、シンボルロード、朝霞中央公園、城山公園、田島緑地、内間木公園、上野荒川運動公園、黒目川、荒川、新河岸川などが挙げられます。特に朝霞の森の一帯は、周辺に多くの人が住んでいる中で、遊びや防災、にぎわいといったさまざまな機能を備えており、朝霞市の中心的な公園として大きな役割を果たしています。

イ. 今ある強みを活かし、市民のニーズに応える工夫

本町の北部、栄町の東部、朝志ヶ丘から三原、弁財にかけてのエリアは、現在、公園などのオープンスペースが少なく、人口密度が高いこともあります。こうした地域の方々が、日常の中で自然の恩恵をもっと身近に感じられるような工夫が求められています。

一方、朝霞市では、黒目川をはじめとする河川空間が、日常の楽しみや運動の場として大きな役割を果たしているのが特徴です。今後は、この独自の強みを最大限に活かし、「公園」と「河川」、そして「快適に歩ける空間」を効果的に組み合わせることで、市民の多様なニーズにきめ細かく応えていくことが重要と考えられます。点として存在する公園をつなぎ、まち全体を「みどりのネットワーク」で包んでいくことが、これから朝霞市のまちづくりの鍵となります。

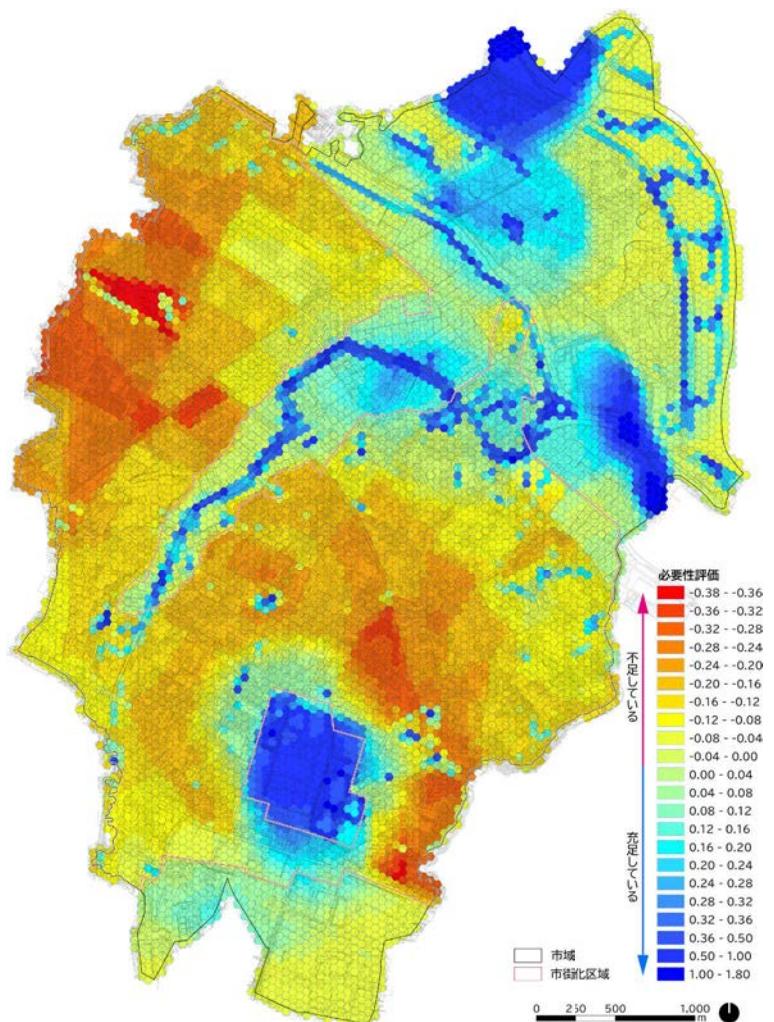


図 参-28 みどりを新しく作ったりする「必要性」を検討するための評価図

2 みどりの市民アンケート調査

(1) アンケート調査の目的と方法

朝霞市みどりの基本計画の改定にあたり、市民のみどりに対する意識や今後のまちづくりに対する意向を把握し、計画の改定に向けた検討の基礎資料とする目的として、市民アンケート調査を実施しました。

① 配布と改修の方法

- 対象者：市内に在住する 13 歳以上の市民 3,000 人
- 抽出方法：住民基本台帳に基づき、地域別人口構成を考慮した無作為抽出
- 配布方法：対象者へ依頼状、アンケート用紙、返信用封筒を郵送
- 回収方法：郵送（返信先：朝霞市役所みどり公園課）または WEB 回答フォームへの入力
- 調査期間：配布：令和 6 年 9 月 27 日

回収締切：令和 6 年 10 月 15 日（投函および WEB 入力締切）

② アンケートの回収数

- 郵送法 737 人
- WEB回答 208 人
- 合計 945 人 …回答率 31.5%

③ 設問項目

表 参-9 市民アンケート調査の設問構成

属性	年齢、職業、居住歴、世帯構成、居住地
問1	朝霞市のみどりに対する満足度
問2	豊か・魅力的と感じるみどり
問3	将来に残していきたいと思うみどり
問4	市内の公園の利用頻度
問5	お住いの近くの公園について
問6	みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策
問7	緑化活動・緑地保全活動への参加経験
問8	市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験
問9	自然環境が有する多様な機能の認知度
問10	みどりを守るための仮定の支払い意思
意見・要望	みどりのまちづくりについての意見・要望

2 みどりの市民アンケート調査

(2) アンケート調査の結果概要

① 回答者の属性

- 回答者の年代は、50代（18.2%）が最も多く、次いで60代（17.9%）、40代（15.6%）となりました。40代から60代で全体の約半数を占めています。
- 市内での居住年数は、「30年以上（36.6%）」が最も多く、次いで「20年以上30年未満（20.0%）」となりました。20年以上市内に在住している方が半数を超えており、定住性の高い回答者が多い傾向にあります。
- 世帯構成は、「その他（二世代同居等、24.7%）」が最も多く、次いで「単身者（22.6%）」、「夫婦のみ（21.3%）」となりました。また、18歳未満のこどもがいる世帯は全体の30.6%です。その内訳は、一番上の子が「小学生・中学生」である世帯が11.0%、一番上の子が「小学校入学前」である世帯が7.2%となっています。
- 回答者の居住地を地域別にみると、南部地域（38.2%）が最も多く、次いで東部地域（20.8%）、北部地域（19.8%）の順となっています。

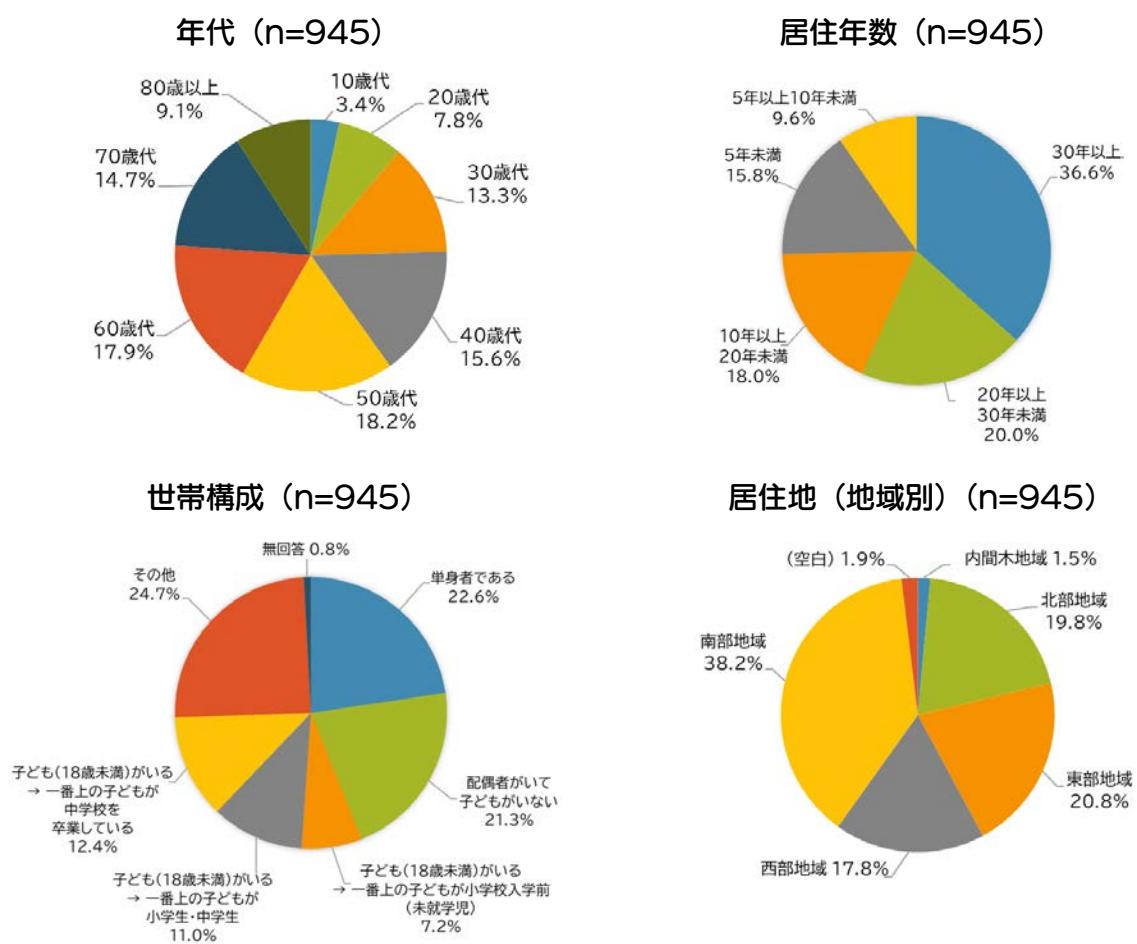


図 参-29 回答者の属性

② みどりの満足度について

a. 全体

満足度が最も高かったのは、「朝霞市のみどりの豊かさや魅力 (0.29)」で、次いで「住まいの近くのみどりの豊かさや魅力 (0.19)」となりました。一方で、満足度が最も低かったのは「公園などでレクリエーション活動が楽しめる (-0.03)」で、唯一のマイナス評価となりました。また、「災害時の避難地や拠点として機能する公園がある (0.02)」も低い評価にとどまっています。

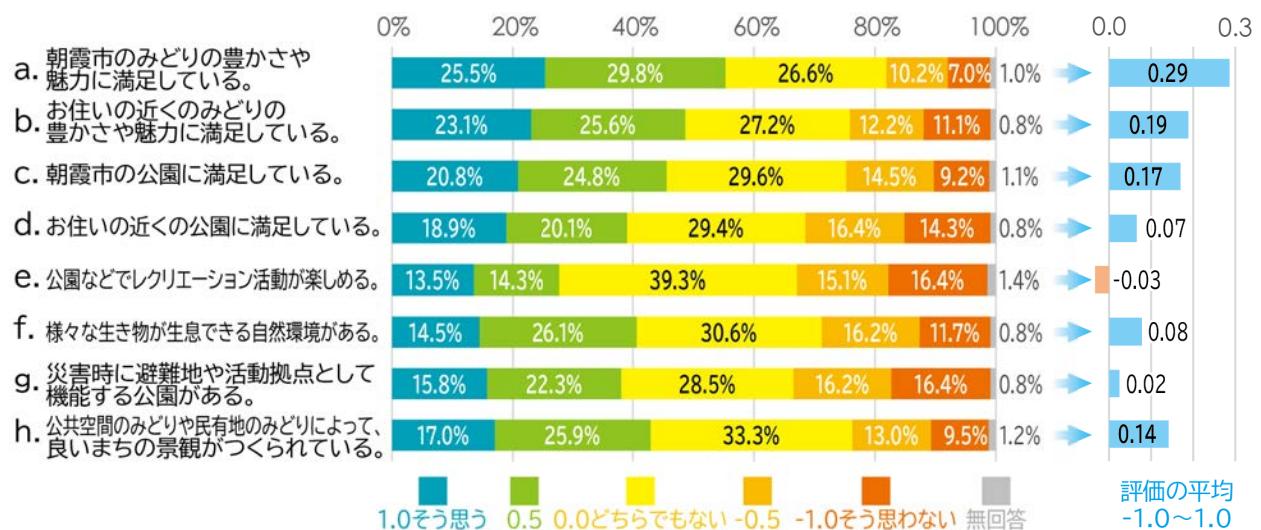


図 参-30 朝霞市のみどりに対する満足度

b. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足している」 × 年代別

年代別にみると、40歳代 (0.43) が最も満足度が高く、子育て世代などの現役世代から評価されている傾向が見られます。一方で、80歳代 (0.1) が最も低い評価となりました。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

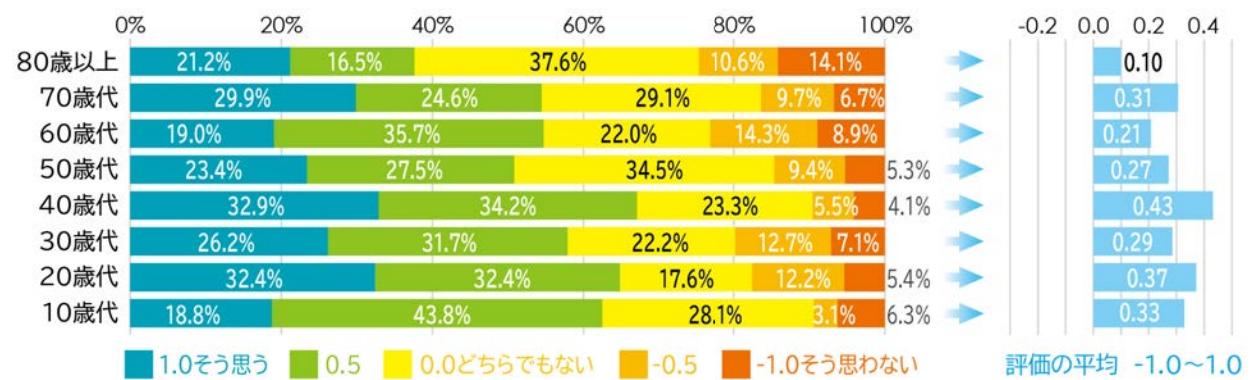


図 参-31 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《年代別》

2 みどりの市民アンケート調査

C. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足している」 × 地域別

地域別の傾向では、南部地域と西部地域で評価が大きく分かれる結果となりました。

- 「市全体のみどりの豊かさ・魅力」に対する満足度では、最も高いのは南部地域（0.49）で、最も低いのは西部地域（0.03）でした。
- 「住まいの近くのみどりの豊かさ・魅力」に対する満足度では、こちらも南部地域（0.41）が最も高く評価されています。一方で、西部地域（-0.10）と北部地域（-0.02）はマイナス評価となり、身近なみどりに対する満足度の低さが顕著に表れています。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

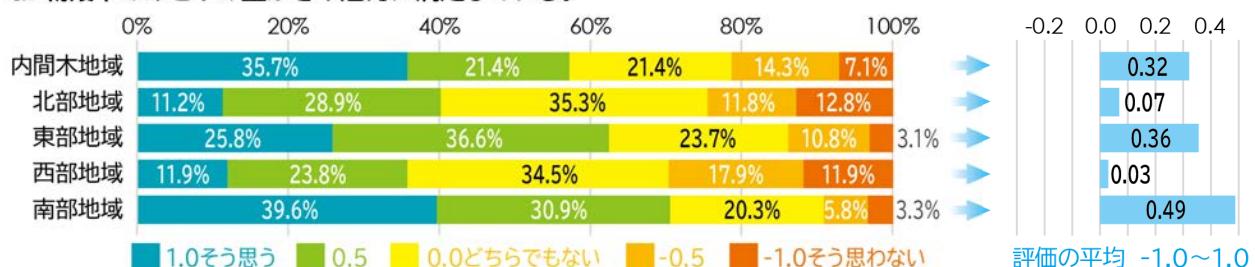


図 参-32 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。

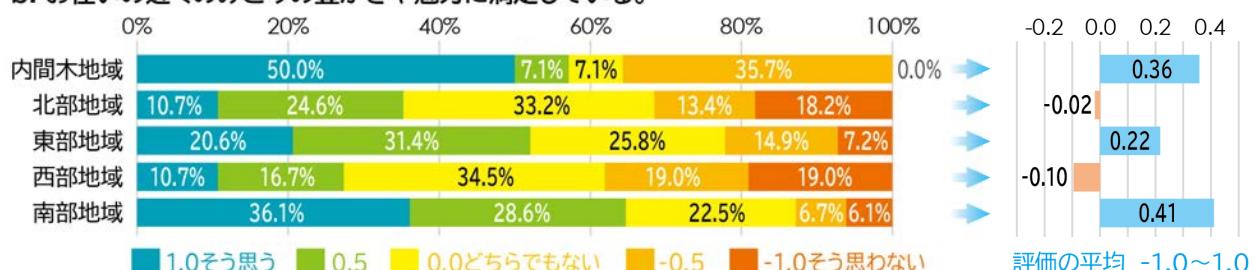


図 参-33 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

③ 豊か・魅力的と感じるみどり

市民が最も「豊かで魅力的」と感じる場所として、黒目川（331人）が突出して多くの票を集めました。次いで、青葉台公園やシンボルロード、朝霞の森などが上位に挙げられています。

- 河川：黒目川（331人）が最多。新河岸川や越戸川も魅力的な水辺として認識されています。
- 公園：青葉台公園（116人）、城山公園（70人）、朝霞中央公園（43人）、滝の根公園（35人）といった、面積の広い公園が高い評価を得ています。
- その他：シンボルロード（115人）や朝霞の森（106人）が、公園と同様に多くの市民に親しまれています。

④ 将来に残していきたいみどり

「将来に残していきたいみどり」については、朝霞の森（158人）と黒目川（154人）がほぼ並んで多くの支持を集めました。

- 抱点的なみどり：朝霞の森（158人）、シンボルロード（42人）、基地跡地（34人）といった、市を象徴するエリアの保全を望む声が多く寄せられました。
- 河川：魅力度でも1位だった黒目川（154人）が、将来に引き継ぐべき貴重な自然として認識されています。
- 主要な公園：地区公園である城山公園（85人）や青葉台公園（55人）、近隣公園の滝の根公園（27人）など、身近な大型公園が上位に挙がっています。

⑤ お住いの近くの公園について × 地域別

公園の設備や環境について地域別に分析したところ、地域によって評価が分かれる結果となりました。特に南部地域では肯定的な評価が多い一方、その他の地域では今後の改善を期待する傾向が見受けられます。

- 休憩施設（ベンチ等）の充実度：ベンチなどの休憩施設については、北部地域と西部地域でやや低い評価（平均スコアがマイナス）となりました。
- 安全に遊べる遊具の充実度：「安全に遊べる遊具が充実している」との回答は、南部地域（0.16）が最も高く、その他の地域では課題を感じている方の割合が比較的高い結果となっています。
- 景観の良さ：「公園の植物がよい景観をつくっている」という項目では、南部地域（0.37）で高い評価が得されました。
- 木陰（日よけ）の確保：「夏の日よけになる木陰が十分にある」という項目についても、南部地域（0.36）が肯定的に評価されています。

2 みどりの市民アンケート調査

a. ベンチなどの休憩施設が充実している。

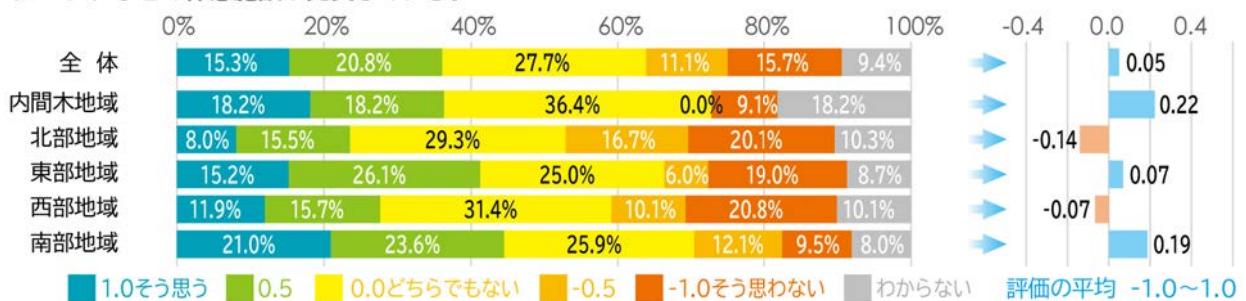


図 参-34 「ベンチなどの休憩施設が充実している。」《全体・地域別》

b. 安全に遊べる遊具が充実している。

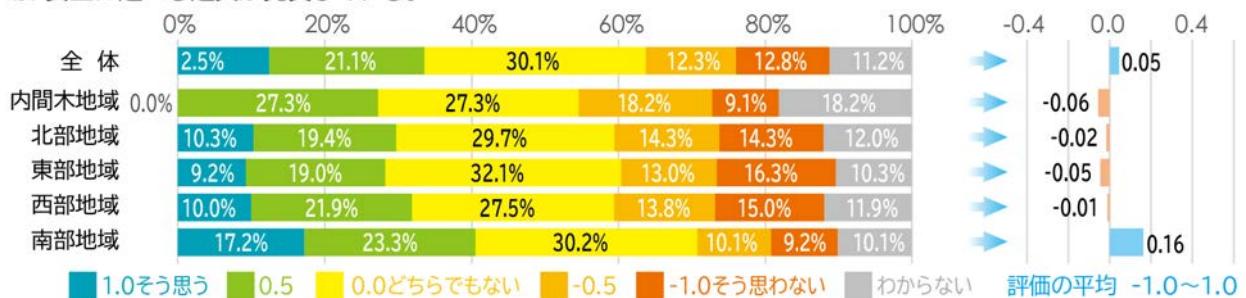


図 参-35 「安全に遊べる遊具が充実している。」《全体・地域別》

c. 公園の植物がよい景観をつくっている。

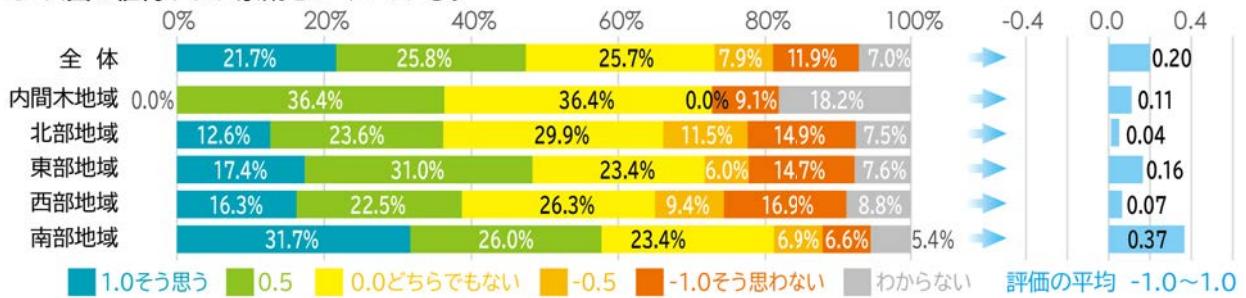


図 参-36 「公園の植物がよい景観をつくっている。」《全体・地域別》

d. 夏場の日よけになる木陰が十分ある。

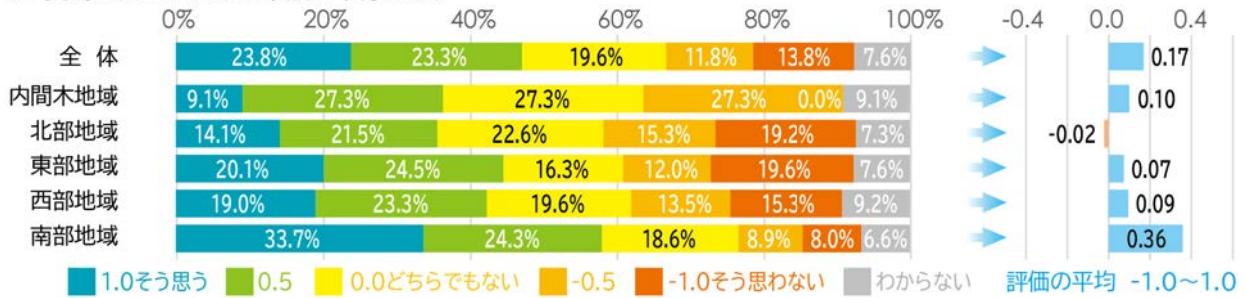


図 参-37 「夏場の日よけになる木陰が十分にある。」《全体・地域別》

⑥ みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策

今後の施策については、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(351件)」が最も多くの支持を集めました。次いで「だれもが気軽に利用できる身近な公園や緑地の充実(292件)」、「川沿いの遊歩道の充実(242件)」が挙げられ、日常生活に密着した整備を望む結果です。

属性・地域別の傾向を見ると、第2位の「身近な公園・緑地の充実」は、10~20代の若年層や70代以上の高齢層、未就学児のいる世帯など幅広い層から支持されています。地域別では、内間木地域(34.4%)において特に関心が高い結果となりました。

また、世代による期待の違いについては、子育て世代が「レクリエーション空間」を重視する一方で、世代が上がるにつれて「安全な歩行環境」や「自然とのふれあい」を望む声が高まるなど、それぞれのライフステージに応じたニーズの変化が見受けられます。

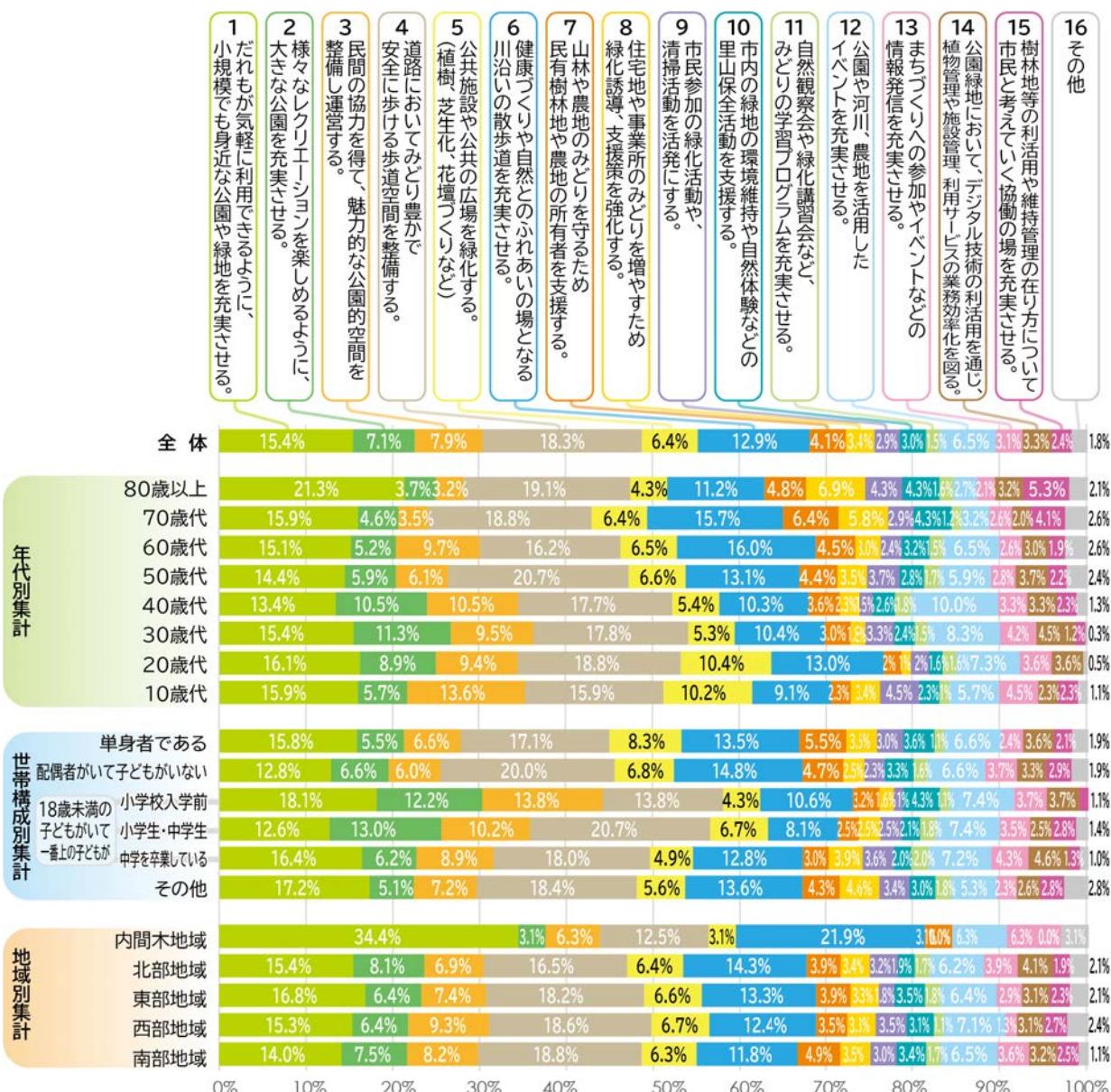


図 参-38 みどり豊かなまちづくりの推進に必要だと思われる施策
《年代別・世帯構成別・地域別集計》

2 みどりの市民アンケート調査

⑦ 緑化活動・緑地保全活動における参加経験

緑化や緑地保全活動への参加経験については、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（10.7%）」が最も多く、次いで「道路などの清掃活動（10.3%）」となりました。

年代別の傾向を見ると、高齢層では清掃活動や自宅の緑化への参加経験が比較的高い一方で、若い世代ではこれらへの参加が少なくなっています。また、子育て世代においては「プレーパークなどこどもに自然との遊び方を教える活動」や「身近な生き物観察・みどりの調査」に参加する方が多い傾向にあります。

一方で、70歳代や80歳以上の層では「全ての活動に参加したことがない」との回答が他の世代に比べて高くなっています。年代によって活動への関わり方に違いが見受けられます。

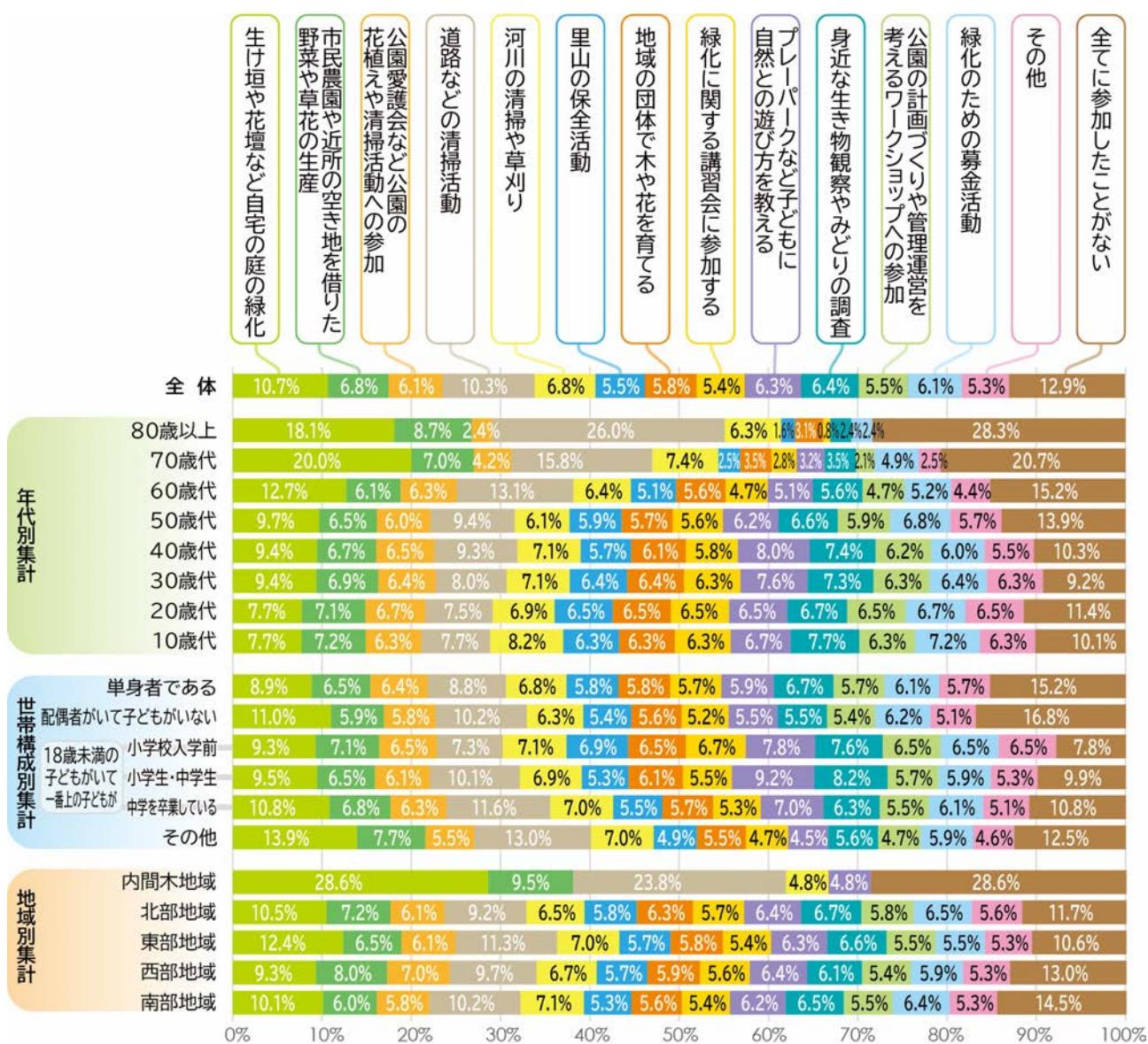


図 参-39 年代別・世帯構成別・地域別の参加活動構成比

⑧ 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験について

市内の公園や緑地で開催されるイベントやまつりへの参加経験については、「彩夏祭（64.8%）」が最も多く、次いで「黒目川花まつり（46.3%）」、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント（27.3%）」の順となりました。また、「あさか冬のあかりテラス（25.6%）」や「ASAKA STREET TERRACE（23.3%）」も上位に挙げられています。

属性別の傾向を見ると、子育て世代において「朝霞の森プレーパーク」や「農業収穫体験（じゃがいも掘り等）」、「移動式プレーパーク」といった体験型イベントへの参加割合が全体に比べて高い結果となりました。公園等の空間が、こどもたちの遊びや貴重な体験の場として活用されている状況が伺えます。

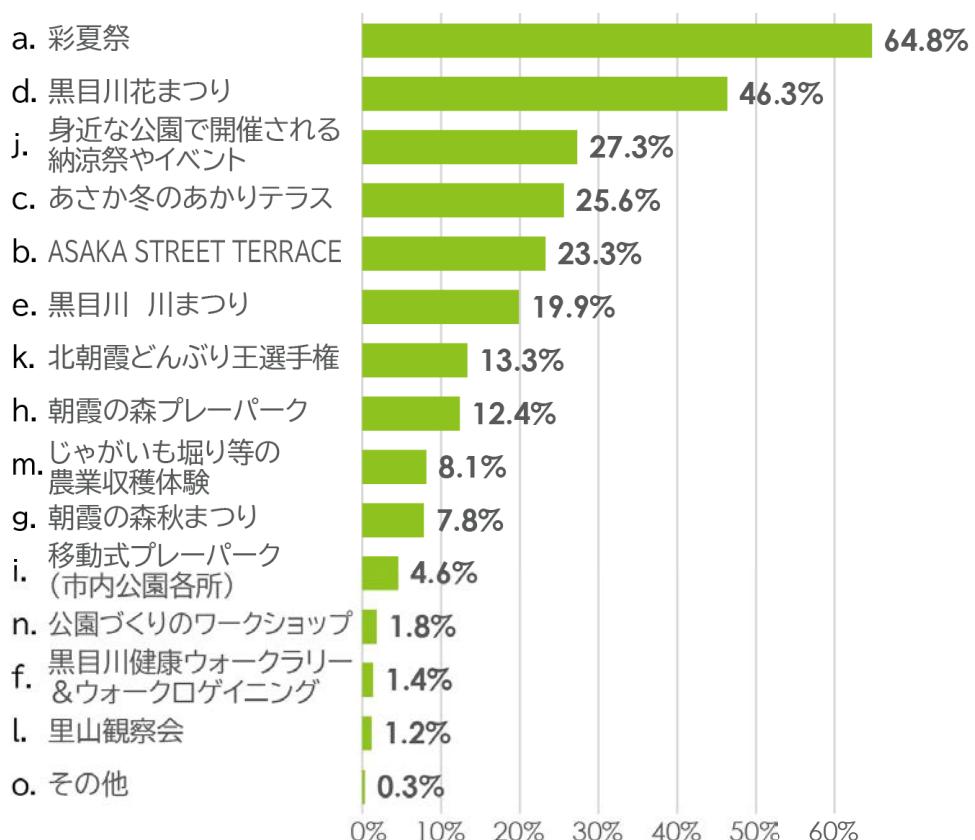


図 参-40 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験

2 みどりの市民アンケート調査

⑨ みどりを守るために仮定の支払い意思について

みどりの保全に対する評価として、各機能への仮想的な支払意思額（総額1000円の配分）を調査したところ、全体では「CO₂の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり（158円）」が最も高く、次いで「自然災害による被害を軽減するみどり（135円）」、「都市の気温上昇を緩和するみどり（125円）」、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり（121円）」の順となりました。

属性や地域別に見ると、子育て世代や内間木地域では「子どもの遊び場や散策の場となるみどり」への評価が最も高くなっています。ライフステージや居住環境によってみどりに期待する役割に違いが見られる結果となっています。

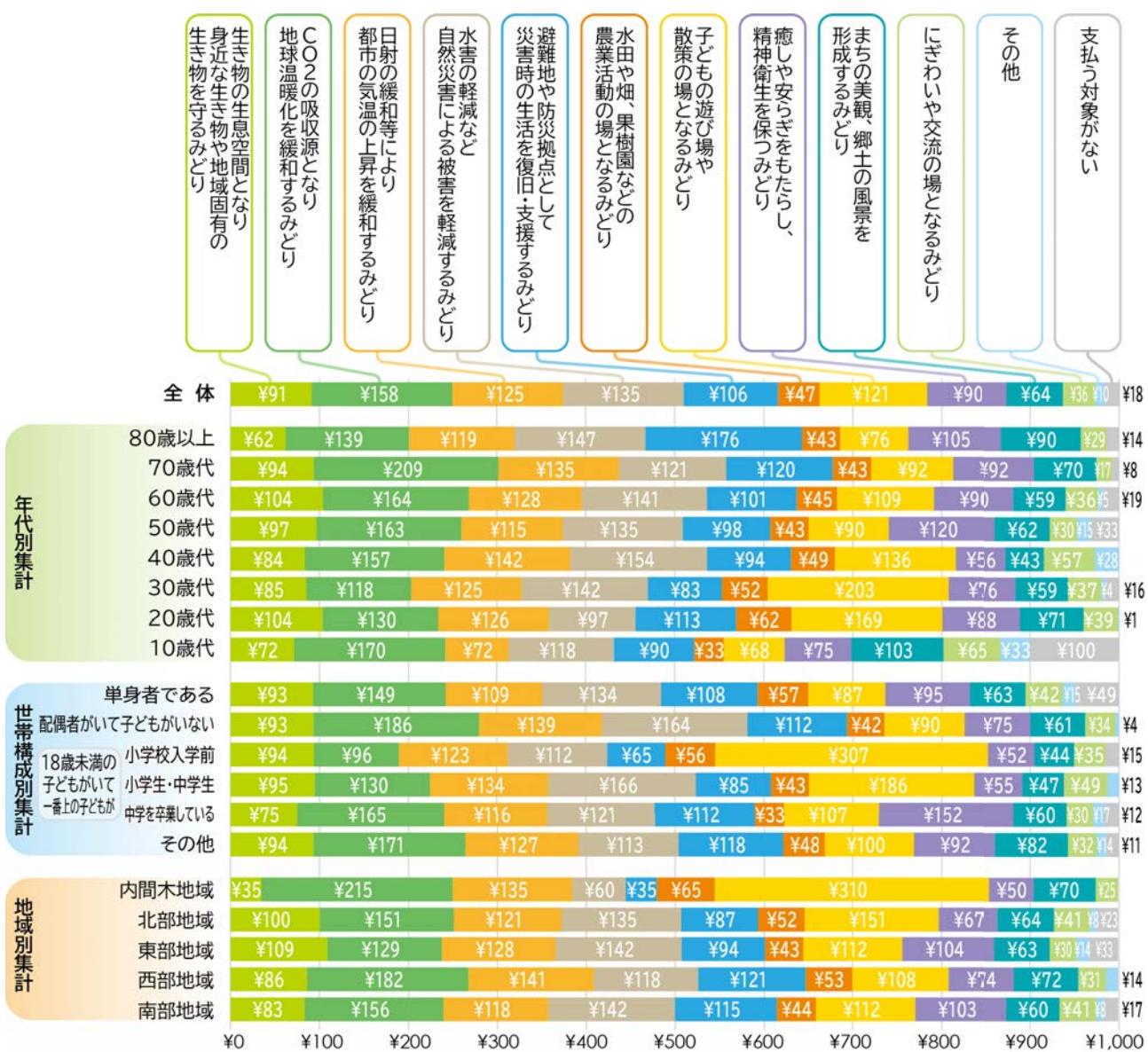


図 参-41 みどりを守るために仮定の支払い意思《全体・年代別・世帯構成別・地域別》

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

(1) シンボルロードの緑地管理を考える勉強会

令和2年にオープンした「シンボルロード」は、みどり豊かな憩いの場として多くの市民に親しまれています。一方で、木々が大きく育ちすぎて混み合ったり、手入れが必要な老木が増えたりするなど、みどりの質を保つための課題も見受けられるようになりました。

こうした背景から、これまで専門家と市民が参加するワークショップが開かれ、この場所を「どう使い、どう守っていくか」という視点から、ルールづくりに向けた話し合いが進められてきました。令和6年3月には、専門の研究機関（都市緑化機構）の樹木医の協力を得て、現地の木々の魅力や課題を整理する勉強会が行われました。

今回の勉強会は、その内容をさらに深めるものとして開催されました。みどりを管理する上で大切な視点を改めて学ぶとともに、現地の樹木を題材にして、どのような手入れ（管理項目）がふさわしいのかを具体的に解説しました。朝霞のまちのシンボルであるこの場所を、次世代へ健やかに引き継いでいくための重要なステップとなっています。



現地での勉強会の様子

- 日時：和7年1月26日（日曜日）午前10:00～12:00
- 場所：朝霞市役所大会議室（座学） → シンボルロード（現地樹木を題材とした勉強会）
- 講師：都市緑化機構環境緑化技術共同研究会 伊東伴尾 豊田幸夫 直木哲 藤田茂 今井一隆
- 参加人数：15名

【講師による現場での解説・提案の内容】

- 安全と樹林の健全性対策（どのような樹林にしたいか検討する必要がある。樹木の密度管理が必要である、大木の周りの実生木の除伐が必要である。枯れ枝や細い枝は早めに撤去することが推奨される。）
- 特定の樹木の保全が必要（シンボルツリーの保全が必要である。ヤマザクラを保全する場合は周りの木を除伐する必要がある。）
- 特定の常緑樹の管理（アオキの実生木は剪定が必要である。常緑の中木は視認性確保に配慮が必要である。）
- 貴重種の保護（日陰や落ち葉などの必要条件を確保する必要がある。貴重種の保護看板の設置が推奨される。）
- その他（林床保護のため散策路やベンチの整備が推奨される。剪定枝などでつくるバイオネストの配置も推奨される。イルミネーションは設置・撤去時に樹木へのダメージを避けることに配慮が必要である。）

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

(2) みどりの基本計画の策定に向けたワークショップ

これからのお「みどりのまちづくり」を考えるため、市民と意見を交わすワークショップを開催しました。このワークショップでは、まちの課題や魅力的な資源を見つけ出し、将来の姿やそれを実現するためのアイデアについて、グループに分かれて話し合いを行いました。

- 日時：令和7年2月22日（土曜日）午前10:00～12:00
- 場所：中央公民館・コミュニティセンター1階 第1・第2集会室
- 参加人数：15名

グループワークのテーマは、市民アンケート調査の結果などを踏まえ、「身近な遊び場」、「歩くことが楽しいまちづくり」、「シンボルロードの緑地管理」の3つを設定しました。



A班
(身近な遊び場)



B班
(歩いて楽しいまちづくり)



C班
(シンボルロードの緑地管理)

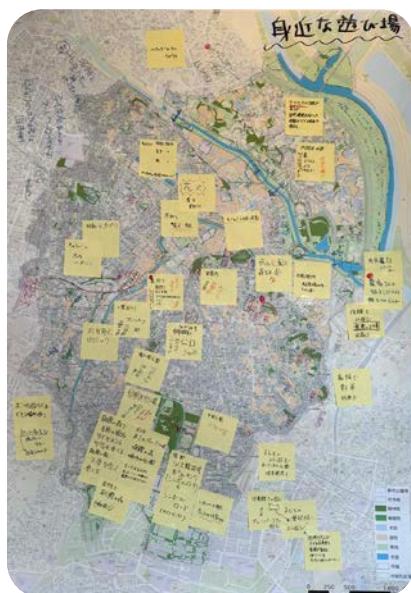


図 参-42 A班成果品

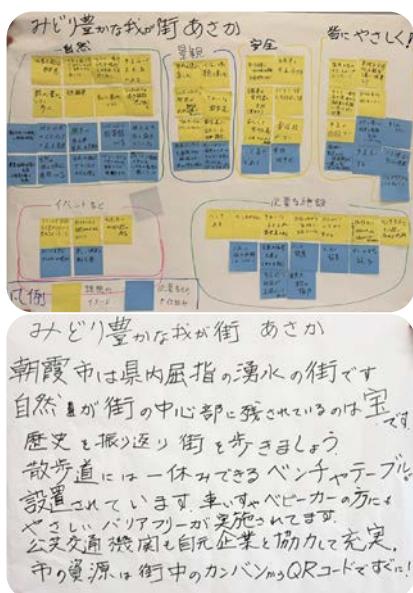


図 参-43 B班成果品



図 参-44 C班成果品

表 参-10 A班によるグループワークの内容

地域	ポテンシャルのある場所	遊びや学び、見守りの内容	現在の状態／必要なもの・仕組み
全域 ・ 広域	市内各所、公園、児童館、川の向こう側	見守り、防犯、ネットワーク、プレーパーク、ボール遊び、外遊びイベント、ウォーキング、ピクニック	<ul style="list-style-type: none"> ・各所でのイベントを通じた地域の見守り（こども会・防犯パトロールの活用）。 ・移動型プレーパークの実施。 ・ボール遊びができる場所の確保と「場所マップ」の作成。 ・児童館から外遊び（プレーパーク）へ導く仕掛けと大人への意識啓発。 ・黒目川遊歩道の活用。
北部 地域	宮戸緑地、田島緑地、わくわくふれあい花園、産業文化センター周辺、北朝霞公園、（仮称）宮戸二丁目公園、ジェネシティ周辺	緑地活用、フィッシュウォッチング、花壇、花見、花火、新たな公園整備	<ul style="list-style-type: none"> ・里山クラブの活動。 ・荒川でのニジマス・バス観察。 ・産業文化センターと黒目川の一体的な活用（花火など）。 ・田島緑地への駐車場・トイレ設置の要望。 ・かつての緑地（マンション化）の記録。
東部 地域	向原公園、根岸台緑地、岡緑地、城山公園、あけばの公園、水久保公園、根岸台自然公園、越戸川近くの樹林地、旧高橋家住宅、東圓寺、根岸通周辺	プレーパーク、緑地活用、森林浴、花見、外遊び、虫取り、散策、昔遊び、芋ほり、ひな祭り体験、イベント、お茶会、竹林	<ul style="list-style-type: none"> ・里山クラブや保育園との連携。 ・城山公園の森林浴、東圓寺での文化体験。 ・旧高橋家での歴史・伝統文化体験。 ・かつて虫取りができた私有地や、住宅地・商業地化したかつての緑地の記録。 ・家族での散策スポット。
西部 地域	島の上公園、黒目川（桜堤・遊歩道周辺）	プレーパーク、水遊び、鮎釣り、フィッシュ・バードウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークの実施（魚・川遊びの増加）。 ・裸足で歩ける川としての活用。 ・アユ、カワセミなど豊富な生態系の観察。
南部 地域	中道公園、滝の根公園、朝霞の森、朝霞中央公園、陸上競技場、シンボルロード	遊具、アスレチック、冒険遊び場、キャンプファイヤー、季節の植物、ピクニック、野外調理、ウォーキング、サイクリング	<ul style="list-style-type: none"> ・「あさかプレーパークの会」による活動。 ・中道公園（遊具）、滝の根公園（アスレチック）の特色。 ・朝霞の森での多角的な体験（調理・火・自然）。 ・シンボルロードの散策路としての魅力向上。 ・課題：日除け、テーブル、椅子の設置（滞在時間の延長）。
内間木 地域	市民農園、内間木水路、新河岸川・荒川沿い（市境）、荒川（河川内）	自然体験、収穫体験、虫取り、フィッシュウォッチング、将来的な遊び場、舟・橋（動線）	<ul style="list-style-type: none"> ・農家との協力による緑・土とのふれあい。 ・内間木水路の豊かな生態系（メダカ・ドジョウ等）の観察。 ・アクセスの改善が課題。 ・川渡し（舟）の設置や橋の活用による回遊性の向上。

[地図に書き込まれた内容を、地域ごとに整理しています。]

3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

表 参-11 B班によるグループワークの内容

将来像：【みどり豊かな我が街あさか】		
分野 (キーワード)	理想のイメージ	必要なものや仕組み
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を感じる自然豊かな散歩道がある ・希少植物や野鳥の観察ができる ・豊かな農地が守られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模集合住宅の開発規制 ・市民ボランティアと市職員による維持管理 ・農業振興や一次産業支援の充実 ・100年先を見据えた自然保護の検討
景観・回遊性	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水を巡る遊歩道がある（広沢の池等） ・川沿いの景色を楽しみながら歩ける ・シンボルロードに歴史や環境を伝える看板やQRコードがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の公園や施設を「点から線、面」へ繋ぐネットワーク化 ・シンボルロードから朝霞の森までの散策路開通 ・魅力的なルートの広報 ・環境教育に繋がる案内看板の設置
安全	<ul style="list-style-type: none"> ・車、自転車、歩行者が分離されている ・黒目川等で自転車と歩行者が区別されている ・電信柱がなく、見通しが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・一方通行化や交通規制の実施 ・電柱の地中化（無電柱化）の推進 ・安心して歩ける道の整備（バリアフリー）
ユニバーサル デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や車椅子、ベビーカーでも歩きやすい道（段差・凹凸がない） ・「行きは良いが帰りは辛い」を解消する利便性 ・オープンデッキで買い物や食事が楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープの設置や歩道の拡幅 ・乗合タクシーやシェアサイクルの整備 ・バス便の拡充（地元企業との協賛・協力） ・市役所から商店街の一方通行化とテラス設置
イベント ・ 賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ・出かけたくなるイベントや目的がある ・市役所前に常設のキッチンカーがありワクワクする ・こどもたちが喜ぶ遊具がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント運営に関わるプレイヤーの育成 ・東洋大学等の学生との連携 ・楽しい遊具のある公園の増設
必要な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・一休みできるベンチやテーブルがある ・綺麗なトイレや水飲み場が遊歩道にある ・挨拶ができる安全な環境、舗装広場がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ・テーブル、トイレ、水飲み場の設置 ・地元企業や店への協力依頼（水・ベンチの提供） ・シンボルロードから中央公園への横断歩道設置 ・スケボー等が可能な舗装広場、駐車場の整備

ひとまとめにした意見を分野（キーワード）としてまとめ、各意見を「理想のイメージ」と「必要なものや仕組み」の視点から整理しています。

表 参-12 C班によるグループワークの内容

シンボルロードの位置づけ 朝霞の森：森のコア ←→ シンボルロード：里山（まちと森が接する場）←→ 市街地：まち		
項目	理想のイメージ	必要なものや仕組み
1. ビジョンを 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・「次世代につなげる新しい里山（朝霞スタイル）」を理念とする。 ・名称は「朝霞の森シンボルロード」とし、朝霞の森の一部（遊歩道）として位置づける。 ・暮らし・交流・里山・里林をキーワードとし、人工的な公園ではない「まちの里山」を目指す。 ・朝霞の森を水源（流域上流部）として保全する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え続け、作り続けるプロセスが必要。 ・人との繋がりを強化する仕組み。 ・朝霞の森とシンボルロードを繋げる道（二期工事予定区間）を開通させる。 ・朝霞の水（地下水3割）を守る、流域保全の仕組み。
2. ゾーンの 目標植生を 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野に古くからある樹林（クヌギ・コナラ）を基本とし、生物多様性を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーンごとの目標植生の決定（樹木医の知見活用）。 ・都市における森の在り方（落葉・常緑比率の管理等）の目標設定。
3. ゾーンごとの 作業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・目標植生に基づき、適切に更新・管理された安全な樹林地。 ・枝を残した剪定により、鳥や花が集まる環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「木を切らないと日光が当たらない」等の管理の常識を伝え、残していく仕組み。 ・土壤改善のためのボーリング（コンクリートへの穴あけ等）の実施。
4. 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体、市、専門家が協力し、管理の役割分担が明確化されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が管理に協力する仕組み。 ・「誰が点検し、誰が何をするか」を明確にした具体的な作業計画の策定。 ・危険木の伐採等は3者立ち会い（市民・市・専門家）で行う。
5. 実行と 見直し体制	<ul style="list-style-type: none"> ・常に内容を評価し、見直しができる仕組みがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しのための継続的な仕組みづくり。
歴史を次世代 に伝える	歴史を次世代（こどもたち）に伝える。	基地の歴史だけでなく、それ以前の武蔵野の森の歴史から教える仕組み。こどもが森に入り興味を持つ機会の創出。
生き物と のふれあい	カブトムシや鳥がたくさん来る環境。	落ち葉を堆肥（バイオネスト）として活用し、カブトムシを育てる。巣箱の設置など、鳥が来る仕組み。
墓地跡地の中	墓地跡地内部の樹林の変化を把握する。	内部に入る機会を設け、10年間で変化した現在の樹林環境を知る調査。
保安・防犯	安全な場所であること。 適度な照明（生態系配慮と防犯の両立）。	シンボルロードの保安・防犯の仕組みづくり。
利便性	トイレや各施設へのアクセスが良い。	横断歩道を増設し、シンボルロードから周辺公共施設（公民館等）のトイレを利用しやすくなる。

4 みどりの取組（施策の個表）

1 著らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

施策の柱	基本施策	個別施策
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上	①特別緑地保全地区の指定 ②保護地区・保護樹木制度の運用 ③指定文化財制度の運用 ④公有地化による樹林地等の確保 ⑤景観重要樹木の指定
	(2) 良好的な里山環境の維持・再生	①里山保全活動の推進 ②里山管理ガイドラインの策定
	(3) 都市農地の保全	①生産緑地・特定生産緑地制度の運用 ②遊休農地の活用促進 ③景観作物の栽培 ④災害時の都市農地の活用
1-2 水辺の保全	(1) 勝水の保全	①湧水地及び周辺環境の保全 ②雨水貯留浸透の推進
	(2) 河川の保全	①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全 ②黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全 ③朝霞調節池内の湿地環境の保全
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	①身近な公園の適正配置 ②基地跡地公園の整備推進 ③内間木公園の整備推進
	(2) 公園機能の充実	①防災機能の充実 ②バリアフリー・インクルーシブデザインの推進
	(3) 公園の維持管理の充実	①施設の維持管理の充実 ②維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定
1-4 道路・河川のみどりの育成	(1) 街路樹・並木の整備と管理	①持続的な植栽の在り方に関する検討 ②街路樹の適正な維持管理
	(2) ウオーカブルな空間整備	①河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理 ②歩道のネットワーク化と管理 ③休息や健康づくりの場の整備
1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	(1) 公共施設のみどりの整備・管理	①公共施設の緑化と管理 ②維持管理性と美観を保つ公共施設植栽管理指針の策定
	(2) 民有地のみどりの整備促進	①緑化支援制度の運用 ②まちづくり制度を活用したみどりの確保

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

施策の柱	基本施策	個別施策
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(1) みどりの担い手の育成	①プレーパークの推進 ②みどりの講習会等の実施 ③環境学習の実施 ④教育分野における農業体験の促進 ⑤食育の推進
	(2) 担い手の連携の拡充	①担い手のマッチング ②ボランティア活動団体の交流の促進 ③民間企業等の参画の促進 ④農の担い手の育成
2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	(1) 公園等の管理を通じたまちづくり	①公園センター制度の推進 ②市民や活動団体による朝霞の森の管理運営 ③みどりのリサイクルの推進
	(2) 多様なニーズに対応するみどりの確保	①市民農園の推進 ②市民緑地制度等の活用 ③公園ごとの利用ルールづくり
2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	(1) みどりのモニタリングの実施	①グリーンインフラの実態調査の実施 ②市民協働の生き物調査による生物データベースの整備 ③みどりの市民アンケート調査の実施
	(2) みどりの普及啓発の推進	①グリーンインフラの多面的効用の評価と公表 ②グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導 ③地域社会に貢献するみどりづくりの促進
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	①補助金等の活用 ②みどりのまちづくり基金等の運用
	(2) みどり・公園分野におけるDXの推進	①公園におけるDXの推進 ②WEBを活用したグリーンインフラの普及啓発

3 みどりのある暮らしを楽しむ

施策の柱	基本施策	個別施策
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催	①みどり空間を活用したイベントの開催 ②里山環境の活用 ③農を通じた交流の場づくり
	(2) 情報発信の強化と充実	①みどりの情報発信 ②市民イベント情報の集約と発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	①家庭での緑化や菜園づくり ②農産物直売施設等の利用 ③地産地消の実践 ④みどりを生かした健康づくり ⑤みどりのイベントへの参加
	(2) みどりのボランティア活動への参加	①みどりのボランティア活動への参加 ②みどりのリサイクルへの参加 ③みどりに係る講習会への参加
	(3) みどりの交流の拡大	①民間のみどりの公開 ②SNSを活用したみどりの交流

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上															
個別施策	① 特別緑地保全地区の指定		実施状況	継続														
方向性	市内に残されている良好な樹林地等のうち、特に保全が必要な区域について、都市緑地法に基づく特別緑地保全地区の指定を推進し、緑地の担保性の向上と永続的な保全を図ります。																	
内 容	<p>○都市緑地法に基づく制度であり、良好な自然的環境を形成している緑地を都市計画に定め、建築行為や開発行為を許可制により規制するものです。</p> <p>○樹林地等の緑地を保全する規制力が非常に強い手法であり、原則として現状を維持しながら保全を図ります。</p> <p>○現在保全策が講じられていない良好な樹林地のうち、地権者の同意が得られる箇所について順次指定を検討します。特に、宮戸、郷戸、新屋敷の既指定区域と一体となる未指定の樹林地等について、重点的に指定を進めます。</p>																	
対応指針	1-1) 健全な水循環 1-2) 気温上昇緩和 1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景																	
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課															
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上															
個別施策	② 保護地区・保護樹木制度の運用		実施状況	継続														
方向性	朝霞市緑化推進条例に基づく保護地区・保護樹木制度を適切に運用し、市内の貴重な樹木や樹林地の保全を図ることで、地域のみどりの景観形成と生態系の維持に貢献します。																	
内 容	<p>○朝霞市緑化推進条例に基づき、市内の樹木や樹林地のうち、特に保護すべきものを保護樹木や保護地区として指定し、その保全を図る制度です。</p> <p>○指定を受けた樹木等の所有者に対し、維持管理費用の一部を助成するため、固定資産税額や指定期間に応じた奨励金を年に1回交付しています。これにより、所有者の負担軽減を図りながら、良好なみどりの資産を将来へと受け継ぎます。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 【指定基準】 《保護地区》 - 樹木が集団で生育している土地で、その面積が 300 m²以上であるもの - 樹木のある神社または寺院の境内 - その他市長が特に必要と認めたもの 《保護樹木》 - 高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの - 樹形が特に優れているもの - その他市長が特に必要と認めたもの </td> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 【交付金額】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">樹木1本当たり 1,800円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 2,400円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 3,000円</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	【指定基準】 《保護地区》 - 樹木が集団で生育している土地で、その面積が 300 m ² 以上であるもの - 樹木のある神社または寺院の境内 - その他市長が特に必要と認めたもの 《保護樹木》 - 高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの - 樹形が特に優れているもの - その他市長が特に必要と認めたもの	【交付金額】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">樹木1本当たり 1,800円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 2,400円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 3,000円</td> </tr> </table>	3年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額	3年を超え6年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額	6年を超えるもの	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額	3年まで	樹木1本当たり 1,800円	3年を超え6年まで	樹木1本当たり 2,400円	6年を超えるもの	樹木1本当たり 3,000円			
【指定基準】 《保護地区》 - 樹木が集団で生育している土地で、その面積が 300 m ² 以上であるもの - 樹木のある神社または寺院の境内 - その他市長が特に必要と認めたもの 《保護樹木》 - 高さが10m以上で、地上1.2mの高さにおける幹の周囲がおおむね1m以上であるもの - 樹形が特に優れているもの - その他市長が特に必要と認めたもの	【交付金額】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">3年まで</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">樹木1本当たり 1,800円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3年を超え6年まで</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 2,400円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">6年を超えるもの</td> <td style="padding: 5px;">樹木1本当たり 3,000円</td> </tr> </table>	3年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額	3年を超え6年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額	6年を超えるもの	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額	3年まで	樹木1本当たり 1,800円	3年を超え6年まで	樹木1本当たり 2,400円	6年を超えるもの	樹木1本当たり 3,000円					
3年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の30%以内の額																	
3年を超え6年まで	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の40%以内の額																	
6年を超えるもの	指定保護地区に係るこの年度の固定資産税相当額の50%以内の額																	
3年まで	樹木1本当たり 1,800円																	
3年を超え6年まで	樹木1本当たり 2,400円																	
6年を超えるもの	樹木1本当たり 3,000円																	
対応指針	1-1) 健全な水循環 1-2) 気温上昇緩和 1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景																	
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課															

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上			
個別施策	③ 指定文化財制度の運用		実施状況	継続		
方向性	文化財保護法等に基づく指定文化財制度を適切に運用し、自然要素を有する史跡や天然記念物等の文化財を保護・活用することで、歴史的・文化的価値のある緑地の保全を推進します。					
内 容	<p>○国指定重要文化財旧高橋家住宅、県指定史跡松塚古墳、広沢の池や二本松などの市指定史跡、代官水、根岸台のナツグミ(石原家)やユズ(高橋家)などの市指定天然記念物といった、自然要素を多く含む文化財の保護と活用に努めます。</p> <p>○剪定、除草、清掃などのきめ細かな維持管理を継続し、地域の歴史遺産と周囲の自然環境が調和した、朝霞市らしい歴史的風致を形成する景観を維持します。</p>					
対応指針		1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景
関係者	行政、地権者	担当課	文化財課			
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上			
個別施策	④ 公有地化による樹林地等の確保		実施状況	継続		
方向性	市内に残されている特に保全が必要な樹林地等について、公有地化を推進することで、緑地の永続的な保全を図ります。					
内 容	○市民や専門家の意見に基づき緑地の価値を適切に判断した上で、市が直接取得し管理を行います。市が所有・管理を行うことで、開発行為等による緑地の消失を未然に防ぎ、豊かな自然環境を将来へ確実に継承していくことを目的とします。					
対応指針		1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課			
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上			
個別施策	⑤ 景観重要樹木の指定		実施状況	継続		
方向性	景観法に基づく景観重要樹木の指定を推進し、地域のシンボルや景観上重要な樹木を保全することで、朝霞らしい美しい都市景観の形成を推進します。					
内 容	<p>○景観法に基づき、地域の良好な景観形成に特に重要な役割を果たす樹木を景観重要樹木として指定し、その保全を図る制度です。</p> <p>○指定の提案があった樹木に対し、地域の自然や歴史、文化からみて景観上の特徴があることや、道路などの公共の場所から誰もが容易に眺めることができるといった基準をもとに、朝霞市景観審議会の審議を経て指定を行います。</p> <p>○指定により、安い損失を防ぎ持続的な保全を図るとともに、各種の補助や優遇措置、専門家による適正な助言を受けることが可能となり、適切な維持管理を支援します。</p>					
対応指針		1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	
関係者	行政、地権者	担当課	まちづくり推進課			

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(2) 良好な里山環境の維持・再生				
個別施策	① 里山保全活動の推進		実施状況	継続			
方向性	特別緑地保全地区などの里山環境において、ボランティア団体等との協働により、枯損木の処理、間伐、除草、清掃活動などを継続的に実施し、良好な里山環境の維持と再生を推進します。						
内 容	○里山は多様な生物が生息する豊かな生態系を有しており、重要な役割を担っています。この取組は、市民ボランティアの協力を得て、里山の健全な状態を保つための保全活動を行うものです。これにより、生物多様性の保全や景観の維持、さらには市民の環境意識の向上を図ります。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-6) 農業活動	2 支える指針
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課				
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(2) 良好な里山環境の維持・再生				
個別施策	② 里山管理ガイドラインの策定		実施状況	新規取組検討			
方向性	里山管理ガイドラインを策定し、適切な管理手法を明確にすることで、市民ボランティアや関係者が一貫性のある効果的な保全活動を行えるよう支援し、里山環境の質を向上させます。						
内 容	○里山の生態系を健全に保ち、その多面的な機能を最大限に引き出すためには、科学的根拠に基づいた管理が必要です。 ○本ガイドラインでは、間伐の時期や方法、外来種対策、生物多様性への配慮など、具体的な管理手法を提示します。これにより、管理活動の効率化と里山の質の向上を図り、将来にわたって持続可能な里山保全の実現を目指します。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-10) 避難地	2 支える指針
関係者	行政	担当課	みどり公園課				
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全				
個別施策	① 生産緑地・特定生産緑地制度の運用		実施状況	継続			
方向性	都市農業振興基本法によりるべき土地と位置づけられた都市農地を守るために、生産緑地制度や特定生産緑地制度を適切に運用します。農地の保全により、食料供給や防災、景観形成といった多面的な機能の維持を推進します。						
内 容	○生産緑地制度は市街化区域内の農地を計画的に保全し農業の継続を目指す制度で、指定により税遇を受けられる一方、管理義務が生じます。 ○特定生産緑地制度は指定から30年経過後も10年ごとに期限を延長し税優遇を継続する仕組みであり、未指定の場合は税負担が増え農業継続が困難になる可能性があります。 ○本市では条例により指定面積の要件を500m ² 以上から300m ² 以上に引き下げており、より多くの農地を生産緑地に指定できるようにしています。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-6) 農業活動	
関係者	行政、地権者	担当課	みどり公園課				

施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全				
個別施策	② 遊休農地の活用促進		実施状況	継続			
方向性	遊休農地の発生防止および解消に向けた取組を推進し、適切な農地利用を促すことで、農地の保全を図ります。						
内 容	<p>○農業委員会による農地パトロールを継続的に実施し、遊休農地の発生や違反転用を未然に防ぎます。</p> <p>○所有者の高齢化や後継者不足といった課題に対し、農地の貸借を促進することで、意欲ある担い手への農地集積や新規就農者の参入を支援し、耕作放棄地の解消を目指します。</p> <p>○農地が持つ郷土景観の形成や雨水の浸透、遊水機能といった多面的な機能を重視し、地域の貴重なみどりとして、将来にわたり適正な保全と活用に努めます。</p>						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-6) 農業活動	3 楽しむ指針
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課・農業委員会				
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全				
個別施策	③ 景観作物の栽培		実施状況	継続			
方向性	肥沃な耕土の流出や飛散を防ぐため、休耕期における緑肥や景観形成作物の作付を促進します。						
内 容	<p>○市内の農家を対象に緑肥や景観作物の種子を配布し、農地の保全や遊休農地の有効活用を後押しします。</p> <p>○休耕期の裸地化を抑えることで、土壤の流出や風による砂塵の飛散を防止し、周辺の良好な生活環境の維持と豊かな農地景観の形成を並行して進めます。</p>						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-6) 農業活動	3 楽しむ指針
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課				
施策の柱	1-1 樹林地と農地の保全	基本施策	(3) 都市農地の保全				
個別施策	④ 災害時の都市農地の活用		実施状況	継続			
方向性	都市農地が持つ災害時の防災機能を活用することで、地域の防災力の向上を図り、市民の安全・安心な暮らしを支えます。						
内 容	<p>○都市農地は、災害時の一時的な避難場所や物資の集積場所、延焼防止帯として重要な役割を担うほか、雨水浸透機能により都市型水害の抑制にも有効です。これらの多面的な機能を市民に周知し、災害時における具体的な活用方法を啓発することで、農地の重要性への理解を深め保全を促進します。</p> <p>○あわせて、避難空間等として農地を提供する「防災協力農地」の登録普及に努め、生産緑地の指定時などに協定締結を促すことで、地域全体の防災体制をより強固なものにします。</p>						
対応指針	1-6) 農業活動		1-10) 避難地				
関係者	行政、地権者	担当課	危機管理室・産業振興課				

4 みどりの取組（施策の個表）

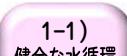
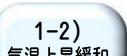
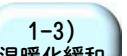
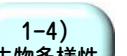
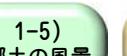
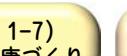
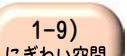
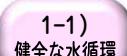
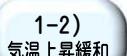
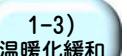
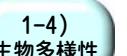
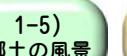
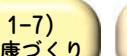
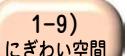
施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(1) 湧水の保全		
個別施策	① 湧水地及び周辺環境の保全	実施状況	継続		
方向性	広沢の池や代官水などの湧水地を適切に管理するとともに、周辺の森林や農地の保全、透水性舗装や浸透樹の設置推進等を通じて、湧水源の涵養を促し、湧水環境の保全を図ります。				
内 容	<p>○かつて灌漑用水に利用された広沢の池や、江戸時代から地域で活用されてきた代官水、豊富な水量を誇る岡特別緑地保全地区内の湧水地をはじめ、市内には 20 か所以上の湧水地が確認されています。</p> <p>○これらは地域の貴重な自然資源であり、生態系の維持や景観形成に重要な役割を果たすため、普及啓発や土地所有者の理解を通じて保全に努めます。</p> <p>○また、湧水の源となる周辺の森林や農地の保全に加え、雨水の地下浸透を促す浸透樹や透水性舗装の設置を広域的に進めることで、湧水の水量と水質の維持を目指します。</p>				
対応指針		1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景
関係者	行政、地権者、市民	担当課	みどり公園課・文化財課・環境推進課		
施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(1) 湧水の保全		
個別施策	② 雨水貯留浸透の推進	実施状況	継続		
方向性	雨水貯留浸透施設等の設置指導や補助金制度の活用を通じて、雨水の地下浸透・貯留を推進します。これにより湧水源の涵養や都市型洪水の抑制を促し、健全な水循環の維持と再生を図ります。				
内 容	<p>○都市化に伴う浸透面積の減少や気候変動による集中豪雨の増加に対し、河川や下水道への負担軽減と水害の防止を図るため、各施設への雨水流出抑制施設の設置が重要となっています。本市では「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」に基づき、500 m²以上の開発事業における雨水流出抑制施設の設置を推進しています。また、500m²未満については、浸透ますの設置をお願いしています。</p> <p>○朝霞市創エネ・省エネ設備設置費補助制度は、温室効果ガスの排出抑制や雨水の有効活用、河川への流出抑制を目的として、環境に配慮した創エネ・省エネ設備機器を設置した方に対し、予算の範囲内で設置費の一部を補助するものです。</p> <p>○水循環シミュレーションの結果を踏まえ、土地条件における雨水貯留浸透能力の適正配置の方針を検討し、健全な水循環を誘導するための雨水貯留浸透施設等の設置基準、緑化基準を改定し運用します。</p> <p>○公共施設の整備・再整備では、地域の健全な水循環を保全・再生させるため、雨水浸透や雨水の一時貯留等の取組を推進します。</p>				
対応指針		1-1) 健全な水循環	2 支える指針		
関係者	行政、開発事業者、市民	担当課	環境推進課・下水道施設課・開発建築課		

施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全				
個別施策	①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全	実施状況	継続				
方向性	荒川クリーンエイド等の活動を通じて、荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全を推進し、良好な水辺空間の維持を図ります。						
内 容	○荒川は重要な水辺空間であり、広域的な生態系ネットワークの核を担っています。市民、行政、関係機関が連携した荒川クリーンエイド等を通じ、河川の美化と水質保全に努めます。豊かな自然環境と水辺のみどりを保護し、市民が親しめる安全で良好な空間を維持して次世代へ継承することを目指します。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民	担当課	環境推進課				

施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全				
個別施策	② 黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全	実施状況	継続				
方向性	黒目川、新河岸川、越戸川の環境保全活動を継続し、生態系に配慮した河川整備、外来種対策、市民参加による清掃活動などを通じて、水辺の環境と景観を向上させます。						
内 容	○黒目川、新河岸川、越戸川は、散策や健康増進の場として市民に広く親しまれており、水とみどりのネットワーク形成における重要な要素です。これらの河川において、生態系に配慮した管理や、県・関係機関と連携した野生動植物の保護、外来種対策、環境学習を推進します。 ○朝霞市景観計画に基づき、河川の自然環境や周辺の斜面林、農地、桜並木が調和した景観の保全に努めます。 ○市民参加による清掃活動を通じて河川の美化と憩いの空間づくりを図り、活動を通じた地域の連帯感を育みます。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民	担当課	道路整備課・地域づくり支援課・環境推進課・まちづくり推進課				

施策の柱	1-2 水辺の保全	基本施策	(2) 河川の保全				
個別施策	③ 朝霞調節池内の湿地環境の保全	実施状況	継続				
方向性	朝霞調節池内の湿地環境において、国や市民団体と協力し、希少な湿地植物であるトダスゲなどの保護活動を支援することで、多様な動植物の生息環境の保全を図ります。						
内 容	○朝霞調節池は、多くの生物が生息する貴重な湿地環境を有しています。特に絶滅危惧種であるトダスゲの保全活動は、地域の生物多様性を維持する上で極めて重要です。市民団体との協働により湿地の生態系を保護するとともに、将来的には自然観察会などの開催を通じて、市民が湿地の重要性を学び、豊かな自然に親しむ場としての活用を目指します。						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課				

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進	
個別施策	① 身近な公園の適正配置		実施状況	継続
方向性	身近な公園が不足する地域の解消を目指し、住区基幹公園の整備を推進します。また、老朽化した公園のリニューアルや再編を継続的に検討し、地域住民のニーズや利用状況に応じた機能強化を図ることで、公園の魅力を高め、利用の活性化を図ります。			
内 容	<p>○市民が日常的に利用する身近な公園は、健康増進やコミュニティ形成において重要な役割を担っています。特に公園が不足している地域では、既存の土地を有効に活用し、効率的な公園整備を推進します。</p> <p>○小規模な公園に特色を持たせ、利用者の目的に合わせて公園を選べる環境を整えるため、小学校区を単位として地域住民の意見を反映させながら、遊具や広場、生物多様性に配慮したみどり豊かな空間など、個々の公園が担う機能を具体化し、特色づくりを進めます。</p> <p>○マンション開発等に伴い設置・提供される公園や児童遊園地についても、地域住民がより利用しやすいものとなるよう検討します。</p> <p>○老朽化した公園については、現在の利用ニーズに対応させるため、公園全体の機能を見直し、計画的な再整備を検討します。あわせて、近隣の複数の公園を一つの群として捉え、一体的な機能の再配置を行うことで、限られた空間資源を最大限に活用し、多様なニーズに応えられる公園へと再編を検討します。</p>			
対応指針	 1-1) 健全な水循環  1-2) 気温上昇緩和  1-3) 温暖化緩和  1-4) 生物多様性  1-5) 郷土の風景  1-7) 健康づくり  1-8) 身近な遊び場  1-9) にぎわい空間  1-10) 避難地  2 支える指針  3 楽しむ指針			
関係者	行政、地権者、開発事業者	担当課	みどり公園課	
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進	
個別施策	② 基地跡地公園の整備推進		実施状況	継続
方向性	基地跡地における公園整備を推進することで、大規模な緑地空間を創出し、市民のレクリエーション・交流拠点として、また都市の防災拠点としての機能を強化します。			
内 容	<p>○平成 24(2012)年に開設した基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」は、使いながらつくる、つくりながら考える広場として、市民参加により利用ルールを構築し、市民中心の管理運営に継続して取り組みます。</p> <p>○また、平成 27(2015)年 12 月に改定された朝霞市基地跡地利用計画に基づき、将来の朝霞のための憩いと交流の拠点の形成を目指し、基地跡地に残された緑地について、隣接する既存公園と連携したみどりの拠点ゾーンとしての整備を推進します。</p> <p>○あわせて、同計画を基本に据えながら、基地跡地公園の実現に向けた様々な事業手法の検討を行います。</p>			
対応指針	 1-1) 健全な水循環  1-2) 気温上昇緩和  1-3) 温暖化緩和  1-4) 生物多様性  1-5) 郷土の風景  1-7) 健康づくり  1-8) 身近な遊び場  1-9) にぎわい空間  1-10) 避難地  2 支える指針  3 楽しむ指針			
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課・政策企画課	

施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(1) 公園の整備推進	
個別施策	③ 内間木公園の整備推進		実施状況	継続
方向性	内間木公園の整備を推進することで、地域の特性を活かした公園づくりを行い、市民の憩いの場、レクリエーションの場としての魅力を高めます。			
内容	<p>○内間木地域は公園が少なく、遊具や広場など安全に遊べる空間が不足しています。市民意見を反映し、遊具・広場を整備し植栽の充実を図り、多世代が親しめる公園づくりを進めます。</p> <p>○公園の再整備にあたっては、Park-PFI の導入など、民間の資金やノウハウを活用した効果的な整備手法の検討を行います。</p>			
対応指針				
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(2) 公園機能の充実	
個別施策	① 防災機能の充実		実施状況	継続
方向性	朝霞市地域防災計画に基づき、公園への防災施設の設置を検討し、災害時に避難場所や物資集積拠点として機能する公園づくりを進めることで、都市の防災力を強化します。			
内容	○朝霞市地域防災計画に基づき、公園の防災機能を強化します。避難場所としての位置や規模を考慮し、防災倉庫やかまどベンチ、非常用トイレ等の設置を推進します。また、公園の新設時も地域特性に応じた機能を確保し、災害時の避難や活動拠点としての役割を強化します。			
対応指針				
関係者	行政	担当課	みどり公園課・危機管理室	
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(2) 公園機能の充実	
個別施策	② バリアフリー・インクルーシブデザインの推進		実施状況	継続
方向性	バリアフリーやインクルーシブデザインの考え方を積極的に取り入れ、誰もが安全で快適に利用できる公園環境の整備を図ります。			
内容	<p>○年齢、性別、障害の有無を問わず、誰もが公園を自由に利用できる環境を整備します。段差の解消や手すりの設置、多機能トイレの導入、インクルーシブ遊具の設置等を通じて、公園のアクセシビリティと利便性を高め、多様な方々に開かれた交流の場となることを目指します。</p> <p>○また、公園の整備や再整備の際には、設計段階から地域住民をはじめ、こどもから高齢者、障害のある方など様々な立場の方々の意見やアイデアを取り入れ、誰もが利用しやすく遊びやすい公園づくりを推進します。</p>			
対応指針				
関係者	行政	担当課	みどり公園課	

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(3) 公園の維持管理の充実	
個別施策	① 施設の維持管理の充実		実施状況	継続
方向性	公園施設の安全点検を徹底し、公園施設長寿命化計画に基づき計画的な修繕・更新を行うことで、施設の安全性を確保し、長期的な利用を可能にします。			
内 容	<p>○公園の遊具や施設は経年劣化で安全性が低下する恐れがあるため、定期点検と計画的な修繕・更新により事故を未然に防ぎ、市民が安心して利用できる環境を維持します。適切な修繕を通じて施設の長寿命化を図ることで、将来的な維持管理コストの最適化を推進します。</p> <p>○市民の多様なニーズへの円滑な対応とサービス向上のため、都市公園の一部に指定管理者制度を導入しています。今後も制度の適切な運用により、サービス向上に努めます。</p>			
対応指針		1-7) 健康づくり 1-8) 身近な遊び場 1-9) にぎわい空間 1-10) 避難地 2 支える指針		
関係者	行政	担当課	みどり公園課	
施策の柱	1-3 公園の整備と管理	基本施策	(3) 公園の維持管理の充実	
個別施策	② 維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定		実施状況	新規取組検討
方向性	公園などにおける植栽管理指針を策定し、維持管理の効率化と美観の維持を両立させることで、質の高い緑地空間を創出し、長期的な健全性を確保します。			
内 容	<p>○植栽は公園など公共施設の景観を形成する重要な要素ですが、適切な管理が行われなければその魅力は損なわれてしまいます。</p> <p>○維持管理性と美観を両立させるため、樹種の選定や剪定方法、病害虫対策、水やりなどの具体的な基準を定めた植栽管理指針を策定します。これにより、管理作業の標準化を図り、コストを抑えつつ、年間を通じて美しい緑地空間を維持することを目指します。</p>			
対応指針		1-1) 健全な水循環 1-2) 気温上昇緩和 1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景 2 支える指針		
関係者	行政	担当課	みどり公園課	
施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(1) 街路樹・並木の整備と管理	
個別施策	① 持続的な植栽の在り方に関する検討		実施状況	継続
方向性	シンボルロードの緑地管理計画の検討を含め、持続的な植栽のあり方について検討することで、街路樹や並木の健全な育成と、長期的な維持管理の効率化を図ります。			
内 容	<p>○令和2(2020)年にオープンしたシンボルロードは、みどり豊かな憩いの場として親しまれる一方、樹木の老木化や過密化への対応が課題となっています。これまで専門家や市民参加によるワークショップ、樹木医を交えた勉強会を通じ、「次世代につなげる新しい里山(朝霞スタイル)」という理念のもと、管理の方向性を検討してきました。</p> <p>○今後はこの理念を具現化するため、目指す姿(ビジョン)やゾーンごとの目標植生、具体的な作業計画や役割分担、さらに見直しの体制までを網羅した緑地管理計画を策定し、持続可能な管理の指針とします。</p>			
対応指針		1-2) 気温上昇緩和 1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景 2 支える指針		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	

施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(1) 街路樹・並木の整備と管理	
個別施策	② 街路樹の適正な維持管理	実施状況	継続	
方向性	街路樹管理計画の策定検討を含め、街路樹の適正な維持管理を継続することで、安全で美しい街路景観を保ち、都市の緑化を推進します。			
内 容	<p>○街路樹は、良好な都市環境の形成に大きく貢献する一方で、適切な管理がなければ、通行の妨げや倒木の危険性、落葉による苦情などが発生する可能性があります。</p> <p>○計画的な剪定や病害虫対策により、樹木の健全な育成と安全で快適な道路空間の確保に努めます。</p> <p>○街路樹の適正な整備と維持管理を行うため、街路樹の配置や老朽度の調査を実施するとともに、街路樹管理に関する計画の策定について検討します。</p> <p>○また、事業中の都市計画道路における緑化や、地域住民との協働による植樹帯の維持管理を推進するとともに、国道や県道の管理者へも植栽整備を働きかけ、地域全体で美しい街路景観づくりを推進します。</p>			
対応指針	 			
関係者	行政	担当課	道路整備課	
施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウオーカブルな空間形成	
個別施策	① 河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理	実施状況	継続	
方向性	黒目川・新河岸川沿いを中心に、散策路や親水広場の整備・管理を継続することで、市民が水辺に親しみ、憩い、健康増進を図れるウォーカブルな空間を創出します。			
内 容	<p>○朝霞市景観計画に基づき、黒目川や新河岸川の自然環境、周辺の斜面林、農地、桜並木が一体となった豊かな景観を保全します。</p> <p>○これらの水辺空間において、ベンチや休憩スペースを適正に配置することで、ウォーキングやジョギング、自然観察といった多様な活動を促進し、市民が日常の中で健康的なライフスタイルを楽しめる、ウォーカブルなまちづくりを推進します。</p>			
対応指針	 			
関係者	行政、企業	担当課	まちづくり推進課・みどり公園課・道路整備課	

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウオーカブルな空間形成
個別施策	② 歩道のネットワーク化と管理	実施状況	継続
方向性	歩道のネットワーク化と適切な管理を継続することで、市民が安全かつ快適に移動できる歩行空間を確保し、都市の回遊性を高めます。		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○歩道は日常生活を支える重要施設です。段差解消や舗装改善、幅員確保、街路樹との調和により、高齢者や障害者など誰もが安心して利用できる歩行空間を整備します。 ○歩行環境のネットワーク化を継続的に推進することで、公共交通機関へのアクセス向上やまちなか散策の活性化を図り、安全で快適に移動できる都市の回遊性の向上に貢献します。 		
対応指針		1-2) 気温上昇緩和 1-7) 健康づくり 2 支える指針 3 楽しむ指針	
関係者	行政	担当課	道路整備課

施策の柱	1-4 道路・河川のみどりの育成	基本施策	(2) ウオーカブルな空間形成
個別施策	③ 休息や健康づくりの場の整備	実施状況	継続
方向性	まちなかベンチ、ポケットパーク、健康遊具の設置等を通じ、市民が気軽に休息したり、健康づくりに取り組んだりできる場を整備することで、都市の快適性と市民の健康増進を図ります。		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ウオーカブル推進都市として、駅前や商業施設周辺、公園の入口等にベンチやポケットパークを整備し、誰もが日常的に休息できる快適な都市空間を創出します。 ○あわせて、市内の散策路や散歩コースとの連携を考慮し、公園等へ健康遊具を計画的に配置することで、高齢者をはじめとした市民が気軽に運動に取り組める機会を提供します。 ○これらの整備にあたっては、市民や事業者からの寄附活用なども含めた多様な手法を検討し、官民が連携して市民の健康増進を支える環境づくりを推進します。 		
対応指針		1-7) 健康づくり 2 支える指針 3 楽しむ指針	
関係者	行政	担当課	まちづくり推進課・みどり公園課・道路整備課

施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策	(1) 公共施設のみどりの整備・管理
個別施策	① 公共施設の緑化と管理	実施状況	継続
方向性	市役所、保育園、公民館、学校など、様々な公共施設の緑化を推進し、その適切な管理を行うことで、良好な景観形成や夏の暑さ対策などを進めます。		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設の敷地内や壁面、屋上など、多様な場所での緑化を推進し、ヒートアイランド現象の緩和や省エネルギー効果、景観の向上を図ります。緑化された空間は、市民の憩いの場や環境教育の場としても活用し、適切な維持管理によりみどりの健全な成長を促します。 ○花とみどりにあふれたうるおいあるまちづくりに向けて、駅前広場や道路、公共施設等への花壇整備を進めるとともに、町内会やボランティア団体等と協力したプランターの維持管理や道路清掃などの市民協働の活動を推進し、地域全体で魅力的な景観の維持に努めます。 		
対応指針	1-1) 健全な水循環 1-2) 気温上昇緩和 1-3) 温暖化緩和 1-4) 生物多様性 1-5) 郷土の風景 2 支える指針 3 楽しむ指針		
関係者	行政、市民	担当課	各公共施設所管課

施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策 (1) 公共施設のみどりの整備・管理					
個別施策	② 維持管理性と美観を保つ公共施設植栽管理指針の策定	実施状況	新規取組検討				
方向性	公共施設における植栽管理指針を定め、維持管理の効率化と美観の維持を両立させることで、質の高い緑地空間を創出し、長期的な健全性を確保します。						
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設の植栽は、地域の景観づくりを先導する重要な役割を担っています。 ○公園の植栽管理指針を策定する際、他の公共施設と共に通化し、公共空間全体で質の高い緑地空間を創出します。また、維持管理を効率化し、長期的な健全性を確保します。 						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政	担当課	みどり公園課				

施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策 (2) 民有地のみどりの整備促進					
個別施策	① 緑化支援制度の運用	実施状況	継続				
方向性	生け垣等設置奨励補助金などの緑化支援制度を適切に運用することで、民有地における緑化を促進し、都市全体の緑被率向上と良好な住環境の形成を図ります。						
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○生け垣は、通風改善、美観向上、防火、耐震性といった多面的な効果を持つ緑化手法です。 ○生け垣等設置奨励補助金などの緑化支援制度を運用することで、民有地における緑化を促進し、都市全体の緑被率向上と良好な住環境の形成を図ります。 ○また、既存の生け垣整備に加え、ヒートアイランド現象の緩和効果が期待できる高木の植栽や、雨水貯留浸透機能を有する雨庭の設置など、みどりの持つ多様な機能を最大限に発揮させるための新たな支援策の検討を進め、より質の高い住環境の創出を図ります。 						
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民、企業	担当課	みどり公園課				

施策の柱	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	基本施策 (2) 民有地のみどりの整備促進						
個別施策	② まちづくり制度を活用したみどりの確保	実施状況	継続					
方向性	開発事業等における緑化指導において、まちづくり制度を積極的に活用することで、民間開発と連携した緑地の確保を促進し、計画的な都市緑化を推進します。							
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○みどり豊かな環境を創出するため、市独自の「あさか景観づくり協定」や地区計画制度などの活用を通じ、地域住民等による主体的な景観づくりのルール形成を促進します。あわせて、「朝霞市開発事業等に関する手続き及び基準に関する条例」に基づき、大規模開発やマンション建設時における緑化基準の遵守を指導します。 ○これにより、開発に伴う緑地の減少を抑制し、新たな緑地空間の創出を促すことで、民間開発と連携した計画的な都市緑化を推進し、都市全体の緑化水準の向上を図ります。 							
対応指針	1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-8) 身近な遊び場	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民、開発事業者	担当課	みどり公園課・まちづくり推進課・開発建築課					

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成	
個別施策	① プレーパークの推進		実施状況	継続
方向性	プレーパークの推進を通じて、子どもの居場所づくりを促進し、子どもたちが自然の中で自由に遊び、育つ機会を提供します。			
内 容	<p>○プレーパークは、子どもたちが自らの責任で自由に遊ぶことを尊重する場所であり、自然素材や廃材の活用を通じて創造性を育む遊びを奨励しています。</p> <p>○市は、運営団体への支援や活動場所の提供を行うことで、子どもたちの健全な成長をサポートするとともに、地域の子育て支援や自然体験の機会を創出します。</p> <p>○拠点となる「朝霞の森」へのアクセスが難しい地域にも遊び場を届けるため、移動式プレーパーク「プレーパーク・キャラバン」を実施し、市内全域で子どもの居場所づくりを促進します。</p>			
対応指針		1-8) 身近な遊び場	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政	担当課	みどり公園課・子ども未来課	
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成	
個別施策	② みどりの講習会等の実施		実施状況	継続
方向性	専門家招へいによる勉強会などを開催することで、市民の緑化に関する知識や技術の向上を図り、みどりの担い手を育成します。			
内 容	○専門家による講習会は、市民がみどりに関する知識や最新の情報を学ぶ貴重な機会になります。こうした学びの場を通じて、市民一人ひとりが緑化活動に高い関心を持ち、自ら積極的に取り組めるよう支援することで、地域全体のみどりの質の向上を促進します。			
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成	
個別施策	③ 環境学習の実施		実施状況	継続
方向性	学校による環境教育や子どもエコクラブの活動等、環境学習を支援することで、子どもたちが環境問題への理解を深め、環境保全活動への意識を高める機会を提供します。			
内 容	<p>○学校の授業を通じた地球温暖化や生物多様性、ごみ問題などの多様な環境テーマに関する学びを推進します。</p> <p>○また、環境講座の開催や環境美化ポスターの募集、子どもエコクラブの活動支援などを通じて、身近な環境教育・環境学習の機会を充実させます。こうした取組により、次世代を担う子どもたちが環境問題への理解を深め、日常生活の中で自主的な環境保全活動に取り組めるよう促進します。</p>			
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、市民	担当課	教育指導課・環境推進課・資源リサイクル課	

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	④ 教育分野における農業体験の促進	実施状況	継続
方向性	学校教育において農業体験を促進することで、こどもたちが食や農業への理解を深め、自然との触れ合いを通じて豊かな心を育む機会を提供します。		
内 容	<p>○学校の授業や課外活動に農業体験を取り入れることで、作物の生長を学び、食のありがたみや命の大切さを実感する機会を創出します。実際に土に触れ、自然の中で活動することは、こどもたちの五感を刺激し、豊かな感性や自然への畏敬の念を育むことにつながります。</p> <p>○こうした次世代の食育と環境教育を一体的に推進することで、こどもたちが身近な自然や食への理解を深め、心身ともに健やかに成長することを目指します。</p>		
対応指針	1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、農業従事者	担当課	教育指導課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(1) みどりの担い手の育成
個別施策	⑤ 食育の推進	実施状況	継続
方向性	食育を推進することで、市民が食に関する正しい知識と選択能力を身につけ、健全な食生活を実践できるよう支援します。あわせて、都市農業の重要性についても市民の理解を深めます。		
内 容	<p>○食育は、健康な心身を育む上で不可欠な取組です。本市では、学校給食における地場産食材の積極的な活用に加え、地元農産物を用いた料理教室や農業体験と連携したプログラムを通じ、食の循環や都市農業が果たす役割への理解を深めます。</p> <p>○こうした活動を通じて、市民が食への意識を高め、地域に根ざした健全な食生活を自発的に実践することを促進します。</p> <p>○また、地産地消を推進することで、農の恵みを感じられる豊かな食文化の継承と、市民の健康的な暮らしの実現を目指します。</p>		
対応指針	1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、農業従事者	担当課	健康づくり課・学校給食課・教育指導課
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充
個別施策	① 担い手のマッチング	実施状況	新規取組検討
方向性	管理できない緑地と保全活動を行う市民組織とのマッチングを行うことで、緑地管理の効率化と市民活動の活性化を図ります。		
内 容	<p>○緑地を所有しているものの管理に苦慮する個人や団体と、保全活動を希望するボランティア団体を繋ぐマッチングの仕組みを構築します。</p> <p>○市民が主体となって活動できる場を広げることで、みどりを通じたコミュニティの形成や市民活動の活性化を促進します。地域全体でみどりを守り育む体制を整えることで、管理の効率化を図るとともに、持続可能な緑地管理と良好な景観の維持を目指します。</p>		
対応指針	2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充	
個別施策	② ボランティア活動団体の交流の促進	実施状況	継続	
方向性	生物多様性市民懇談会の開催や緑地保全に関する勉強会の開催などを通じ、ボランティア団体間の交流を促進し、連携強化を図ることで、活動の質の向上と持続性を高めます。			
内 容	<p>○市内で活動する様々な緑化・環境保全団体が、互いの活動内容や課題を共有し連携を深める場を提供します。団体間の情報共有やネットワーク化を図ることで、共通の課題に対する効果的な解決策を共に検討できる体制を構築します。</p> <p>○こうした連携の強化により、各団体のスキルアップやモチベーションの維持を支援し、地域全体で質の高い保全活動が持続的に行われることを促進します。市民団体と行政が一体となった強固な推進体制を構築し、みどり豊かな地域社会の実現を目指します。</p>			
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充	
個別施策	③ 民間企業等の参画の促進	実施状況	新規取組検討	
方向性	公募設置管理制度(Park-PFI)などの導入により、民間事業者等の参画を促進し、多様な主体との協働によるみどりのまちづくりを推進します。			
内 容	<p>○民間資金等を活用した Park-PFI を導入し、収益施設を伴う魅力的な公園づくりを促進します。市の財政負担を軽減し、にぎわい創出と自立的な運営の両立を図ります。</p> <p>○企業の CSR 活動やネーミングライツ、カーボンオフセット等による参画を検討し、専門技術を持つ企業との連携による質の高い緑地管理や環境教育を推進します。行政と民間事業者がパートナーとして連携を深め、持続可能なみどりのまちづくりを目指します。</p>			
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、企業	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-1 みどりの担い手の育成と連携	基本施策	(2) 担い手の連携の拡充	
個別施策	④ 農の担い手の育成	実施状況	継続	
方向性	出荷組合や農業後継者組織の強化・充実を積極的に支援し、農業担い手の育成を図ります。			
内 容	<p>○都市化が進む中で持続可能な農業を推進するため、多様な担い手の育成・確保を進めます。市民に身近な庭先販売や販売拠点である直売所の販売力を高めるため、農産物直売団体への支援を行うとともに、出荷組合の活動を支えることで生産者の経営安定化を促進します。</p> <p>○また、将来の地域農業を担う朝霞市農業青年クラブ等の農業後継者組織を支援し、組織の強化を通じた次世代への確実な技術継承と安定した後継者の確保を目指します。こうした多角的な取組により、地域農業の振興を図ります。</p>			
対応指針		1-6) 農業活動	2 支える指針	
関係者	行政、農業従事者	担当課	産業振興課	

施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (1)公園等の管理を通じたまちづくり					
個別施策	① 公園サポーター制度の推進		実施状況	継続			
方向性	公園管理団体(公園サポーター)制度を推進し、清掃や花壇管理、見守り等の市民活動を促進することで、協働による管理体制を強化するとともに、公園への愛着を醸成します。						
内 容	<p>○公園サポーターは、地域住民が主体となって公園の維持管理に参加する制度です。清掃や花壇の手入れ、見守り活動などを通じて、公園の美化のみならず利用者の安全確保や地域コミュニティの活性化を促進します。</p> <p>○市は、活動に必要な資材の提供や情報共有、広報などを強化することで、市民の主体的な活動を支援します。地域に開かれた公園がコミュニティの拠点としてより一層活用され、市民一人ひとりの公園への愛着が深まるすることを目指します。</p>						
対応指針		1-8) 身近な遊び場	2 支える指針	3 楽しむ指針			
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課・道路整備課				
施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (1)公園等の管理を通じたまちづくり					
個別施策	② 市民や活動団体による朝霞の森の管理運営		実施状況	継続			
方向性	基地跡地の暫定利用区域である朝霞の森において、市民と行政の協働による管理運営を継続することで、市民のニーズに応じた緑地空間の活用と、地域コミュニティの活性化を図ります。						
内 容	<p>○平成24年開設の基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」は、「使いながらつくる、つくりながら考える」という理念のもと、市民参加によって利用ルールの策定や管理運営に取り組んできました。市民が自由に活動できるこの広場において、市民団体との協働によるイベントの企画・実施や施設の維持管理、植栽活動などを継続し、地域コミュニティの活性化を促進します。</p> <p>○今後も市民の多様なニーズに応える柔軟な運営を継続することで、朝霞の森が多くの方に愛され、主体的に育まれる緑地空間となることを目指します。</p>						
対応指針		1-8) 身近な遊び場	1-9) にぎわい空間	2 支える指針			
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課				
施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (1)公園等の管理を通じたまちづくり					
個別施策	③ みどりのリサイクルの推進		実施状況	新規取組検討			
方向性	落葉利用や剪定枝等のリサイクルを検討・推進することで、緑地管理から発生する資源の有効活用を図り、循環型社会の形成に貢献するとともに、環境負荷の低減を目指します。						
内 容	<p>○朝霞和光資源循環組合の新焼却施設建設に合わせ、両市で異なるみどりのリサイクルルールの統一を検討します。また、公園や街路樹の落葉・剪定枝を堆肥や薪、マルチング材として利活用し、廃棄物から資源へ再循環させる仕組みの構築を検討します。</p> <p>○こうした緑地管理から発生する資源の有効活用を通じて、廃棄物の削減と環境負荷の低減を図り、持続可能な循環型社会の形成を目指します。</p>						
対応指針		1-1) 健全な水循環	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政	担当課	みどり公園課				

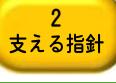
4 みどりの取組（施策の個表）

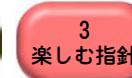
施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (2) 多様なニーズに対応するみどりの確保						
個別施策	① 市民農園の推進		実施状況	継続				
方向性	市民農園の整備と利用を推進することで、市民が気軽に農業体験できる場を提供し、食育の推進、健康増進、地域コミュニティの活性化を図ります。							
内 容	<p>○市民農園は、市民が手軽に野菜や花を栽培できる場であることから、市民農園の整備と利用を推進し、日常生活の中で土に触れる貴重な機会を提供します。</p> <p>○農園での作業や収穫を通じた交流により、地域住民同士のつながりを深め、多世代が交流するコミュニティの形成を促進します。こうした農業体験を通じて、食育の推進や心身の健康増進を図るとともに、農のみどりを感じられる豊かな暮らしの実現を目指します。</p>							
対応指針		1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針				
関係者	行政、地権者、市民	担当課	産業振興課					
施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (2) 多様なニーズに対応するみどりの確保						
個別施策	② 市民緑地制度等の活用		実施状況	新規取組検討				
方向性	都市緑地法に基づく市民緑地制度等を活用し、民間所有の緑地を市民が利用できる緑地として確保することで、身近なみどりの空間を増やし、地域コミュニティの活性化を図ります。							
内 容	<p>○市民緑地認定制度は、土地所有者と市が協定を結び、民間所有の緑地を市民に公開・提供する仕組みです。これにより、開発が進む都市部においても既存の緑地を保全しつつ、地域住民の憩いの場や交流の場としての活用を促進します。</p> <p>○あわせて、本市において実績のない自然共生サイト制度、市民緑地契約制度や管理協定制度など、多様な制度の活用に向けた検討を進めます。官民が連携して戦略的にみどりの空間を確保することで、地域コミュニティの活性化と良好な都市環境の形成を目指します。</p>							
対応指針		1-1) 健全な水循環	1-2) 気温上昇緩和	1-3) 温暖化緩和	1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-8) 身近な遊び場	2 支える指針
関係者	行政、地権者、市民	担当課	みどり公園課					
施策の柱	2-2 みどりをしなやかに使う仕組みづくり	基本施策 (2) 多様なニーズに対応するみどりの確保						
個別施策	③ 公園ごとの利用ルールづくり		実施状況	継続				
方向性	公園ごとの利用ルールを柔軟に設定することで、公園の多角的活用を促進し、地域資源の有効利用と市民の利便性向上を図ります。							
内 容	<p>○公園の新設・改修では、人口構成やライフスタイルの変化に伴い多様化するニーズに対応し、計画段階から住民説明会等を通じて市民の意向を反映した公園づくりを推進します。</p> <p>○また、安全と秩序を保ちつつ、過度な制限を避け、地域の実情に応じた柔軟な利用ルールを住民と共に検討します。こうした市民と行政の対話による取組を通じて、地域資源としての公園の価値を高め、誰もが親近感を持ち多目的に活用できる場の創出を目指します。</p>							
対応指針		1-8) 身近な遊び場	1-9) にぎわい空間	2 支える指針	3 楽しむ指針			
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課					

表 資-13 今後活用を検討する緑地保全制度の概要

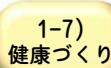
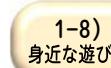
制度名	概 要	主な要件	メリット（支援措置）
自然共生 サイト 制度	民間の取組によって生物多様性が守られている区域を国が認定し、国際的な保全目標達成を目指す制度です。	企業や個人の森、里山などが対象です。環境大臣が認定し、良好な生態系を維持します。	認定による企業価値の向上や、国による活動支援・マッチングが受けられます。
市民緑地 認定制度	所有者の申請に基づき、市が市民の利用する緑地として認定します。民有地の有効活用を促進します。	面積 100 m ² 以上、10年以上の公開が必要です。地域住民の憩いの場として活用します。	相続税評価額の 2割減（20年以上公開）や固定資産税等の免除などの優遇があります。
市民緑地 契約制度	市や「みどり法人」が所有者と契約し、市民が利用する緑地を設置・管理する制度です。	面積 300 m ² 以上、期間5年以上が対象です。市等が維持管理を行うため、所有者の負担がありません。	管理負担の解消に加え、20年以上の契約等で相続税評価額が 2割減額されます。
緑地保全 地域制度	都市近郊のまとまった緑地を都市計画に定め、無秩序な開発を抑制して良好な環境の維持を図ります。	無秩序な市街化防止に必要な土地が対象です。建築等の行為には市への届出が必要になります。	管理協定や市民緑地制度と組み合わせることで、より効果的な維持管理や活用が可能です。
管理協定 制度	保全地区等の所有者と市が協定を結び、所有者に代わって市などが緑地の管理を行う制度です。	特別緑地保全地区等が対象です。所有者が管理できない場合に市が代行します。	管理負担が大幅に軽減されます。20年以上の貸付等で、相続税が最大 4割減額されます。
みどり 法人制度	NPO や民間団体を市が指定し、公的な緑化の担い手として活動を促す制度です。	市長が指定した法人等が対象です。市民緑地の管理主体となり、地域の保全活動をリードします。	公的な位置づけを得ることで、所有者との交渉や資金調達、活動の展開がスムーズになります。
都市緑化 支援機構 制度	国が指定した専門機関が、市に代わって貴重な緑地を機動的に買い入れ、保全する制度です。	国土交通大臣が指定した法人が業務を担います。	土地買収による確実な緑地保全と、専門知見に基づいた質の高い維持管理が期待できます。

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策 (1) みどりのモニタリングの実施		
個別施策	① グリーンインフラの実態調査の実施	実施状況	継続	
方向性	計画改定時などの定期的なみどりの現況調査及びグリーンインフラの評価を実施することで、都市のみどりの現状と課題を把握し、効果的な施策立案に繋げます。			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○みどりの保全と創出に向けた取組の基礎となる緑被率経年変化調査を継続します。 ○今後は、従来の写真測量(正規化植生指数による緑被抽出)の手法に加え、レーザー測量による植物の高さ情報(DHM)の取得による精度の高い抽出手法を検討します。 ○また、概ね5年ごとに多面的なグリーンインフラ評価を実施し、その結果を市ホームページなどで公表することで、グリーンインフラの啓発を図ります。客観的なデータに基づく施策の検証を通じ、質の高い都市環境の形成を目指します。 			
対応指針				
関係者	行政	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策 (1) みどりのモニタリングの実施		
個別施策	② 市民協働の生き物調査による生物データベースの整備	実施状況	継続	
方向性	市民協働の生き物調査を継続することで、生物多様性の現状を把握し、環境教育やまちづくりへ活用します。			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が参加する生き物調査は、広域かつ継続的なデータの収集を可能にするとともに、市民の環境意識を高める効果もあります。収集したデータは生物データベースとして蓄積し、環境教育プログラムの開発や緑地計画の策定に有効活用します。 ○なお、貴重種の生息情報については、保護の観点から公開範囲に十分配慮します。 ○今後は、AIによる種判定や位置情報の記録が可能な専用アプリの導入を検討し、調査の効率化とデータの精度向上を図ることで、自然と共生する豊かなまちづくりを目指します。 			
対応指針				
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策 (1) みどりのモニタリングの実施		
個別施策	③ みどりの市民アンケート調査の実施	実施状況	継続	
方向性	計画改定時等に定期的なみどりの市民アンケート調査を実施し、市民の意識やニーズを的確に把握します。また、結果を施策に反映し、市民満足度の高いみどりのまちづくりを推進します。			
内 容	○市民アンケートは、緑化施策への評価や今後期待されるみどりの取組、公園の利用実態などの多様な意見を直接収集する貴重な機会です。収集した意見を多角的に分析し、市民の視点に立った施策の改善や、変化する新たなニーズへの柔軟な対応を図り、市民一人ひとりが満足感や愛着を実感できるみどりのまちづくりを目指します。			
対応指針				
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課	

施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策（2）みどりの普及啓発の推進		
個別施策	① グリーンインフラの多面的効用の評価と公表	実施状況	新規取組検討	
方向性	朝霞市のグリーンインフラの多面的効用を評価し公表することで、市民や事業者の理解を深め、緑化活動への意識の向上と参加を促進します。			
内 容	<p>○みどりは、景観形成のほか、防災、気候変動対策、生物多様性保全、健康増進といった多面的な機能を有しています。これらのグリーンインフラがもたらす便益を客観的に評価し、WEBサイト等で分かりやすく公表することで、市民や事業者がみどりの重要性を科学的・具体的に再認識し、みどりのまちづくりへ自主的に参画するよう働きかけます。</p> <p>○また、みどりの多面的な効用への理解を深め、市民や事業者、行政が共にみどりを育む取組を広げることで、安全で快適な生活環境の実現を目指します。</p>			
対応指針				
関係者	行政	担当課	みどり公園課	
施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策（2）みどりの普及啓発の推進		
個別施策	② グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導	実施状況	新規取組検討	
方向性	開発事業等の緑化指導において、防災や環境、景観等の多面的効用を考慮した緑化を促進することで、都市のレジリエンス向上と持続可能なまちづくりに貢献します。			
内 容	<p>○グリーンインフラは、自然の多様な機能を社会課題解決に活用する考え方です。開発事業の緑化指導では、単なる面積確保にとどまらず、雨水浸透や生物多様性の保全、ヒートアイランド現象の緩和など、みどりが持つ多面的な機能を引き出す植栽計画や配置を促進します。</p> <p>○民間開発と公的な緑化が調和した、より質の高い都市環境を創出することで、気候変動や災害に強いレジリエンスの高いまちづくりを目指します。</p>			
対応指針				
関係者	行政	担当課	みどり公園課・開発建築課	
施策の柱	2-3 みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり	基本施策（2）みどりの普及啓発の推進		
個別施策	③ 地域社会に貢献するみどりづくりの促進	実施状況	新規取組検討	
方向性	環境貢献や生物多様性保全につながる認証・顕彰制度の促進を通じて、民間事業者や市民による緑化活動を奨励し、地域社会全体でみどりを育む文化を醸成します。			
内 容	○企業や個人が環境に配慮した緑化活動や生物多様性保全の取組を行う際、「TSUNAG 認定」や「SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)」、「ABINC 認証」などの既存の認証・顕彰制度の積極的な活用を促進します。市内で認定や表彰等の実績が得られた場合には、その成果や活動内容を広報誌や WEB サイト等で広く紹介する支援を行い、活動の社会的価値を周知することで、参加者のモチベーション向上と企業の CSR 活動を後押しします。			
対応指針				
関係者	行政、企業、市民	担当課	みどり公園課	

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	2-4 みどりの支援体制の強化	基本施策	(1) 財源の確保と活用	
個別施策	① 補助金等の活用		実施状況	継続
方向性	社会資本整備総合交付金などの補助金等を積極的に活用することで、緑化事業の財源を確保し、計画的な緑地整備・管理を推進します。			
内 容	<p>○みどりの整備や保全には、安定的な財源の確保が不可欠です。国や県の社会資本整備総合交付金等の補助制度を最大限に活用し、市の財政負担を軽減しながら、公園整備や緑地保全の取組を推進します。</p> <p>○都市緑地法の改正により創設された「機能維持増進事業」など、多様な制度の活用を検討し、外部財源の確保を通じて、持続可能なみどりの都市環境形成を目指します。</p>			
目 標	 支える指針			
関係者	行政	担当課	財政課・みどり公園課	
施策の柱	2-4 みどりの支援体制の強化	基本施策	(1) 財源の確保と活用	
個別施策	② みどりのまちづくり基金等の運用		実施状況	継続
方向性	みどりのまちづくり基金やふるさと納税等の運用を継続・強化することで、市民や事業者からの寄附を募り、緑化活動の財源を多様化し、市民参加型のみどりのまちづくりを推進します。			
内 容	<p>○みどりのまちづくり基金は、市民や企業等からの寄附を原資として緑化や環境保全活動を支援する制度です。ふるさと納税等の活用を強化し、より多くの資金を緑化事業に充てることで、市民参加のみどりを育む取組を促進します。また、売上の一部が基金へ寄附される自動販売機の設置など、多様な手法で財源確保に努めます。寄附を通じて誰もがまちづくりに参画できる仕組みを広げ、地域全体でみどりを守り育む意識の高い社会の実現を目指します。</p>			
目 標	 支える指針			
関係者	行政、市民、企業	担当課	財政課・みどり公園課	
施策の柱	2-4 みどりの支援体制の強化	基本施策	(2) みどり・公園分野におけるDXの推進	
個別施策	① 公園における DX の推進		実施状況	新規取組検討
方向性	公園台帳のデジタル化検討や、公園案内・イベント情報周知等に DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用することで、公園管理の効率化と市民への情報提供の充実を図ります。			
内 容	<p>○公園台帳のデジタル化により、施設の老朽化状況や管理履歴を一元的に把握し、効率的な維持管理や計画的な修繕を推進します。</p> <p>○あわせて、WEB サイトや SNS 等のデジタル技術を活用し、公園の利用状況やイベント情報をリアルタイムで発信することで、市民の利便性向上と公園利用を促進します。</p> <p>○こうした IT 技術を積極的に取り入れた取組を通じて、適正な施設管理と市民サービスの向上が両立するスマートな公園管理の実現を目指します。</p>			
対応指針	 健康づくり  身近な遊び場  にぎわい空間  支える指針			
関係者	行政	担当課	みどり公園課	

施策の柱	2-4 みどりの支援体制の強化	基本施策 (2) みどり・公園分野におけるDXの推進				
個別施策	② WEBを活用したグリーンインフラの普及啓発	実施状況	新規取組検討			
方向性	WEB等のデジタル媒体で朝霞市のグリーンインフラの役割や多面的効用を普及啓発し、市民や事業者の理解を深め、緑化活動への意識の向上と参加を促進します。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ウェブサイトやSNS等のデジタル媒体を活用し、市内のグリーンインフラの具体事例や、環境・社会・経済にもたらす多面的な便益を分かりやすく発信します。 ○情報へのアクセスのしやすさを活かし、幅広い層へみどりの重要性を周知することで、緑化活動への関心向上と主体的な参加を促進します。 ○デジタルの特性を活かした積極的な広報の取組を通じて、市民や事業者と共にみどりの価値を共有し、共感の輪が広がるまちづくりを目指します。 					
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針			
関係者	行政	担当課	みどり公園課			
施策の柱	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	基本施策 (1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催				
個別施策	① みどり空間を活用したイベントの開催	実施状況	継続			
方向性	彩夏祭、朝霞の森秋まつり、アサカストリートテラスなど、みどり空間を活用したイベントを開催し、市民がみどりに親しみ交流する場を創出するとともに、地域の魅力を高めます。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○彩夏祭、朝霞の森秋まつり、アサカストリートテラス、黒目川花まつり等の行事をみどり空間で開催し、多世代交流やコミュニティの絆を深める取組を促進します。 ○これらのイベントを通じて、基金への募金や緑化啓発を図るとともに、シティプロモーションの展開により、地域の魅力を市内外へ発信し、活力ある地域社会の実現を目指します。 ○また、浜崎黒目花広場でのボランティアと保育園児の種まき会等、体験を通したみどりに直接触れる機会を充実させます。 					
対応指針		1-9) にぎわい空間	2 支える指針	3 楽しむ指針		
関係者	行政、市民、企業	担当課	地域づくり支援課・みどり公園課・まちづくり推進課・産業振興課			
施策の柱	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	基本施策 (1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催				
個別施策	② 里山環境の活用	実施状況	継続			
方向性	里山観察会や田んぼの耕作など、里山環境を活用した体験活動を促進することで、市民が里山の自然に触れ、その価値を理解し、保全活動への関心を高める機会を提供します。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○里山を舞台に、里山フェスタや観察会、田んぼの耕作といった実体験型のイベントを実施することで、市民が直接里山のみどりに触れ、その価値を再認識する機会を充実させます。 ○市民の理解と共感に基づいた保全活動を広げることで、自然の恵みを次世代へと引き継ぐ持続可能な地域環境の形成を目指します。 					
対応指針		1-4) 生物多様性	1-5) 郷土の風景	1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課			

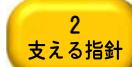
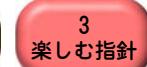
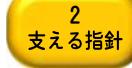
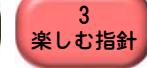
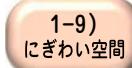
4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	基本施策 (1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催				
個別施策	③ 農を通じた交流の場づくり		実施状況	継続		
方向性	農業祭などのイベントを通じて、農を通じた市民交流の場を創出することで、市民の都市農業への理解を深め、地域活性化と食育の推進を図ります。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○地元農産物の販売や紹介を行う農業祭の開催により、市民が生産者と直接交流し、農への親しみや地域コミュニティの繋がりを深める機会を促進します。 ○あわせて、季節ごとの収穫体験といった農業体験事業を推進し、都市農業の魅力を発信する取組を展開することで、地産地消の推進と活力ある地域社会の実現を目指します。 					
対応指針		1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針		
関係者	行政、JA、農業従事者、市民	担当課		産業振興課		
施策の柱	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	基本施策 (2) 情報発信の強化と充実				
個別施策	① みどりの情報発信		実施状況	継続		
方向性	みどりの空間を活用したイベントのPRなど、みどりに関する情報発信を強化することで、市民のみどりへの関心を高め、緑化活動への参加を促進します。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○市のウェブサイトやSNS、広報誌を活用し、公園の開花情報やイベント案内のほか、助成制度やボランティア募集等の多様な情報を発信することで、市民の緑化活動への主体的な参加を促進します。 ○樹木の多い公園や保護樹木等への樹名板の設置を進めることで、身近なみどりに対する理解を深め、樹木を大切にする市民意識の醸成を図ります。 					
対応指針		1-9) にぎわい空間	2 支える指針	3 楽しむ指針		
関係者	行政	担当課		みどり公園課		
施策の柱	3-1 みどりのシティプロモーションの展開	基本施策 (2) 情報発信の強化と充実				
個別施策	② 市民イベント情報の集約と発信		実施状況	新規取組検討		
方向性	市民団体等が主催するイベントの情報を集約し、PR支援を行うことで、市民活動の活性化と、みどりに関するイベントへの市民参加を促進します。					
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○市内で開催される里山観察会や花植え体験、清掃活動といった市民団体等による多様なイベント情報を集約し、市の広報媒体を通じて広く市民に周知します。 ○市民が自身の興味に合った活動を見つけやすい環境を整えることで、イベントへの参加拡大と団体活動の活性化を促進します。 ○市が市民活動の伴走者として情報を広く届ける取組を通じて、地域全体の緑化意識を高め、市民と行政が共に歩むみどりのまちづくりを目指します。 					
対応指針		1-7) 健康づくり	1-8) 身近な遊び場	1-9) にぎわい空間	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	行政、市民	担当課		みどり公園課		

施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(1) みどりを楽しむ		
個別施策	① 家庭での緑化や菜園づくり		実施状況	新規取組検討	
方向性	家庭での緑化や菜園づくりを促進し、市民が身近な場所でみどりに触れ、育てる喜びを感じる機会を提供します。これにより、みどり豊かな住環境の形成を目指します。				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ベランダでのプランター栽培や庭の花壇、家庭菜園等、市民個々の生活に合わせた緑化を奨励し、日常でみどりに触れ、育てる喜びを実感できる機会の創出を目指します。 ○初心者向けの講習会や情報提供といった、誰もが気軽に緑化に取り組める支援体制の整備を取組として進めます。個々の家庭での緑化を地域で繋げ、みどり豊かな住環境の実現を目指します。 				
対応指針		1-2) 気温上昇緩和	1-4) 生物多様性	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	市民、行政	担当課		みどり公園課	
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(1) みどりを楽しむ		
個別施策	② 農産物直売施設等の利用		実施状況	継続	
方向性	浜崎農業交流センターや市役所での直売などで、朝霞市内で生産された新鮮な農産物の供給を促進します。				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○浜崎農業交流センターや市役所で開催される「あさか新鮮野菜市」等を通じて、新鮮な地場産野菜や花の販売を促進します。 ○直売拠点は、生産者と消費者が直接交流し、安心感を持って農産物を手に取れる貴重な場です。流通コストの削減による生産者の収益向上や地域経済の活性化を図る取組を進めることで、地産地消が根付いた豊かな食と農のまちづくりを目指します。 				
対応指針		1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	行政、農業従事者	担当課		産業振興課	
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(1) みどりを楽しむ		
個別施策	③ 地産地消の実践		実施状況	継続	
方向性	地場産野菜等の購入を促進することで、地産地消を実践し、都市農業の活性化と食の安全・安心への意識向上を図ります。				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○旬の地場産野菜を食卓に取り入れることは、日々の食事を通じて季節の変化を味わい、朝霞の豊かな恵みを五感で楽しむ取組です。市内の直売所や農地を身近に感じ、生産者の顔が見える「安心」を暮らしに選ぶライフスタイルを促進します。 ○食を通じて地域のみどりに愛着を持ち、都市農業の活気と健やかな暮らしが心地よく共鳴するまちの実現を目指します。 				
対応指針		1-6) 農業活動	2 支える指針	3 楽しむ指針	
関係者	市民、農業従事者、行政	担当課		産業振興課	

4 みどりの取組（施策の個表）

施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(1) みどりを楽しむ			
個別施策	(4) みどりを生かした健康づくり		実施状況	継続		
方向性	グリーントレイルマップの作成や、公園などにおける健康遊具の設置を通じて、みどりを生かした健康増進を推進することで、市民の健康的なライフスタイルを支援します。					
内 容	<p>○公園でのラジオ体操や健康体操教室などの開催を促進します。あわせて、市内の緑地や公園を繋ぐ「グリーントレイルマップ」を作成・活用し、散歩やジョギングを日常の楽しみとして気軽に取り組めるコースを提案する取組を進めます。</p> <p>○身近な公園への健康遊具の設置等を通じて、多世代が楽しみながら体を動かし、みどりの恩恵を最大限に享受できる健康的なライフスタイルの実現を目指します。</p>					
対応指針		1-7) 健康づくり	2 支える指針	3 楽しむ指針		
関係者	行政、市民	担当課	みどり公園課			
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(1) みどりを楽しむ			
個別施策	(5) みどりのイベントへの参加		実施状況	継続		
方向性	公園などで行われるイベントへの参加を促進することで、市民がみどりに触れ、学び、交流する機会を増やし、みどりへの愛着と環境意識を育みます。					
内 容	<p>○里山フェスタや黒目川花まつり、自然観察会など、四季折々の魅力を体験できるイベントへの参加を促進します。身近な公園や緑地を舞台にした多彩な活動を通じて、みどりの価値を楽しみながら学び、多世代が交流する取組を広げます。</p> <p>○こうした場での発見や感動を共有することで、地域のみどりに対する愛着を育み、環境にやさしいまちの実現を目指します。</p>					
対応指針		1-7) 健康づくり	1-8) 身近な遊び場	1-9) にぎわい空間	2 支える指針	3 楽しむ指針
関係者	市民、行政	担当課	みどり公園課			
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(2) みどりのボランティア活動への参加			
個別施策	① みどりのボランティア活動への参加		実施状況	継続		
方向性	公園サポーター、里山ボランティア、道路美化活動等、みどりのボランティア活動への参加を促進することで、市民主体の緑地管理を推進し、地域への愛着と貢献意識を育みます。					
内 容	<p>○市民が自らみどりを守り育てる取組は、緑地の質を高め、達成感やコミュニティの絆を深めます。公園サポーターや里山ボランティア、道路美化活動等、日々の生活でまちを美しくする喜びを分かち合える機会を促進します。</p> <p>○ボランティア情報を積極的に発信し、誰もが気軽に参加できる場を広げることで、地域への愛着と貢献の心が豊かに育まれる、市民が主役のみどりのまちづくりを目指します。</p>					
対応指針		2 支える指針	3 楽しむ指針			
関係者	市民、行政	担当課	みどり公園課			

施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(2) みどりのボランティア活動への参加		
個別施策	② みどりのリサイクルへの参加		実施状況	継続	
方向性	みどりのリサイクル活動への市民参加を促進することで、資源の有効活用と環境負荷の低減を図り、循環型社会の形成に貢献します。				
内容	○公園等の落葉を堆肥へ再利用する取組への参加を促進します。資源の循環を体験し、出来た堆肥を家庭菜園等で活用することで、みどりを育む循環型社会の実現を目指します。				
対応指針	 				
関係者	市民、行政	担当課	みどり公園課		
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(2) みどりのボランティア活動への参加		
個別施策	③ みどりに係る講習会への参加		実施状況	継続	
方向性	みどりに係る講習会への市民参加を充実することで、緑化に関する知識や技術の向上を図り、市民一人ひとりがみどりの担い手として活躍できる環境を整備します。				
内容	○樹木剪定や花植え等の講習会を多様なレベルで開催し、技術を深める機会を促進します。育てる喜びや技術を地域で発揮する取組により、地域全体の緑化水準の向上に貢献します。				
対応指針	 				
関係者	市民、行政	担当課	みどり公園課・環境推進課		
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(3) みどりの交流の拡大		
個別施策	① 民間のみどりの公開		実施状況	新規取組検討	
方向性	大学や神社仏閣などで開催される敷地公開型イベントを促進することで、民間が所有する緑地空間を市民に開放し、みどりに触れる機会を増やし、地域全体のみどりの魅力を高めます。				
内容	○大学や神社仏閣などと連携し、庭園見学等の限定イベントを促進します。普段は入れない貴重なみどり空間での発見や交流を楽しむ取組を通じ、地域全体の魅力向上に貢献します。				
対応指針	  				
関係者	企業等、行政	担当課	みどり公園課		
施策の柱	3-2 みどりのある暮らしの実践	基本施策	(3) みどりの交流の拡大		
個別施策	② SNS を活用したみどりの交流		実施状況	新規取組検討	
方向性	SNS を用いた朝霞のみどりの魅力発信を推進することで、市民間のみどりに関する情報共有や交流を促進し、みどりへの関心を高め、緑化活動への参加を促します。				
内容	○SNS で風景やイベント情報を発信するとともに、写真投稿企画等の市民参加を検討します。交流を通じ関心を高める取組により、みどりの輪を広げ、地域の魅力向上に貢献します。				
対応指針	 				
関係者	行政、市民、企業	担当課	みどり公園課		

5 みどりの現況に係る資料

(1) みどりの現況

令和5（2023）年の朝霞市の現況の緑被地面積は、638.32ha（緑被率 34.80%）でした。

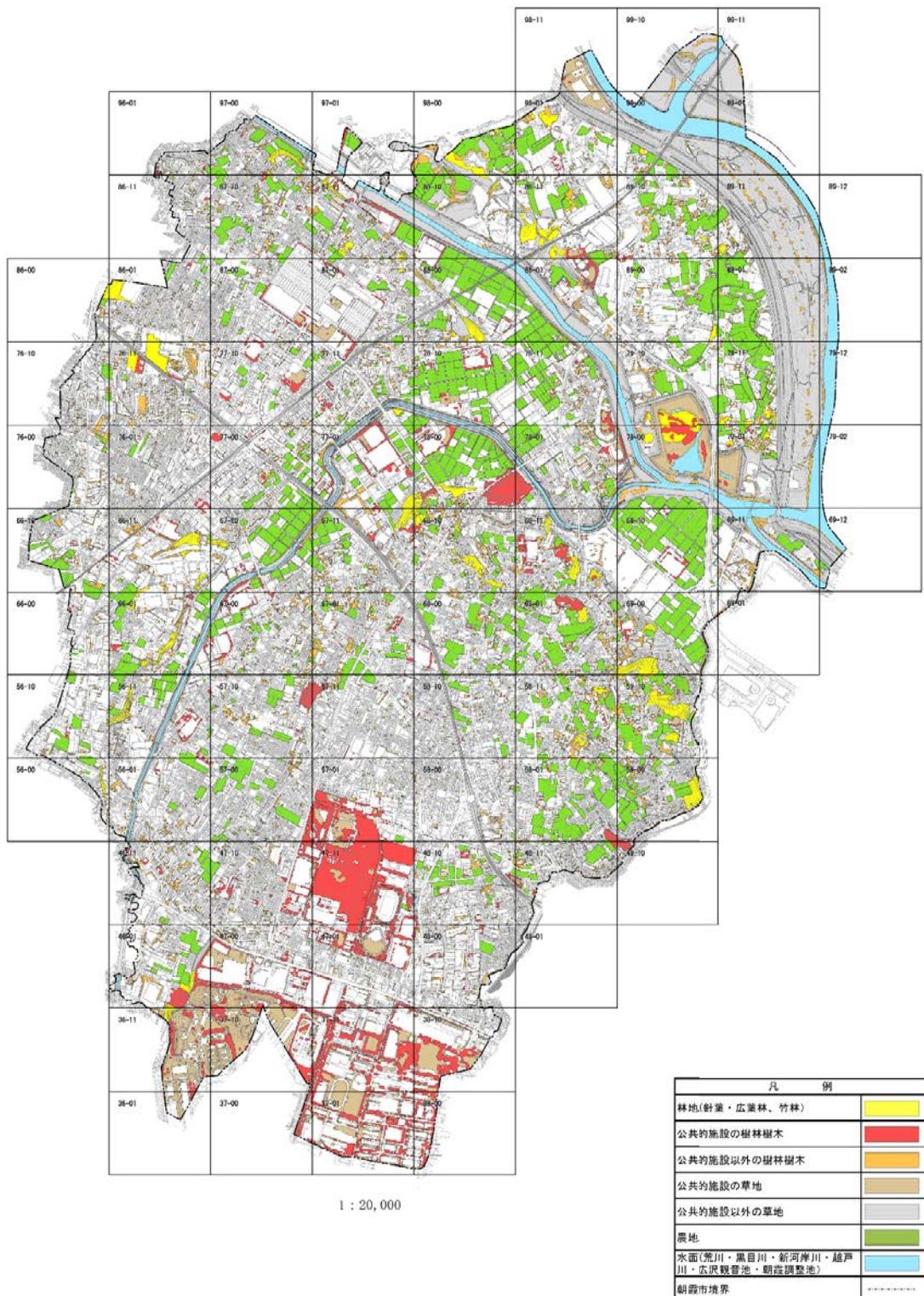


図 参-45 緑被地の分布

(2) 都市公園の現況

朝霞市は、令和7（2025）年度末現在、45箇所・31.22haの都市公園が整備されています。

表 参-14 都市公園の整備状況（令和7年度末）

番号	公園名	所在地	種別	区域	面積 (ha)
1	北割公園	西原2-8	街区	市街化区域	0.28
2	浜崎公園	浜崎3-4	街区	市街化区域	0.15
3	西久保公園	東弁財2-3	街区	市街化区域	0.20
4	弁財公園	東弁財3-4	街区	市街化区域	0.39
5	南割公園	西弁財1-3	街区	市街化区域	0.19
6	二本松公園	本町1-1670-3	街区	市街化区域	0.06
7	越戸公園	栄町1-1588-2	街区	市街化区域	0.10
8	上の原公園	幸町3-1152-1	街区	市街化区域	0.17
9	泉水公園	泉水2-59-1	街区	市街化区域	0.19
10	島の上公園	膝折町4-2045-13	街区	市街化区域	0.50
11	あかね公園	本町2丁目9-2	街区	市街化区域	0.15
12	広沢公園	本町3-10-3	街区	市街化区域	0.20
13	あけばの公園	仲町2-24-2	街区	市街化区域	0.35
14	南の風公園	本町3-33-3	街区	市街化区域	0.20
15	水久保公園	根岸台7-1012-21	街区	市街化区域	0.85
16	堂之下公園	大字岡字堂の下五反田48-6	街区	市街化調整区域	0.08
17	やつじ公園	宮戸3-1075	街区	市街化調整区域	0.09
18	五反田公園	大字溝沼1352-2	街区	市街化区域	0.11
19	北浦公園	膝折町4-758-1	街区	市街化区域	0.20
20	はなみずき公園	栄町1-1576-24	街区	市街化区域	0.05
21	田島公園	田島2-1571	街区	市街化調整	0.72
22	中道公園	本町1-107-1 他1筆	街区	市街化区域	0.35
23	宮戸大山公園	宮戸3-1051-3	街区	市街化区域	0.05
24	いずみ公園	泉水1-2123-4	街区	市街化区域	0.15
25	三原公園	三原1丁目266番1	街区	市街化区域	0.22
26	宮戸ハケタ公園	宮戸4丁目606番2外3筆の一部	街区	市街化区域	0.19
27	浜崎峡(ハ)公園	浜崎4丁目1266番1	街区	市街化区域	0.09
28	向山公園	岡3丁目115番	街区	市街化区域	0.22
29	根岸台自然公園	根岸台8丁目531番1外2筆	街区	市街化区域	0.96
30	向原公園	根岸台7丁目944番1	街区	市街化区域	0.22
31	宮台公園	根岸台3丁目1-160	街区	市街化区域	0.10
32	笹橋公園	根岸台3丁目1-181	街区	市街化区域	0.10
33	谷中公園	根岸台3丁目1-26	街区	市街化区域	0.10
34	まぼりみなみ公園	根岸台5丁目1-1	街区	市街化区域	0.13
35	まぼりひがし公園	根岸台5丁目23-1	街区	市街化区域	0.22
36	みやど公園	宮戸2丁目13	街区	市街化区域	0.36
街区公園 計					8.69
37	北朝霞公園	北原1-3	近隣	市街化区域	1.39
38	滝の根公園	溝沼2-1585-2	近隣	市街化区域	1.10
39	内間木公園	大字上内間木518-3	近隣	市街化調整区域	1.68
近隣公園 計					4.17
40	城山公園	岡3-386	地区	市街化区域	3.49
41	朝霞中央公園	青葉台1-1404-12	地区	市街化調整区域	7.10
42	青葉台公園	大字膝折2-30	地区	市街化調整区域	3.80
地区公園 計					14.39
43	柊塚古墳歴史広場	岡3丁目26番地内	歴史	市街化区域	0.52
44	旧高橋家住宅	根岸台2-681	歴史	市街化区域	1.02
歴史公園 計					1.54
45	上野荒川運動場	大字上内間木地内	都市緑地	市街化調整区域	2.43
都市緑地 計					2.43
都市公園 計					31.22

(みどり公園課資料)

5 みどりの現況に係る資料

(3) 都市公園以外の施設緑地の現況

表 参-15 児童遊園地の整備状況（令和7年度末）

番号	名 称	面積 (m ²)	番号	名 称	面積 (m ²)		
1	栄町児童遊園地	1286.68	34	六道第2児童遊園地	220.88		
2	膝折宿児童遊園地	126.27	35	下の原第2児童遊園地	328.15		
3	岡向山児童遊園地	120.29	36	稻荷山児童遊園地	225.00		
4	つつじ児童遊園地	148.65	37	大屋敷児童遊園地	98.40		
5	霞台・昭和台児童遊園地	92.33	38	栄町第6児童遊園地	115.95		
6	溝沼団地児童遊園地	240.12	39	朝志ヶ丘第2児童遊園地	121.98		
7	すみれ児童遊園地	183.82	40	霞ヶ丘児童遊園地	215.05		
8	さつき児童遊園地	138.87	41	新屋敷児童遊園地	106.65		
9	岡（東洋大）児童遊園地	594.99	42	栄町第7児童遊園地	135.89		
10	ひまわり児童遊園地	132.23	43	宮台児童遊園地	198.00		
11	けやき児童遊園地	258.95	44	堰ノ上児童遊園地	147.69		
12	ひざおり児童遊園地	92.42	45	膝折第3児童遊園地	127.55		
13	宮戸長塚児童遊園地	213.66	46	やつるぎ児童遊園地	160.05		
14	栄町第4児童遊園地	320.61	47	せんずい山児童遊園地	197.16		
15	三原3丁目児童遊園地	149.80	48	宮戸立出児童遊園地	853.92		
16	栄町第3児童遊園地	334.54	49	北中緑地	768.03		
17	栄町第5児童遊園地	110.11	50	新高橋ふれあい広場	305.65		
18	宮戸3丁目児童遊園地	152.90	51	後耕地児童遊園地	468.91		
19	東林橋児童遊園地	120.02	52	宮戸中道児童遊園地	127.49		
20	岡1丁目児童遊園地	136.76	53	栄町第8児童遊園地	250.36		
21	三原1丁目児童遊園地	109.86	54	根岸台4丁目児童遊園地	194.27		
22	膝折町1丁目児童遊園地	154.00	55	三原2丁目児童遊園地	453.00		
23	膝折町2丁目児童遊園地	112.28	56	三原5丁目児童遊園地	276.41		
24	泉水山上児童遊園地	194.63	57	新盛橋広場	167.38		
25	溝沼5丁目児童遊園地	116.57	58	東かすみ台児童遊園地	299.58		
26	泉水山下児童遊園地	145.17	59	緑ヶ丘北児童遊園地	97.81		
27	六道児童遊園地	213.50	60	下の原第3児童遊園地	121.71		
28	根岸通児童遊園地	295.24	61	せんずい山第二児童遊園地	226.07		
29	膝折町4丁目児童遊園地	101.51	62	大瀬戸児童遊園地	202.54		
30	膝折第2児童遊園地	136.68	63	諏訪原児童遊園地	230.60		
31	向山児童遊園地	229.15	64	宮戸道合児童遊園地	509.63		
32	境久保児童遊園地	103.73	65	岡3丁目児童遊園地	138.67		
33	幸町3丁目児童遊園地	98.69	児童遊園地（公有地） 計		15,055.46		
1	上内間木児童遊園地	595.00	10	溝沼6丁目児童遊園地	457.08		
2	下内間木児童遊園地	53.98	11	朝志ヶ丘東児童遊園地	422.65		
3	緑ヶ丘児童遊園地	865.27	12	仲町児童遊園地	790.00		
4	金剛寺児童遊園地	337.06	13	天ヶ久保児童遊園地	398.00		
5	田島児童遊園地	402.97	14	根岸台6丁目児童遊園地	685.00		
6	霞台児童遊園地	875.00	15	星の森児童遊園地	2311.00		
7	緑ヶ丘北児童遊園地	443.30	16	黒目児童遊園地	1470.71		
8	根岸児童遊園地	991.88	17	下の原児童遊園地	515.00		
9	郷戸児童遊園地	230.27	児童遊園地（民有地） 計		11,844.17		
合 計							
26,899.63							

(みどり公園課資料)

(緑ヶ丘北児童遊園地については、市有地と民有地を含む)

表 参-16 公的市民農園の整備状況（令和7年度末）

番号	名称	所在地	区域	面積 (m ²)	区画数
1	浜崎農園	大字浜崎字下谷 19-1 他	市街化調整区域	4,602	211
2	本町農園	本町 1 丁目 37-48	市街化区域	1,930	54
3	根岸台農園	根岸台 8 丁目 815-1 の一部	市街化区域	510	30
4	溝沼農園	大字溝沼字富士下 543 他	市街化調整区域	900	43
5	青葉台農園	青葉台 1 丁目 3-1	市街化区域	1,736	42
6	浜崎第2農園	大字浜崎字堰免 722 他	市街化調整区域	1,400	70
合 計				11,078	450

(みどり公園課資料)

表 参-17 公的緑地の整備状況（令和7年度末）

番号	名称	所在地	区域	面積 (m ²)
1	宮戸3丁目緑地	宮戸3丁目	市街化区域	78
2	宮戸4丁目緑地	宮戸4丁目	市街化区域	396
3	根岸台8丁目緑地	根岸台8丁目	市街化区域	5017
4	(仮称) 稲荷山緑地	根岸台8丁目	市街化区域	4,264
5	向山緑地	岡3丁目	市街化区域	70
6	公団前緑地	仲町2丁目	市街化区域	49
7	わくわく田島緑地	大字台字下手町	市街化調整区域	3,000
8	朝志ヶ丘緑地	朝志ヶ丘1丁目	市街化区域	2,036
9	浜崎黒目わんぱく広場	大字浜崎字堰免	市街化調整区域	1,000
10	浜崎黒目花広場	大字浜崎字堰免	市街化調整区域	2,039
11	ふれあい花壇	大字浜崎	市街化調整区域	4,934
12	自主管理公園	根岸台2丁目	市街化区域	169
13	自主管理公園	膝折町4丁目	市街化区域	134
14	自主管理公園	幸町3丁目	市街化区域	488
合 計				23,675

(みどり公園課資料)

表 参-18 公的緑地の整備状況（令和7年度末）

施設及び緑被		市街化区域 (ha)	都市計画区域 (ha)
街路樹	樹林樹木	0.68	4.05
レクリエーション施設	樹林樹木	0.28	1.16
レクリエーション施設	草地	0.00	0.64
学校	樹林樹木	3.67	9.21
学校	草地	1.75	2.84
その他	樹林樹木	1.98	40.47
その他	草地	2.48	43.07
合 計		10.84	101.45

(令和5年度緑被率経年変化調査)

表 参-19 公的緑地の対象

レクリエーション施設	総合体育館、武道館、図書館、市民センター、公民館、児童館、博物館、溝沼子どもプール、ゆめぱれす（市民会館）、県職グラウンド、中央公民館・コミュニティセンター、産業文化センター、健康増進センター、滝の根テニスコート、総合福祉センター
学校	市内各小学校、市内各中学校、県立朝霞西高等学校、県立朝霞高等学校、細田学園グラウンド、武蔵大学グラウンド、東洋大学朝霞校舎、幼稚園
その他	朝霞市役所、埼玉県南西部消防本部、朝霞消防署（訓練所含む）、朝霞保健所、朝霞税務署、朝霞公共職業安定所、陸上自衛隊朝霞駐屯地、キャンプ朝霞跡地、朝霞市クリーンセンター、朝霞調節池、朝霞市各浄水場、三園浄水工場導水ポンプ場、東京都水道局朝霞浄水場及び水道用地、あさか向陽園、特別養護老人ホーム「朝光苑」、JR 武蔵野線北朝霞駅前広場、東武東上線朝霞駅前広場、わくわく田島緑地、浜崎黒目花広場、埼玉県朝霞県土整備事務所、保育園

5 みどりの現況に係る資料

表 参-20 民間施設緑地の緑被地（令和7年度末）

施設及び緑被		市街化区域 (ha)	都市計画区域 (ha)
社寺・墓地	樹林樹木	3.00	3.62
社寺・墓地	草地	0.10	0.31
合 計		3.09	3.93

(令和5年度緑被率経年変化調査)

表 参-21 施設緑地の面積総括表（令和7年度末）

		市街化区域			都市計画区域（市域）		
		箇所	面積 (ha)	一人当たりの面積 (m ²)	箇所	面積 (ha)	一人当たりの面積 (m ²)
住区基幹公園	街区公園	30	7.80	0.54	36	8.69	0.59
	近隣公園	2	2.49	0.17	3	4.17	0.28
	地区公園	1	3.49	0.24	3	14.39	0.98
計		33	13.78	0.96	42	27.25	1.86
都市基幹公園	総合公園	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00
特殊公園	歴史公園	2	1.54	0.11	2	1.54	0.11
都市緑地		0	0.00	0.00	1	2.43	0.17
都市公園 計		35	15.32	1.06	45	31.22	2.13
市民緑地 ^(vi)		0	0.00	0.00	0	0.00	0.00
都市公園+市民緑地 計		35	15.32	1.06	45	31.22	2.13
公共施設緑地 計			15.03			107.53	
民間施設緑地 計			3.09			3.93	
施設緑地 計			33.45	2.32		142.68	9.74
人口			144,079			146,518	

(一人当たりの面積の計算では、令和7年12月1日時点の人口データ(146,518人)を使用しています。)

(3) 地域制緑地の現況

本市の地域制緑地には、法にもとづくものとして、特別緑地保全地区、近郊緑地保全区域、生産緑地地区、河川区域があります。また、市の条例によるものとして、保護地区・保護樹林、朝霞市文化財保護条例に基づく緑地があります。

表 参-22 地域制緑地の指定状況（令和7年度末）

制度	名称	市街化区域 (ha)	都市計画区域 (ha)
特別緑地保全地区	宮戸緑地	0.55	0.55
	岡緑地	0.43	0.43
	郷戸緑地	0.41	0.41
	新屋敷緑地	0.30	0.30
	代官水緑地	0.38	0.38
	計	2.07	2.07
近郊緑地保全区域	荒川近郊緑地保全区域	0.00	98.00
生産緑地	187地区	64.53	64.53
河川区域	荒川	0.00	126.03
	新河岸川	0.00	28.15
	黒目川	0.00	23.98
	越戸川	0.00	1.84
	計	0.00	180.00
法律に基づく地域制緑地 計		66.60	344.60
保護地区	24地区	7.58	7.83
保護樹木	96本	-	-
文化財保護条例に基づく緑地	広沢の池	0.06	0.06
条例に基づく地域制緑地 計		7.64	7.89
地域制緑地の重複（荒川河川区域と近郊緑地保全区域の重複）		0	△98.00
地域制緑地 合計		74.24	254.49

(みどり公園課資料)

(4) 緑地の総面積

本市の緑地の総面積は、394.88haで市域に占める緑地の割合（緑地率）は21.5%です。

表 参-23 緑地の総括表（令和7年度末）

緑地種別	市街化区域			都市計画区域（市域）		
	整備量		整備水準	整備量		整備水準
	個所	面積 (ha)	(m³/人)	個所	面積 (ha)	(m³/人)
都市公園等 計	35	15.32	1.06	45	31.22	2.13
公共施設緑地 計	-	15.03	1.04	-	107.53	7.34
民間施設緑地 計	-	3.09	0.21	-	3.93	0.27
施設緑地 計	-	33.45	2.32	-	142.68	9.74
地域制緑地 計	-	74.24		-	254.49	
施設緑地と地域制緑地の重複	-	0.00	-	-	2.43	-
緑地 総計	-	107.69		-	394.74	
人口 (人)	144,079			146,518		
区域面積 (ha)	1,078			1,834		
緑地率	10.0%			21.5%		

(一人当たりの面積の計算では、令和7年12月1日時点の人口データ(146,518人)を使用しています。)

6 計画策定の体制と経過

この計画の策定にあたっては、「朝霞市緑化推進会議」に意見を求め、専門的な知識や市民の立場からの助言をいただきました。

また、市役所の内部に「朝霞市緑の基本計画庁内検討委員会」を設置し、計画案の検討や関連するほかの計画との調整を行いました。

さらに、市民アンケートやワークショップを実施したほか、市民コメント（意見公募）や説明会を開催することで、市民の皆さん 의견を計画に反映させました。

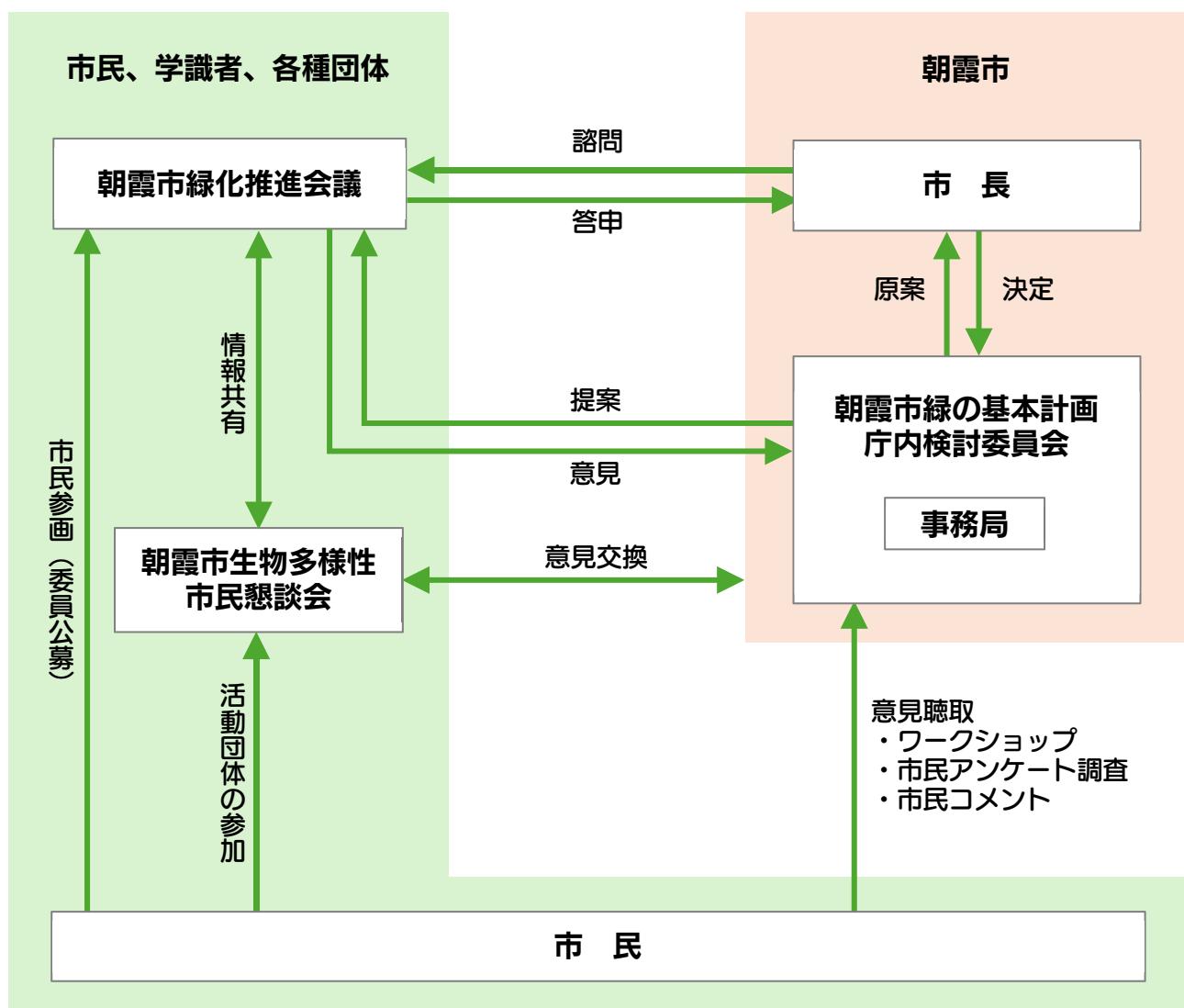


図 参-46 策定体制図

表 参-24 朝霞市緑化推進会議 委員名簿

構 成	氏 名	所属等
市の議会の議員	高堀 亮太郎 (R6.5.17～未定)	朝霞市議会
	増田 ともみ	朝霞市議会
	西 明 (R8.1.13～)	朝霞市議会
学識経験を有する者	古賀 健一 (会長)	株式会社戸田芳樹風景計画
	堂本 泰章 (副会長)	公益財団法人埼玉県生態系保護協会
関係行政機関の職員	鈴木 勝浩	埼玉県朝霞県土整備事務所
	鈴木 香織 (R6.5.17～R7.4.1)	朝霞市小・中学校長会
	渡辺 貴子 (R7.7.1～)	朝霞市小・中学校長会
まちづくり関係団体の代表者	大橋 純	朝霞市都市計画審議会
社会福祉関係団体の代表者	渡辺 淳史	朝霞市小・中学校長会
環境関係団体の代表者	藤井 久美子	あさか環境市民会議
商工業関係団体の代表者	本多 武	朝霞市商工会
農業関係団体の代表者	高橋 隆	朝霞市農業委員会
公募による市民 又は 公募委員候補者名簿に 登載された市民	大貫 利巳	公募市民 (内間木地域)
	田島 徳広	公募市民 (北部地域)
	森 敏夫	公募市民 (東部地域)
	柴野 昌己	公募市民 (西部地域)
	山本 清典	公募市民 (南部地域)

表 参-25 朝霞市生物多様性市民懇談会 委員名簿

構 成	氏 名	所属等
座 長	堂本 泰章	公益財団法人埼玉県生態系保護協会
委 員	松永 健司	あさか環境市民会議
	小林 一己	黒目川に親しむ会
	富永 靖徳	(公財) 埼玉県生態系保護協会 朝霞支部
	田中 幹男	秋ヶ瀬野鳥クラブ
	大野 良夫	朝霞基地跡地の自然を守る会
	田之岡 真澄	朝霞湿生植物保護の会
	山本 長志郎	わくわく新河岸川みどりの会

6 計画策定の体制と経過

表 参-26 朝霞市緑の基本計画庁内検討委員会 委員構成

委員長	都市建設部	部 長
委 員	都市建設部	まちづくり推進課長
		開発建築課長
		みどり公園課長
		道路整備課長
	市長公室	政策企画課長
	危機管理室	副審議監兼室長
	総務部	次長兼財政課長
		財政課長
		財産管理課長
	市民環境部	地域づくり支援課長
		産業振興課長
		環境推進課長
	福祉部	長寿はつらつ課長
	こども健康部	保育課長
	上下水道部	下水道施設課長
	学校教育部	教育総務課長
		教育指導課長
	生涯学習部	生涯学習・スポーツ課長
		文化財課長

表 参-27 計画策定の経過

項 目	会議等			
	緑化推進 会議	生物多様性 市民懇談会	庁内検討 委員会	ワークショップ等
令和 6 年度	(4 回開催)	(3 回開催)	(5 回開催)	
・みどりの現況の整理 ・市民アンケートの実施 ・みどり事業のまとめ ・みどりの評価 ・みどりの課題の整理 等	■5/28 ■8/20 ■12/19 ■3/13	■10/7 ■12/18	■4/24 ■5/14 ■8/6 ■11/18 ■2/18	■9月下旬～10月中旬 (みどりの市民アンケート) ■1/26 (シンボルロードの緑地管理を考える勉強会) ■2/22 (ワークショップ)
令和 7 年度	(5 回開催)	(1 回開催)	(5 回開催)	
・みどりの将来像の検討 ・みどりの指針の検討 ・施策の方針の検討 ・重点施策の検討 ・地域別計画の検討 ・素案の作成 ・市民コメントの実施 等	■7/1 ■9/2 ■11/6 ■1/13 ■2/24	■11/25	■5/26 ■8/20 ■10/15 ■12/22 ■2/16	■7/11 (基地跡地見学会) ■1/16～2/16 (市民コメント) ■1/17・20 (市民説明)
令和 8 年度 計画公表 (4 月)				

7 公園緑地の制度解説

この計画では、私たちの暮らしを豊かにする環境全体を「みどり」と呼びます。これは植物だけではなく、森や田畠、川や池、公園、学校の校庭や家の庭なども含めた、生き物や自然がある場所すべてを指します。

この「みどり」の中でも、法律などで将来にわたって守ることが約束されている場所を特に「緑地」と呼び、どれくらい確保するかという目標を立てる対象にしています。

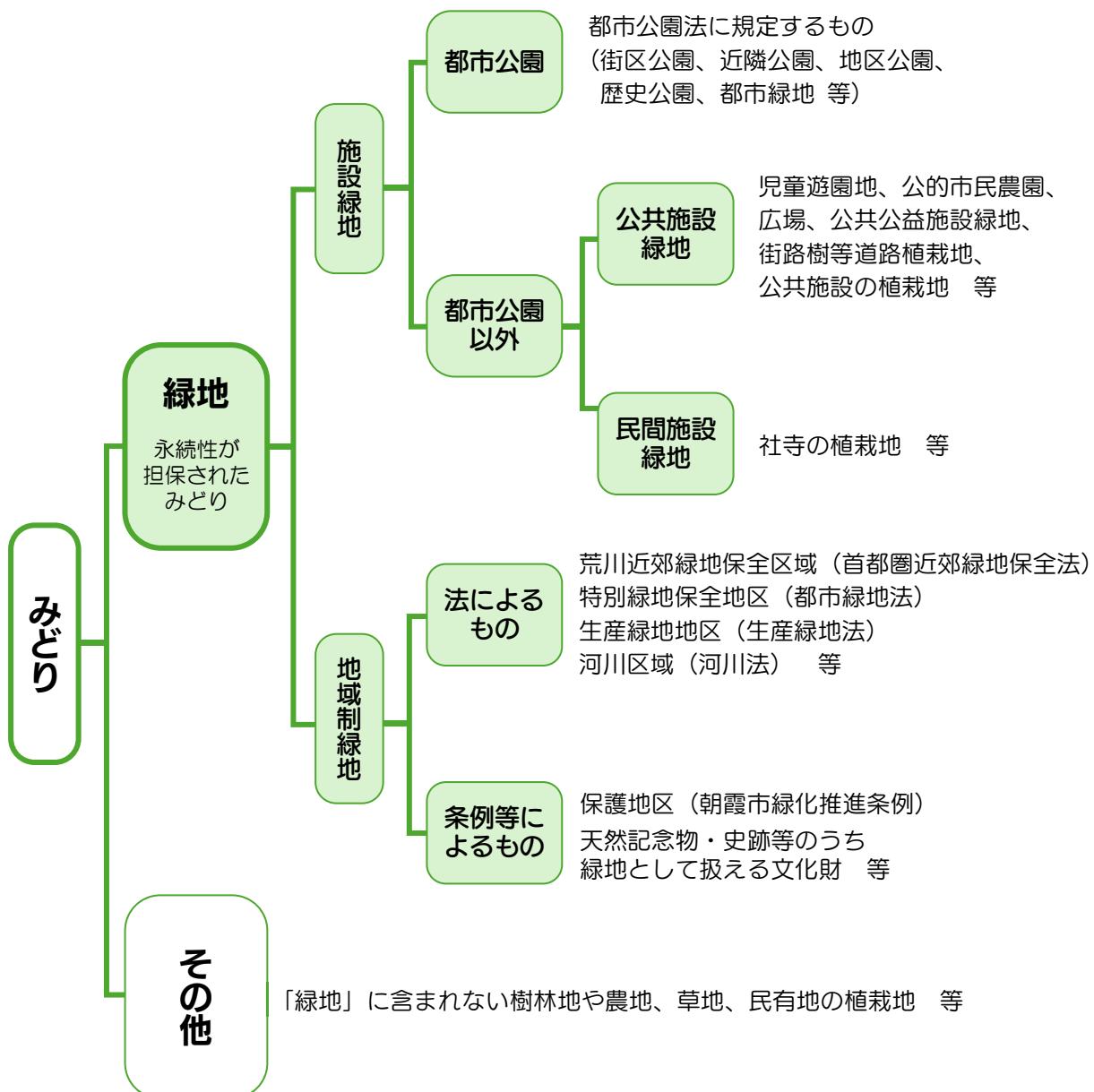


図 参-47 みどりと緑地

表 参-28 都市公園の種類

種類	種別	内容
住区墓幹公園	街区公園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積0.25haを標準として配置する。
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積2haを標準として配置する。
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積4haを標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園（カントリーパーク）は、面積4ha以上を標準とする。
都市墓幹公園	総合公園	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10~50haを標準として配置する。
	運動公園	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積15~75haを標準として配置する。
大規模公園	広域公園	主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、地方生活圏等広域的なブロック単位ごとに1箇所当たり面積50ha以上を標準として配置する。
	レクリエーション都市	大都市その他の都市圏域から発生する多様かつ選択性に富んだ広域レクリエーション需要を充足することを目的とし、総合的な都市計画に基づき、自然環境の良好な地域を主体に、大規模な公園を核として各種のレクリエーション施設が配置される一団の地域であり、大都市圏その他の都市圏域から容易に到達可能な場所に、全体規模1000haを標準として配置する。
国営公園		主として一の都府県の区域を超えるような広域的な利用に供することを目的として国が設置する大規模な公園にあっては、1箇所当たり面積おおむね300ha以上を標準として配置する。国家的な記念事業等として設置するものにあっては、その設置目的にふさわしい内容を有するように配置する。
緩衝緑地等	特殊公園	風致公園、動植物公園、歴史公園、墓園等特殊な公園で、その目的に則り配置する。
	緩衝緑地	大気汚染、騒音、振動、悪臭等の公害防止、緩和若しくはコンビナート地帯等の災害の防止を図ることを目的とする緑地で、公害、災害発生源地域と住居地域、商業地域等とを分離遮断することが必要な位置について公害、災害の状況に応じ配置する。
	都市緑地	主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置する。但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあってはその規模を0.05ha以上とする。(都市計画決定を行わずに借地により整備し都市公園として配置するものを含む)
	緑道	災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地で幅員10~20mを標準として、公園、学校、ショッピングセンター、駅前広場等を相互に結ぶよう配置する。

※みどり色に着色した種別は本市にある都市公園の種別です。総合公園はまだありませんが、基地跡地における都市計画決定上の種別が総合公園であるため着色しています。

※種別と内容は、国土交通省のホームページに掲載している「都市公園の種類」から引用しています。

8 用語の解説

あ行	
雨庭	建物の敷地内や道路等に降った雨を集め、一時的に溜めて、ゆっくり地下へ浸透させるために設ける植栽地のこと。レインガーデンとも呼ばれます。
荒川低地	荒川が運んできた土砂が積もってできた、川沿いの低くて平らな土地のことです。地質学では「沖積面（ちゅうせきめん）」と呼ばれます。
ウォーカブル	「居心地が良く、歩きたくなる」まちのことです。車中心ではなく、ベンチで休んだり、安心して散歩や買い物ができたりする、人を中心とした空間づくりを指します。
雨水貯留・浸透	大雨が降ったとき、一時的に水を溜めたり地中に浸み込ませたりすることで、雨水が下水道や川へ一気に流れ込まないようにすることです。
エコアップ	緑や水を増やすだけでなく、水辺と草木を隣り合わせるなどして、生き物のすみかとしての「質」を高めることです。今ある環境に手を加え、生き物がより暮らしやすい豊かな自然へとレベルアップさせる工夫を指します。
エコロジカルネットワーク	生き物が地域を行き来し、命をつなぐ「みどりのつながり」のことです。生き物の拠点となる森などの「核（コア）」、移動ルートとなる川や並木などの「回廊（コリドー）」、休憩場所となる公園などの「飛び石」からなります。
園芸療法	草花や野菜を育て、土や植物に触れ合う活動を通して、心の疲れを癒やし、体の健康を整える療法のことです。
オープンスペース	公園、河川、農地など、建物が建っていない開放的な場所の総称です。都会では、ビルやマンションの敷地にある広場や歩道なども含まれます。誰もが自由に過ごせる場所であり、景観を守り、災害時の避難場所としても役立ちます。
か行	
街区公園	都市公園法に基づく都市公園の一つで、子どもの遊び場や近所に住む人たちの休憩や運動、交流の場として利用されることを目的に作られる、もっとも身近な公園のことです。1箇所当たり0.25haを標準として設置されます。
涵養起源	降った雨が地下を通って特定の湧水へたどり着く「元となる場所」です。今回の調査では、降った雨（地下に浸透した雨）の1%以上がその湧水に届く範囲をシミュレーションで予測しています。
協働	多様な部門や組織が、共通の目標に向かって、それぞれの力を持ち寄り、対等の立場で協力してともに働くことです。
近郊緑地保全区域	首都圏近郊緑地保全法に基づき、首都圏などの都市近くで、豊かな自然を守るために国（国土交通大臣）が指定したエリアです。無秩序な開発を制限することで、災害を防いだり、私たちがリフレッシュしたりできる貴重な緑の環境を将来まで残します。
近隣住区モデル	学校を中心としたひとつの「生活のまとまり」を想定し、まちを計画する考え方です。住民が歩いて行ける範囲に、公園や施設をバランスよく配置するための基準となっています。
クールアイランド	大きい緑地は、日陰や植物の働きで周囲より気温が低い涼しい場所（クールアイランド）を形成します。そこから冷たい空気が周囲へ広がり、街を冷やすのが「にじみ出し現象」です。夏の暑さを和らげる大切な役割を果たします。
クラウド	インターネット上にデータやアプリケーションを保管し、必要な時に必要な分だけ使用できるようにしたサービスのことです。

グリーン インフラ	自然が持っている力や働きを、わたしたちの暮らしや社会を良くするために使う考え方や取組です。公園のみどり、屋上緑化、川、田んぼ、森などの自然そのものや自然の仕組みをまねた施設を暮らしを支え・豊かにする財産として計画的に活用することです。
景観作物	遊休農地や耕作放棄地などに植えられ、美しい風景を作る作物のことです。ヒマワリやコスモスなどが代表的で、地域の自然を守るだけでなく、観光客を呼んだり住民が交流したりする場所作りにも役立てられています。
グレー インフラ	コンクリートや鉄などを使ってつくられた、私たちの生活を支える人工的な施設のことです。例えば、道路、下水道、橋などがこれにあたります。
景観重要樹木	景観法に基づき、地域の良好な景観形成に特に重要な役割を果たす樹木を「景観重要樹木」として指定し、その保全を図る制度です。
健康資産	医療サービスを指すことが一般的でしたが、近年、公衆衛生やまちづくりの分野では、「人々の健康を維持・増進するために活用できる地域にあるすべての要素」というより広い意味で捉える考え方が主流になっています。
公園の利用頻度	みどりの市民アンケート調査により得られる公園の年間利用回数の平均です。
コロナ禍	新型コロナの流行による社会の混乱や苦境のことです。外出自粛やマスク着用など生活が大きく変わり、この変化をきっかけに生まれた「新しい日常」をニューノーマルと呼び、オンラインの活用などが当たり前になりました。
さ行	
再生可能 エネルギー	太陽光、風、水、地熱など、自然界に常に存在し、使い切る心配がないエネルギーのことです。二酸化炭素をほとんど出さないため、地球温暖化を防ぎ、環境を守りながら繰り返し使い続けられるクリーンな資源です。
里山	人里に隣接し、暮らしの中で手入れされてきた森林や農地のことです。人と自然が共生し、多様な生き物を育む環境です。
市域に占める 緑地率	都市公園、学校などの公共施設の植栽地、社寺などの民有地の植栽地、特別緑地保全地区や保護地区、生産緑地などの法律や条例で守られている緑地などのすべての緑地面積が市域に占める割合です。
市民緑地 認定制度	個人や企業が持つ土地を、地域の公園や広場として公開・管理する仕組みです。所有者が設置管理計画を作成し、市区町村から認定されると、そこがみんなの憩いの場になります。税金が安くなるなどのメリットもあり、街の緑を増やすために役立っています。
質問・答申	「質問」は、国や自治体が専門家や市民の代表からなる会議に「どうすべきか」と意見を求めることです。「答申」は質問に対して「こうすると良い」と答えを返すことです。
住区基幹公園	住んでいる場所から歩いて行ける、生活に身近な公園の総称です。大きさや役割によって「街区公園」「近隣公園」「地区公園」の3種類に分けられます。
樹林地・樹木の 担保性	緑地が開発されず、将来にわたって確実に残るように、法律や制度によって保証されている状態のことです。
生産緑地 特定生産緑地	「生産緑地」は、都市の農地を緑地として守る制度です。所有者は30年間農業を続ける条件で、税金が安くなります。その期限後に10年延長できる仕組みが「特定生産緑地」です。通常、この指定には500m ² 以上の広さが必要ですが、朝霞市では条例で「300m ² 以上」へと条件を緩和しました。これにより、少し小さな農地も守りやすくなっています。

8 用語の解説

生物多様性	地球上の多種多様な生きものたちが、互いにつながり合って、バランスがとれている状態のことです。「いろいろな環境がある（生態系）」「多くの種類がいる（種）」「個体ごとの個性がある（遺伝子）」の3つの豊かさを指す大切な言葉です。
た行	
脱炭素型交通	二酸化炭素（CO ₂ ）排出量を削減し、地球温暖化対策に貢献する交通システムや移動手段を指します。
地球温暖化	地球全体の大気の温度が、人間活動によって増えた二酸化炭素などの温室効果ガスのために、徐々に上がっていく現象です。この温暖化によって、異常気象や海面の上昇など、長期にわたる様々な変化が起こります。これが気候変動と呼ばれているものです。地球温暖化は、この気候変動の原因の一つであり、私たちの生活や生態系に大きな影響を与えるため、世界中で対策が急がれています。
調節池・調整池	大雨の際、川や下水道が溢れないよう水を一時的に溜める施設です。主に河川の洪水を防ぐ目的で、河川管理者が造るものを「調節池」と呼びます。一方、宅地開発などで雨水が急に流れ出さないよう、下水道や住宅地側に造るものを「調整池」といいます。どちらも下流の浸水被害を防ぐ「ダム」のような役割を果たします。
特別緑地保全地区	都市緑地法に基づき、都市の良好な自然環境を将来に残すために定める地区です。緑地保全の制度の中で最も規制が厳しく、建物の建築や宅地造成、木竹の伐採などが原則禁止され、現状のまま保存することが求められます。その代わり、土地所有者には税制上の優遇措置や、自治体に対する土地の買取請求権が認められています。
都市農業振興基本法	都市農業の安定的な継続を図るとともに、都市の農地を防災や環境保全に役立つ「都市の大切な財産」と位置づける法律です。新鮮な野菜の供給に加え、災害時の避難先や交流の場として、国や自治体が計画的に守り育てることを定めています。
都市公園の整備水準	市内の都市公園の総面積を市の人口で割った一人当たりの都市公園面積のことです。
都市のレジリエンス	都市が大地震などの突発的なショックや、気候変動や人口減少などの慢性的なストレスに直面した際に、その影響を最小限に抑え、適応し、回復し、さらに発展していく能力を指します。
都市緑地	都市計画内において、都市の自然環境の保全や改善、都市景観の向上を図るために設けられた、1箇所あたり0.1ヘクタール以上を目安とした緑地です。公園や庭、緑道なども含まれます。
都市緑地法	都市において、緑地の保全や緑化の推進について必要なことを定めた法律です。良好な都市環境を作り出し、健康で文化的な都市生活を確保することを目的としています。
な行	
ネイチャー・ポジティブ	2030年までに、減り続けている動植物などの自然の減少を止め、むしろ増やして「自然を回復させる」という世界的な目標です。
ネーミング・ライツ	公園や体育館等の施設に、企業名などを冠した愛称を付ける権利のことです。企業は宣伝ができ、市は得られた契約料を施設の維持管理や運営に役立てることができます。
は行	
バイオマス	植物や生ごみなど、生物から生まれた資源のことです。二酸化炭素（CO ₂ ）を増やさない、環境に優しいエネルギー源です。

バリアフリー ・ ユニバーサルデザイン ・ インクルーシブデザイン	バリアフリーは、段差の解消など、高齢者や障害者にとっての物理的・心理的な「障壁」を取り除く対処法です。対してユニバーサルデザインは、年齢や能力にかかわらず、最初から「すべての人が使いやすい」状態を目指す設計思想を指します。さらに近年重視されるインクルーシブデザインは、これまで利用が難しかった人々の声を計画段階から取り入れ、多様なユーザーと共に作り上げる手法です。これらを組み合わせ、誰もが自分らしく過ごせる公園づくりが求められています。
ヒートアイランド現象	都市部の気温が郊外より高くなる現象のことです。アスファルトや排熱の影響で熱がこもり、等温線を描くと都市が海に浮かぶ島のように見えることから名付けられました。
プレーパーク	「自分の責任で自由に遊ぶ」を理念とする冒険遊び場のことです。既製の遊具に頼らず、廃材や土、火、工具などを使い、こどもが自らの発想で遊びを作り出せるのが特徴です。プレーリーダーがこどもの自主性や創造的な活動を支えます。
保護地区 ・ 保護樹木	朝霞市緑化推進条例に基づき、特に保護すべき樹木や樹林地を「保護樹木」や「保護地区」として指定し、その保全を図る制度です。「保護地区・保護樹木」に登録されると維持管理に係る経費の一部を助成するために年に一回、固定資産税額や指定経過年数に応じて奨励金が交付されます。
ま行	
みどりの満足度	みどりの市民アンケート調査における問 1-a 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」の回答（そう思う（1.0）～そう思わない（-1.0）までの5段階評価）の平均です。
武藏野台地	関東平野の西部、多摩川と荒川に挟まれた地域に広がる、平らで小高い地形のことです。火山灰土（関東ローム層）が厚く積もっています。
や行	
屋敷林	家屋の周りに設けられた樹木の集まりで、風や日差し、雪から家や集落を守り、生活に役立つ多様な機能を持つ林のことです。特に家々が孤立している場合は有効です。
ら行	
リモートセンシング	人工衛星や航空機を使い、離れた場所から地上を観測する技術です。電磁波などを利用して、対象に直接触れずに形や温度、植生の状況を測定します。気象予報や災害状況の把握に大切な役割を果たしています。
緑地種別	緑地には、大きく分けて「施設緑地」と「地域制緑地」の2種類があります。「施設緑地」は都市公園や広場、学校や市役所の植栽地、神社やお寺の境内のみどりなど、建物や施設に合わせて整備されたみどりのことです。「地域制緑地」は、法律や条例で開発が制限されている場所で、特別緑地保全地区（貴重な森など）や生産緑地（農地）などがこれにあたります。
緑肥	栽培した植物（緑肥作物）を収穫せずにそのまま土壤にすき込み、次に栽培する主作物の肥料成分や土壤改良材として活用する農業技術です。緑肥として、イネ科やマメ科の植物が使われることがあります。
緑被地	空から見て、樹木や草などの植物で覆われている土地のことです。
緑被率	その地域全体の中で、緑被地が占める割合（%）のことです。まちの自然の豊かさを測る目安になります。

8 用語の解説

緑化重点地区	緑化重点地区とは、都市緑地法第4条第2項第10号の規定に基づき定められた「緑化地域以外の区域であって重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」のことです。義務的な規制を伴う区域とは異なり、行政と市民が協力して優先的に緑化を進めるエリアです。公共による都市公園等の整備に加え、民有地における住宅の庭や商業施設などのみどりを大切にしながら、将来にわたってみどり豊かな住環境を共に育んでいくことを目指しています。
ローリング方式	計画の策定後、固定的に運用するのではなく、一定の期間（毎年度や数年ごとなど）ごとに計画内容の見直しを行う手法のことです。社会情勢の変化や、事業の進捗状況、財政状況などを踏まえ、計画と実態との乖離を防ぐために修正・補正を加えることで、計画の実効性を維持・向上させることを目的としています。
わ行	
ワークショップ	参加者が主役となって体験したり話し合ったりする「体験型講座」のことです。全員が対等に意見を出し合い、協力して新しいアイデアを生み出したり、問題を解決したりすることを目指します。
アルファベット	
ABINC (エイビング) 認証	企業が生物多様性に配慮した緑地づくりや管理に取り組んでいるかを評価・認証する制度で、「いきもの共生事業所認証」とも呼ばれます。オフィスビル、商業施設、工場、集合住宅などが対象で、自然と共生する社会を目指す企業活動を促進します。
AI (エーアイ)	AIとは、「人工知能 (Artificial Intelligence : アーティフィシャル・インテリジェンス)」の略称です。現在は、大量のデータから法則を学び特定の役割をこなす「機械学習」という技術が主流で、蓄積された情報から最適な答えを探し出す「便利な道具」として普及しています。人間のように自ら考え判断するレベルのAIについては、将来の実現が期待されている高度な段階であり、現在の技術とは性質が異なるものです。行政分野のデジタルトランスフォーメーション (DX)においては、こうしたAI技術を活かし、画像解析による樹木の健康診断や公園の利用状況の分析など、より効率的で質の高い「みどりの管理」への活用が期待されています。
CSR 活動	企業が利益だけでなく、環境保護や地域貢献など、企業の社会的責任を果たす取り組みです。信頼される企業として長く生き残るために欠かせず、活動を通じてブランド価値の向上や優秀な人材の確保に繋がります。
DX (デジタルトランス フォーメーション)	デジタル技術を使って生活や社会をより良く変えることです。公園では、データ活用による効率的な管理やスマホでの予約など、最新技術で利便性や満足度を高める取組が挙げられます。
J-クレジット 制度	森林整備や省エネ設備の導入による CO ₂ の削減量を、国が「価値」として認める制度です。この削減量は企業などが買い取ることができ、社会全体で温暖化対策を進めるための仕組みとして注目されています。
NPO (エヌピーオー)	Non-Profit Organization の略称で、福祉や環境保護など、社会を良くするために活動する民間のグループのことです。活動で得た利益はすべて、次の人の助けや環境保護などの活動資金に充て、社会のために使い切ります。

Park-PFI (パーク・ ピーエフアイ)	都市公園において、飲食店、売店などの公園利用者の利便性向上に資する公募対象公園施設（特定公園施設）の設置・管理を行う民間事業者を、公募により選定する仕組みです。この事業者は、施設から得られる収益を、公園全体の園路、広場、植栽などの特定公園施設の整備や管理に還元します。
SEGES (シージェス)	「社会・環境貢献緑地評価システム」の略で、企業が所有・管理する緑地の価値やその取組を客観的に評価する「緑の認定」制度です。ビルやマンションの緑化が、防災や環境保全にどれほど貢献しているかを評価・認定し、企業の信頼や建物の価値を高める役割を担っています。
SDGs (エスディージーズ)	「持続可能な開発目標」の略称です。これは 2015 年の国連の会議で 2030 年までの達成を目指して世界共通で決められた 17 個の目標のことを指します。貧困や飢餓をなくすことから、地球温暖化などの環境問題への対策、ジェンダー平等、働きがいのある社会づくりまで幅広い目標が位置付けられています。SDGs の達成には国や企業だけでなく私たち一人ひとりの行動が大切になります。
SNS (エスエヌエス)	インターネットを通じて、家族や友人、あるいは共通の趣味を持つ人とつながるサービスです。文字や写真で自分の日常を発信したり、誰かの投稿に反応したりすることで、国境を越えた交流や情報交換が楽しめます。
TSUNAG (ツナグ) 認証	TSUNAG (ツナグ) 認定制度は、国土交通省による「優良緑地確保計画認定制度」の通称で、都市緑地法に基づき、民間事業者等による良質な緑地確保の取組を国土交通大臣が評価・認定する制度です。TSUNAG 認定を取得すると、「地球に優しい会社」としてアピールでき多くの人の信頼を得ることに役立ちます。また、世界的な投資の評価も上がり、自然を守るための取組をわかりやすく公開できるようになります。
Well-Being (ウェル・ ビーイング)	ただ病気ではないという状態を超えて、心も体も良い状態にあることを意味する言葉です。日本語では「幸福」や「良好な状態」と訳されます。生きがいを感じたり、人間関係が良好だったり、将来に希望を持ったりするなど、持続的な幸せを感じられる状態を指します。